平成 25 年度
国分寺市埋蔵文化財調査年報

平成 27 年 3 月
国分寺市教育委員会

序　文

国分寺市は、平成 26 年度に市制施行 50 周年の節目を迎えました。市制を施行した翌年の昭和 40 年度からは、国指定史跡武蔵国分寺跡 附東山道武蔵道跡の公有化事業に着手し、現在に至るまで事業を継続して実施しています。その結果、現在までに史跡の公有化率は約 73%にまで達しています。国分寺市の文化財保護の歴史は、史跡の公有化事業とともに歩んできた 50 年と言えるかもしれません。

このようななか、首都近郊にあって武蔵野の面影を残す住宅都市として発展を遂げてきた市では、周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事が、最近 10 ヶ年は年間約 170 ～ 180 件前後で推移してきています。これらの中には事前の発掘調査を必要とする工事があり、市内では、これまでに約 800 箇所を超える地点で調査が行われています。こうした調査の積み重ねが、市の歴史解明に大きく寄与してきたことはいうまでもありません。

平成 25 年度は、個人住宅建築に伴う本発掘調査を 7 件、賃貸・分譲住宅等建設に伴う確認調査を 3 件、遺跡の範囲及び性格を探る目的で実施した調査 1 件の、合計 11 件に及ぶ発掘調査を行いました。調査の詳細は本書に譲りますが、武蔵国分寺に関わる古代の大型掘立柱建物や、恋ヶ窪遺跡・殿ヶ谷戸遺跡では旧石器時代・縄文時代の生活の痕跡が確認されました。本報告書が地域の歴史解明に向けての一助となりましたら望外の喜びです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品等整理作業・報告書刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました事業者の方々はもとより、御指導を頂きました関係機関・各位に対しまして、心より御礼を申し上げます。

平成 27 年 3 月 31 日

国分寺市教育委員会
教育長　松井　敏夫

例　言

1．本書は、東京都国分寺市において、平成 25 年度に国分寺市教育委員会が国庫補助事業として実施した市内遺跡の発掘調査報告書である。調査対象遺跡は、個人住宅建設に伴う本発掘調査、および集合住宅等建設・遺跡の性格把握を目的とした確認調査で、6 遺跡 11 地点である。

2．発掘調査（平成 25 年度）および出土品等整理作業・報告書作成作業（平成 26 年度）にかかる経費は、文化庁の「国宝重要文化財等保存整備費補助金」を得て実施した。費用の負担割合は国 1/2、東京都 1/4、国分寺市 1/4 である。

3．発掘調査・出土品等整理作業は、国分寺市教育委員会が調査主体となり、国分寺市遺跡調査会（会長：坂誥秀一）に委託して実施した。

4．発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成作業は、下記のメンバーが従事した。
中道　誠・上敷領　久・依田亮一・増井有真（平成 26 年度）・中元幸二（平成 25 年度）
（以上、国分寺市教育委員会ふるさと文化財課史跡係）
井口正利・井上　翔・岩崎　洋・梅宮　誠・大塚敦子・小野祐子・大羽正子・桂　弘美・神田将志・小池和彦・佐藤　令・島田智博・瀬尾晶太・相馬しのぶ・高崎修吾・平塚恵介・廣瀬真理子・藤崎　努・細野貴志・松本隆志（以上、国分寺市遺跡調査会）
青山達夫・伊藤直美・高橋より子・山口啓子（以上、国分寺市シルバー人材センター）
梅山伸二・小此木ヒサエ・梶木義治・上村雄三・佐々木義身・田中康敬・藤野敬文（以上、国分寺市ふるさと文化財愛護ボランティア）

5．本書の編集・執筆は、坂誥秀一調査団長の指導のもとで、上敷領　久・中道　誠・依田亮一が担当し、執筆分担は次の通りである。
上敷領　久　　第１章、第２章第１節・第２節・第３節（３・４）、第３章
中道　誠　　第２章第３節（２）の遺構
依田亮一　　第２章第３節（１）、（２）の遺物観察表
河野礼子・梶ヶ山真里　　第２章第３節（１）の出土人骨

6．本書の挿図・表等の作成は、マイクロソフト社「ワード」・「エクセル」、アドビ社「イラストレーター」・「フォトショップ」・「インデザイン」等の各ソフトを使用した。

7．出土品や各種図面・写真類は、一括して国分寺市教育委員会で保管している。

8．発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成作業では、下記の方々から御指導・御協力を賜った。
安食和憲・大戸ゆい・大戸　亮・金子健一・金子トミ・栗原慎一・齋藤和憲・宍戸安恵・白木智子・冨永卓男・永澤シズ・株式会社藤木工務店東京支店・株式会社プレーンウッド・
大和ハウス工業株式会社武蔵野支店・森永建設株式会社
荒井健治・池田　治・伊藤敏行・岩田尋湖・内田和伸・江口　桂・岡崎完樹・大八木謙二・小川　望・木村吉行・久保田　尚・黒尾和久・黒尾大地・合田恵美子・酒井清治・桜井準也・佐藤　信・渋江芳浩・鈴木　誠・武川夏樹・塚原二郎・冨澤　好・永澤較一郎・永田史子・中山真治・野口　舞・野澤　康・野田憲一郎・服部哲則・廣瀬真理子・藤井恵介・星野亮雅・松井敏也・山下信一郎・湯瀬禎彦
文化庁記念物課・東京都教育庁地域教育支援部管理課埋蔵文化財係・国分寺市文化財保護審議会・
国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会・国分寺市遺跡調査会調査研究指導委員会・
独立行政法人国立科学博物館人類研究室（順不同・敬称略）

凡　例

1．国分寺市では、№10・19遺跡である武蔵国分寺跡（僧尼寺）の広大な範囲を統一して調査するため、局地座標系を用いている。
　座標原点は僧寺伽藍中軸線を基準に、金堂中心の北26.276ｍの中軸線上の点（コンクリート埋設）である。僧寺中軸線は、真北から7°07′01″、磁北から0°37′01″それぞれ西偏する。この座標原点を中心に象限をⅠ～Ⅳに大別し、中心点からの距離をN・S・E・Wで表す。さらに、本文中および図面のグリッド表示の数字は、南と西に接する基準線に与えた記号の組み合わせにより呼称する。東西基準線はアルファベット２文字で表す。１文字目は原点をAとし、60ｍごとにＢ・Ｃ・Ｄ…とふり、２文字目はその内をＡ３ｍごとに20区に分けＡ～Ｔとふっている。南北基準線は数字で表し、原点を０として以下東西ともに３ｍごとに１・２・３…とふった。
　なお、遺跡記号はＭＫ（武蔵国分寺の略）にⅠ～Ⅳの各象限を続けたものに、調査次数を付して表示している（図１参照）。

2．上記以外の市内遺跡の座標は世界測地系の第９系を用いている。ただし、その基準点は平成23年３月11日の東北地方太平洋沖地震の影響を受けて変動しているが、従来の測量成果簿を使用している。

3．国分寺市域で用いる層位区分は、表土（Ⅰ層）下の黒褐色土を黒色味が強い上層（Ⅱ層）と、ローム層への漸移層である下層（Ⅲ層）に細分している。そのため、黒色土をⅡ層、Ⅲ層以下をローム層にあてる、一般的な武蔵野台地上の遺跡における層序区分とは呼称が若干異なっている。本書で報告する調査対象地は、武蔵野段丘面と立川段丘面とに存在するが、堆積土層は下記のとおりほぼ共通した層序区分を示す（図２参照）。

Ⅰ層　表土。近～現代の盛土、および耕作土。層厚30～50cm。

Ⅱ層　黒褐色土。粒子が粗い。締まりはやや弱い。粘性は弱い。古代～中世の遺物を包含し、古代の遺構覆土に似る。層厚約10～15cmだが、市内では削平されていることが多い。

Ⅲａ層　黒褐色土。粒子はやや粗い。粘性はやや弱い。層厚約10～15cm。同層上面が本来的な古代の遺構確認面であるが、Ⅱ層と類似した土質であることから、この下層において遺構を視覚的に検出することが多い。

Ⅲｂ層　暗褐色土。Ⅲａ層より明るく、褐色味が強くなる。軟質で粘性はやや弱いが、Ⅲｃ層に近づくに連れて粘性が強くなる。縄文時代中期の遺物を包含する。層厚約30～40cm。

Ⅲｃ層　茶褐色土・暗黄褐色土。縄文時代早～前期の遺物を包含する。ローム層への漸移層で、赤色スコリアを多量に含む。層厚約10～15cm。

Ⅳ層　黄褐色土。ソフトローム。Ⅴ層との境は凹凸が激しい。層厚約15～25cm。

Ⅴａ層　黄褐色土。ハードローム。色調によってａ・ｂの２層に分けられる。下層にいくに従い黄色味が薄くなり灰褐色味を帯びてくる。その色調は漸移的に変化する。赤色・黒色スコリアを多量に含む。部分的にⅤｂ層と中間の色調を有する部分がある。

Ⅴｂ層　暗灰褐色土。ハードローム。色調はⅤａとⅥ層の中間。

Ⅵ層　暗褐色土。立川ローム第一黒色帯。スコリアは細かく、全体に粒子緻密。やや粘性を増す。

Ⅶ層　黄褐色土。黄色味が強く、明るい。Ⅶ層へは漸移的に移行し、境界はやや不明瞭。削るとジャリジャリする（ＡＴ層）。

Ⅶａ層　褐色土。立川ローム第二黒色帯。Ⅶ層下部に似て、やや暗くなり始めるところから本層とし、削るとジャリジャリする。

Ⅶｂ層　暗褐色土。立川ローム第二黒色帯。より色調が暗くなる。粒子が細かく、緻密で粘性がある。

Ⅶｃ層　暗褐色土。立川ローム第二黒色帯。緻密で粘性が強くなる。

Ⅶｄ層　Ⅶ層からⅨ層への漸移層。

Ⅸ層　黒褐色土。立川ローム第二黒色帯。より黒色味が増し、細粒で下部にいくに従い緻密で、粘性が強くなる。下部の５～10cmはＸ層の影響からか明るい部分もある。

Ⅹ層　黄褐色土。粒子極めて細かく、緻密で粘性のあるローム土。

4．調査における写真記録は、原則２種類の35mmフィルム（カラーポジ・モノクロネガ）とデジタルカメラを併用して行った。また、場合によっては中判フィルム（モノクロネガ）にて撮影した。

5．図面については、全体図は１/100、遺構平面図は１/20、断面図は１/20で記録している。

6．調査地点位置図・遺構図面は、図面上が座標北を示す。縮尺は適宜スケールバーで示した。調査地点位置図は縮尺を１/2,500、土層断面図および柱状図の縮尺は１/40に統一した。

7．遺跡名については、№10・19遺跡以外の調査については、Ｋ（国分寺の略）に遺跡番号を続けたものに次数を付して表示している。

8．遺構は遺跡ごとにほぼ発見順に連続番号を付し、下記の遺構記号を冠して表示する。また、縄文時代の遺構は遺構番号末尾に J を付し、P は遺構記号の後ろに J を付して歴史時代の遺構と区別している。

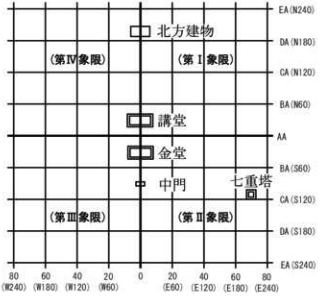
SB：掘立柱建物　SI：竪穴住居　SD：溝　SK：土坑　SF：道路　SX：性格不明遺構
SZ：土坑墓　P：小穴　ST：石器集中部（ユニット）　SR：礫群

9．遺物は、各調査において種別毎に連続番号を付し、下記の遺物記号を冠して表示する。

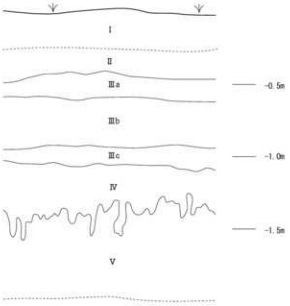
【歴史時代】土器類（PH：土師器、PK：須恵器、PL：土師質土器、 PT：中近世陶器）
瓦塼類（KA：鐙瓦、KB：宇瓦、KC：男瓦、KD：女瓦、KH：塼）
石製品（GL：砥石）
金属類（MA：銭貨銅製品、MM：釘鉄製品）
【縄文時代】土器類（JB：早期前半、JE：中期前半、JF：中期後半）
石器類（AG：打製石斧、AM：抉入磨石、AT：剥片）
【旧石器時代】石器（FL：剥片、FM：破片、FN：叩き石、FR：台石、FY：原材）

10．遺物の縮尺は次のとおりに統一し、適宜スケールバーで示した。また、写真図版についても、おおむね下記のスケールに統一している。
土器類：1／3、瓦：1／4、鉄製品：1／2、縄文時代石器：1／3、旧石器時代石器：1／3

11．遺物の記述については一覧表とし、原則として図面番号順に列記してある。遺物観察表における法量のうち、完存しているものは括弧なしで全長数値を表し、（　）は残存数値、((　))は復元数値を表す。「－」は計測できないものを表す。



（図１）武蔵国分寺跡の調査基準線



（図２）国分寺市内の基本層序

本文目次

序文
例言
凡例
本文目次
挿図目次
写真目次
表目次

第１章　埋蔵文化財行政のあらまし …… 1

第２章　平成 25 年度に実施した発掘調査 …… 10

第１節　遺跡の概要 …… 10

第２節　本発掘調査 …… 11
（１）武蔵国分寺跡第 696 次調査 …… 11
（２）武蔵国分寺跡第 697 次調査 …… 12
（３）恋ヶ窪遺跡第 93 次調査 …… 14
（４）多摩蘭坂遺跡第 12 次調査 …… 17
（５）殿ヶ谷戸北遺跡第６次調査 …… 18
（６）殿ヶ谷戸遺跡第 14 次調査 …… 22
（７）殿ヶ谷戸遺跡第 15 次調査 …… 25

第３節　確認調査 …… 32
（１）武蔵国分寺跡第 695 次調査 …… 32
（２）武蔵国分寺跡第 699 次調査 …… 58
（３）殿ヶ谷戸北遺跡第５次調査 …… 65
（４）№ 29 遺跡第２次調査 …… 77

第３章　まとめ …… 79

抄録
奥付

挿図目次

第１図　国分寺市の地形模式図 …… 1
第２図　国分寺崖線と湧水 …… 1
第３図　発掘調査面積の推移 …… 3
第４図　平成 25 年度調査地点位置図…… 8・9
第５図　武蔵国分寺跡伽藍配置模式図 …… 10
第６図　MK Ⅱ－696 調査地点位置図 …… 11
第７図　MK Ⅱ－696 調査区全体図 …… 11
第８図　調査区土層柱状図・P-1 土層断面図 …… 11
第９図　MK Ⅲ－697 調査地点位置図 …… 12
第 10 図　MK Ⅲ－697 調査区全体図 …… 12
第 11 図　土層柱状図 …… 12
第 12 図　武蔵国分寺尼寺と周辺の発掘調査状況 … 13
第 13 図　K2－93 調査地点位置図 …… 14
第 14 図　K2－93 調査区全体図 …… 14
第 15 図　調査区南壁土層柱状図 …… 14
第 16 図　SI160J 使用時完掘平面図 …… 15
第 17 図　SI160J 構築時完掘平面図 …… 15
第 18 図　SI160J 土層断面図 …… 15
第 19 図　P- 1・2 土層断面図 …… 15
第 20 図　出土遺物実測図 …… 16
第 21 図　K7－12 調査地点位置図 …… 17
第 22 図　K7－12 調査区全体図 …… 17
第 23 図　東壁土層柱状図 …… 17
第 24 図　K20－6 調査地点位置図 …… 18
第 25 図　K20－6 調査区全体図 …… 18
第 26 図　A トレンチ遺物出土状況及び接合関係図 19
第 27 図　B トレンチ遺物出土状況及び接合関係図 19
第 28 図　出土遺物実測図 …… 21
第 29 図　K21－14 調査地点位置図 …… 22
第 30 図　K21－14 調査区全体図 …… 22
第 31 図　A トレンチ南側土層柱状図 …… 22
第 32 図　出土遺物実測図 …… 22
第 33 図　K21－15 調査地点位置図 …… 24
第 34 図　K21－5 調査区全体図 …… 24
第 35 図　土層柱状図 …… 24
第 36 図　出土遺物実測図（１） …… 26
第 37 図　出土遺物実測図（２） …… 27
第 38 図　MK Ⅰ－695 調査地点位置図 …… 32
第 39 図　武蔵国分寺伽藍と第 695・696・699 次調査地点位置関係図…… 33
第 40 図　賃貸住宅建設計画とトレンチ配置図 …… 34
第 41 図　MK Ⅰ－695 調査区全体図 …… 35
第 42 図　中世墓 SZ35 ～ 40…… 36
第 43 図　SB87 全体図 …… 39
第 44 図　SB87 柱穴詳細図 …… 40
第 45 図　SB87 出土遺物及び関連遺物 …… 41
第 46 図　SB237 全体図 …… 42
第 47 図　SB235 全体図 …… 43
第 48 図　出土遺物実測図（１） …… 44
第 49 図　出土遺物実測図（２） …… 45
第 50 図　出土遺物実測図（３） …… 46
第 51 図　出土遺物実測図（４） …… 47
第 52 図　出土遺物実測図（５） …… 48
第 53 図　MK Ⅳ－699 調査地点位置図 …… 58
第 54 図　MK Ⅳ－699 調査区全体図 …… 59
第 55 図　東山道武蔵路跡 SD427･428 全体図 …… 60
第 56 図　東山道武蔵路土層断面図 …… 61
第 57 図　出土遺物実測図 …… 64
第 58 図　K20－5 調査地点位置図 …… 65
第 59 図　K20－5 調査区全体図 …… 65
第 60 図　調査区全体図及び遺物出土状況・接合関係図…… 66
第 61 図　出土遺物実測図（１） …… 69
第 62 図　出土遺物実測図（２） …… 70
第 63 図　出土遺物実測図（３） …… 71
第 64 図　出土遺物実測図（４） …… 72
第 65 図　出土遺物実測図（５） …… 73
第 66 図　K29－2 調査地点位置図 …… 77
第 67 図　K29－2 調査区全体図 …… 77
第 68 図　土層柱状図 …… 77
第 69 図　出土遺物実測図 …… 78

写真目次

写真１　A トレンチ全景（東から）…… 11
写真２　B トレンチ全景（西から）…… 11
写真３　調査区全景（南から）…… 12
写真４　調査区全景（南から）…… 12
写真５　調査区全景（南から）…… 14
写真６　出土遺物写真…… 16
写真７　調査区南壁断面（北から）…… 17
写真８　A トレンチ遺物出土状況（南から）…… 18
写真９　A トレンチ全景（南から）…… 18
写真 10　調査風景（南から）…… 19
写真 11　B トレンチ北壁断面（南から）…… 20
写真 12　B トレンチ遺物出土状況（北から）…… 20
写真 13　B トレンチ遺物出土状況（南から）…… 20
写真 14　B トレンチ全景（南から）…… 20
写真 15　出土遺物写真 …… 21
写真 16　調査区全景（北から）…… 23
写真 17　C トレンチ全景（南から）…… 23
写真 18　A トレンチ全景（南から）…… 23

写真 19　Ｂトレンチ全景（南から）…… 23
写真 20　出土遺物写真 …… 24
写真 21　調査区東側全景（南から）…… 26
写真 22　Ⅲ層遺物出土状況（西から）…… 26
写真 23　西壁セクション（東から）…… 26
写真 24　調査区全景（南から）…… 26
写真 25　出土遺物写真（１）…… 30
写真 26　出土遺物写真（２）…… 31
写真 27　SZ37・SZ39 出土人骨 …… 38
写真 28　Ｅトレンチ砂埋戻し状況（東から）…… 52
写真 29　Ｂトレンチ遺物出土状況（北から）…… 52
写真 30　Ｂトレンチ東側全景（東から）…… 52
写真 31　Ｆトレンチ SB235（南から） …… 52
写真 32　SI817 検出状況（東から）…… 52
写真 33　SI818 検出状況（北東から）…… 52
写真 34　Ｄトレンチ全景（東から）…… 53
写真 35　Ａトレンチ全景（東から）…… 53
写真 36　Ｃトレンチ全景（西から）…… 53
写真 37　Ｅトレンチ全景（南から）…… 53
写真 38　SB87 柱穴確認状況（東から） …… 53
写真 39　SZ37 ～ 40（北から）…… 54
写真 40　SZ38 ～ 40（西から）…… 54
写真 41　SZ37 人骨出土状況（西から） …… 54
写真 42　SZ38 人骨出土状況（南から） …… 54
写真 43　SZ36 かわらけ出土状況（南から） …… 54
写真 44　Ｂトレンチ土層堆積状況（北西から）…… 54
写真 45　出土遺物写真（１）…… 55
写真 46　出土遺物写真（２）…… 56
写真 47　出土遺物写真（３）…… 57
写真 48　トレンチ全景（西から）…… 63
写真 49　掘り込みＤ断面（北から）…… 63
写真 50　SD427 断面（北から） …… 63
写真 51　SD428 断面（北から） …… 63
写真 52　出土遺物写真 …… 64
写真 53　Ｃトレンチ全景（東から）…… 67
写真 54　Ａトレンチ遺物出土状況（東から）…… 67
写真 55　Ａトレンチ遺物出土状況（西から）…… 67
写真 56　Ａトレンチ全景（東から）…… 67
写真 57　Ｂトレンチ遺物出土状況（南から）…… 68
写真 58　拡張区遺物出土状況（南から）…… 68
写真 59　拡張区遺物出土状況（西から）…… 68
写真 60　拡張区遺物出土状況（西から）…… 68
写真 61　出土遺物写真（１）…… 74
写真 62　出土遺物写真（２）…… 75
写真 63　出土遺物写真（３）…… 76
写真 64　遺物出土状況（東から）…… 77
写真 65　出土遺物写真 …… 78

表目次

第１表　届出・通知および調査件数 …… 2
第２表　届出・通知の指示内容と割合 …… 2
第３表　発掘調査面積の推移 …… 2
第４表　平成 25 年度届出・通知一覧（１）…… 4
第５表　平成 25 年度届出・通知一覧（２）…… 5
第６表　平成 25 年度届出・通知一覧（３）…… 6
第７表　平成 25 年度届出・通知一覧（４）…… 7
第８表　K2 － 93 遺物観察表（縄文時代土器） … 16
第９表　K20 － 6 遺物観察表（旧石器時代） …… 21
第 10 表　K21 － 14 遺物観察表（縄文時代土器）… 24
第 11 表　K21 － 15 遺物観察表（縄文時代土器） 29
第 12 表　K21 － 15 遺物観察表（縄文時代石器） 29
第 13 表　MK Ⅰ － 695 遺物観察表（１） …… 49
第 14 表　MK Ⅰ － 695 遺物観察表（２） …… 50
第 15 表　MK Ⅰ － 695 遺物観察表（３） …… 51
第 16 表　MK Ⅰ － 699 遺物観察表 …… 63
第 17 表　K20 － 5 遺物観察表（旧石器時代）…… 68
第 18 表　K20 － 5 遺物観察表２（旧石器時代） … 73
第 19 表　K29 － 2 遺物観察表（旧石器時代）…… 78

第１章　埋蔵文化財行政のあらまし

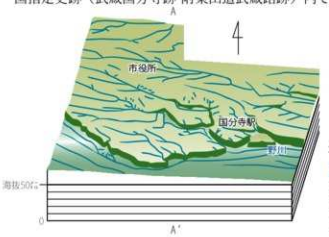
国分寺市は、通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境として、地形的に北と南に分けられています。国分寺崖線は、古多摩川が武蔵野台地を 10 万年以上の歳月をかけて削りとって形成された河岸段丘の連なりを指し、東西の長さは約 30km にわたります。北と南の標高差（崖高）は 10 ～ 20 m をはかります。崖面には樹林や湧水などの豊かな自然環境が見られ、この崖線上を武蔵野段丘、崖下を立川段丘と呼んでいます。立川段丘は約４～５万年前に形成されましたが、本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷・恋ヶ窪谷のようにいくつもの溺れ谷が残っているため、崖線下から湧く水はこれらの谷を通って集まり野川となります。こうした起伏に富む豊かな自然環境のもと、野川を中心に市内には人類が日本列島に住み始めた旧石器時代以来の生活痕跡が多く残されています。そして、奈良時代には、市名の由来となった武蔵国分寺が国分寺崖線を背にして建立されました。

先人がこの土地に残した遺構や遺物（埋蔵文化財）を保存・活用し、現在を生きる私たちの文化的向上に役立てていくことは大切なことです。「文化財保護法」（以下「法」という）では、国や地方公共団体に対し、遺跡である「埋蔵文化財を包蔵する土地」（以下「包蔵地」という）を的確に把握し、周知の徹底に努めるように求めています（法第 95 条第１項）※1。国分寺市では、現在 58 か所の包蔵地が確認されています。そのうち、武蔵国分寺跡の中枢部周辺と、東山道武蔵路の一部については、国の史跡に指定されています。

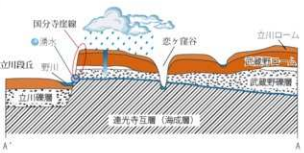
包蔵地の範囲内で土木工事を行う場合には、埋蔵文化財保護の観点から、法に基づいて着手しようとする日の 60 日前までに届出（法第 93 条第１項）※2、もしくは通知（法第 94 条第１項）※3を行う必要があります。届出（通知）は国分寺市教育委員会を通して東京都教育委員会に進達され、工事が埋蔵文化財に与える影響を考慮して必要な措置が都から届け者に対して指示されます。

市内では、地表からおよそ 40 ～ 100㎝下に遺構が眠っており、工事がこれより深い場合は埋蔵文化財の保存に影響が及ぶ可能性があります。その影響が軽微な場合には、市職員の立会のもとに工事を行います（立会調査）。埋蔵文化財が壊される可能性があると判断される場合、遺跡の状況を探る確認調査を行い、その結果、事業者と協議の上でやむを得ず開発により遺跡を壊すことになった場合には、事前に記録保存調査を行います（本調査・事前調査）。その費用については原因者に負担をお願いしています。

国指定史跡（武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡）内で工事などによって現状を変更する場合については、



第１図　国分寺市の地形模式図



第２図　国分寺崖線と湧水

文化庁長官の許可を受けなければなりません（法第 125 条）※4。また、同工事によって地下を掘削する場合は、さらに埋蔵文化財発掘の届出もしくは通知の提出が必要となります。

【文化財保護法】抜粋（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号・最終改正　平成 23 年 5 月 2 日法律第 37 号）

※1　（埋蔵文化財包蔵地の周知）第 95 条第 1 項

国及び地方公共団体は周知の埋蔵文化財包蔵地について、資料の整備その他その周知の徹底を図るために必要な措置の実施に努めなければならない。

※2　（土木工事のために発掘に関する届出及び指示）第 93 条第 1 項

土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝づか、古墳その他の埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地（以下「周知の埋蔵文化財包蔵地」という。）を発掘しようとする場合には、前条第 1 項の規定を準用する。この場合において同項中「30 日前」とあるのは、「60 日前」と読み替えるものとする。（調査のための発掘に関する届出、指示及び命令）第 92 条第 1 項

土地の埋蔵されている文化財（以下「埋蔵文化財」という。）について、その調査のため土地を発掘しようとする者は、文部科学省の定める事項を記載した書面をもって、発掘に着手しようとする日の 30 日前までに文化庁長官に届け出なければならない。

※3　（国の機関等が行う発掘に関する特例）　法第 94 条第 1 項

国の機関（中略）が前条第 1 項に規定する目的で周知の埋蔵文化財包蔵地を発掘しようとする場合においては、同条の規定を適用しないものとし、当該国の機関等は、当該発掘に係る事業計画の策定に当たって、あらかじめ文化庁長官にその旨を通知しなければならない。

※4　（現状変更等の制限及び原状回復の命令）第 125 条

史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置（中略）、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りではない。

第 1 表　届出・通知および調査件数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
93条	152	151	146	170	184
94条	20	38	42	49	39
125条	5	4	2	7	1
計	**177**	**193**	**190**	**226**	**224**
調査	15	22	20	23	23

※平成24年度届出・通知のうち93条 2 件，94条 1 件は事業中止。

第 2 表　届出・通知の指示内容と割合

指示内容内訳	件数	割合
事前調査	11	5%
確認調査	15	7%
立会調査	193	88%
慎重工事	0	0%

近年の埋蔵文化財の届出（通知）は，おおむね約 170 ～ 190 件で推移してきましたが，平成 24 年度では 200 件を超え，平成 25 年度も同様に 200 件を超えました。平成 25 年度における史跡の現状変更許可申請書（法第 125 条）は，武蔵国分寺跡史跡整備工事の市立歴史公園整備事業に伴う国分寺市教育委員会が申請したものです。平成 25 年度における発掘調査の指示は 14 件ありましたが，次年度に行った調査が 3 件あったため，調査は 11 件となっています。

第 3 表　発掘調査面積の推移（単位：㎡）

			平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
土木工事等に伴う調査	事業者負担による調査	①民間企業	7374	28	0	0	0
		②公共機関	0	0	0	4000	326
	補助金による調査	**③事前調査**	**46**	**146**	**146**	**94**	**216**
		④確認踏査	**254**	**290**	**50**	**155**	**360**
		⑤試掘調査	**0**	**0**	**40**	**7**	**0**
学術的調査		⑥遺構確認調査	676	749	505	314	0

第３図　発掘調査面積の推移

平成 21 年度を除き、平成 22 年度より調査面積の減少傾向は続いています。同時に開発工事による発掘調査件数も減少しており、特に平成 25 年度は 11 件と近年最も少ないもので、民間の大型開発に伴う発掘調査はありませんでした。また、公共事業としては都立小金井特別支援学校仮設校舎の建築に伴う事前調査を行った結果②が増加しています。本書では③・④にあたる国庫補助金支出の調査成果をまとめています。

なお、国分寺市では現在、法第 125 条の申請に基づき、史跡武蔵国分寺跡（僧寺）の規模や配置、構造を追究し、歴史公園整備のためにとしての開園を目指して事前遺構確認調査や工事を進めています。また、こうした文化財を保護し、後世に伝えていくために、発掘調査以外にも文化財の調査成果の公開、普及活動など様々な事業を行っています。発掘調査によって出土した土器や瓦は、武蔵国分寺跡資料館や文化財資料展示室（市立第四中学校内）、国分寺駅に隣接する駅ビル CELEO のショーウインドウ（８階）などで展示を行っています。また、刊行した報告書や普及書は資料館や図書館、市役所オープナー等で閲覧することができます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

国分寺市遺跡調査会構成員名簿（平成 27 年 3 月 31 日現在）

－役員および監事－	会　長	坂誥秀一	国分寺市文化財保護審議会会長
	副会長	星野亮雅	国分寺市文化財保護審議会副会長
	理　事	井澤邦夫	国分寺市長
		富山謙一	国分寺市教育委員会委員長
		松井敏夫	国分寺市教育委員会教育長
		北原　進	国分寺市文化財保護審議会委員
		遠藤滋郎	国分寺市文化財保護審議会委員
		福嶋　司	国分寺市文化財保護審議会委員
		波田健二	東京都教育庁地域教育支援部管理課長
	専務理事	小山則夫	国分寺市教育委員会教育部長
	監　事	伊藤敏行	東京都教育庁地域教育支援部管理課課長補佐
		峯岸桂一	元国分寺市職員
－武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会－	委員長	坂誥秀一	立正大学名誉教授（考古学）
	委　員	藤井恵介	東京大学大学院工学系研究科教授（建築史）
		佐藤　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授（古代史）
		酒井清治	駒澤大学文学部歴史学科教授（考古学）
		松井敏也	筑波大学芸術系世界遺産担当准教授（保存科学）
－事務局－	事務局長	島崎進一	国分寺市教育委員会ふるさと文化財課長
	事務局員	豊泉早苗	国分寺市教育委員会ふるさと文化財課文化財保護係長
	事務局員	熊木正好	国分寺市遺跡調査会
－調査団－	団　長	坂誥秀一	立正大学名誉教授
	主任調査員	依田亮一	国分寺市教育委員会ふるさと文化財課史跡係長
	調査員	上敷領久	国分寺市教育委員会ふるさと文化財課史跡係主任
		中道　誠	国分寺市教育委員会ふるさと文化財課文化財保護係
		増井有真	国分寺市教育委員会ふるさと文化財課史跡係

第４表　平成 25 年度届出・通知一覧（１）

No.	年月日	条	申請地	申請工事内容	指示内容	調査次数
1	H25.4.4	93条	本町4-25　他1件	ガス	立会調査	
2	H25.4.4	93条	東元町4-3-19	ガス	立会調査	
3	H25.4.4	93条	南町1-12-9	集合住宅	立会調査	
4	H25.4.4	93条	西元町2-18-30	個人住宅	立会調査	
5	H25.4.4	93条	東元町4-3	水道	立会調査	
6	**H25.4.26**	**93条**	**南町1-9-15**	**分譲住宅**	**確認調査**	**K20-5**
7	H25.4.12	93条	西元町3-1-2	個人住宅	立会調査	
8	H25.4.12	93条	東元町3-33	分譲住宅	立会調査	
9	H25.4.12	93条	東元町3-33	水道	立会調査	
10	H25.4.12	93条	西元町3-18-8	ガス	立会調査	
11	H25.4.12	93条	泉町3-2647-3	個人住宅	立会調査	
12	H25.4.16	93条	西恋ヶ窪1-8-42	個人住宅	立会調査	
13	H25.4.15	93条	西恋ヶ窪1-18-9	水道	立会調査	
14	**H25.4.17**	**94条**	**泉町2-102-9**	**学校建設(仮設)・ガス・水道・電気等**	**事前調査**	**MKⅣ-698**
15	H25.5.2	93条	東元町3-14-7	分譲住宅	立会調査	
16	H25.4.22	93条	南町2-1-25	ガス	立会調査	
17	H25.4.22	93条	南町1-309-1、-6、-7の各一部(A号棟)	分譲住宅	立会調査	
18	H25.4.24	93条	東元町4-9の一部	個人住宅	立会調査	
19	H25.4.24	94条	西元町2-13-15	電話	立会調査	
20	H25.4.24	94条	西元町3-18-21～3-2-21(4ヵ所)	電話	立会調査	
21	H25.4.24	94条	南町3-28-7	電話	立会調査	
22	H25.4.26	93条	南町1-177-22の一部	集合住宅	立会調査	
23	H25.4.26	93条	西元町3-8-6	ガス	立会調査	
24	H25.4.26	93条	内藤2-1-20	個人住宅	立会調査	
25	H25.4.26	93条	東元町4-18-12	電気	立会調査	
26	H25.4.26	93条	本町4-21-15	電気	立会調査	
27	H25.4.26	93条	本町4-16-6	電気	立会調査	
28	H25.5.2	93条	西恋ヶ窪1-8-40	個人住宅	立会調査	
29	**H25.5.7**	**93条**	**東元町4-1963-6**	**個人住宅**	**事前調査**	**MKⅣ-696**
30	**H25.5.7**	**93条**	**西元町4-2-17**	**個人住宅**	**事前調査**	**MKⅢ-697**
31	H25.5.9	93条	西元町3-15-2	電気	立会調査	
32	H25.5.9	93条	西恋ヶ窪3-13-41	電気	立会調査	
33	H25.5.9	93条	西恋ヶ窪1-18-9　1号棟	分譲住宅	立会調査	
34	H25.5.9	93条	西恋ヶ窪1-18-9　2号棟	分譲住宅	立会調査	
35	H25.5.20	93条	東元町4-9	宅地造成	立会調査	
36	H25.5.20	93条	東元町4-9	宅地造成	立会調査	
37	H25.5.20	93条	泉町1-1-10	個人住宅	立会調査	
38	H25.5.20	93条	泉町1-5	水道	立会調査	
39	H25.5.20	93条	西恋ヶ窪3-11-7・11-8	集合住宅	立会調査	
40	H25.5.20	93条	南町1-14-39	水道	立会調査	
41	H25.5.20	93条	東元町4-3-9	分譲住宅	立会調査	
42	H25.5.23	93条	西恋ヶ窪1-8	ガス	立会調査	
43	H25.5.23	93条	南町1-12-13	水道	立会調査	
44	H25.5.23	93条	本町4-21-8	ガス	立会調査	
45	H25.5.23	93条	東元町4-9-12　他	ガス	立会調査	
46	H25.5.23	94条	南町3-7-18	水道	立会調査	
47	H25.5.23	94条	本町2-18-2	水道	立会調査	
48	H25.5.23	93条	西恋ヶ窪1-49-27	電気	立会調査	
49	H25.5.31	93条	西元町3-28A号棟	ガス	立会調査	
50	H25.6.3	93条	西恋ヶ窪1-2-25	分譲住宅	立会調査	
51	H25.5.31	93条	東元町4-18-15	個人住宅	立会調査	
52	H25.5.30	93条	東元町4-9地先	電気	立会調査	
53	H25.6.3	93条	南町2-322-6、-322-28	携帯通信	立会調査	
54	H25.5.29	93条	東元町3-33-3	ガス	立会調査	
55	H25.6.6	93条	東元町3-932、-933の一部	集合住宅	立会調査	

第５表　平成 25 年度届出・通知一覧（２）

№.	年月日	条	申請地	申請工事内容	指示内容	調査次数
56	H25.6.6	94条	西恋ヶ窪3-19番地先	水道	立会調査	
57	H25.6.6	94条	東元町4-5-1	水道	立会調査	
58	H25.6.20	93条	東元町4-1963-8	個人住宅	立会調査	
59	H25.6.7	93条	西元町3-15-10	集合住宅	立会調査	
60	H25.6.17	94条	本多1-4-25	水道	立会調査	
61	H25.6.21	93条	東元町3-14先	ガス・水道・電気	立会調査	
62	H25.6.21	93条	西元町3-28B棟	ガス	立会調査	
63	H25.6.21	93条	南町1-12-13	個人住宅	立会調査	
64	**H25.6.25**	**93条**	**内藤2-2-74**	**個人住宅**	**事前調査**	**K7-12**
65	H25.6.21	93条	西元町2-16番地先	電気	立会調査	
66	**H25.6.28**	**93条**	**南町1-12-16**	**個人住宅**	**事前調査**	**K20-6**
67	H25.6.28	93条	東元町4-10-1	個人住宅	立会調査	
68	H25.6.28	93条	東元町3-14他	ガス	立会調査	
69	H25.7.4	93条	東元町4-3-9	ガス	立会調査	
70	H25.7.2	93条	南町1-14-39	ガス	立会調査	
71	H25.6.28	94条	南町3-9付近	道路	立会調査	
72	H25.7.1	93条	西元町2-2546-6の一部	個人住宅	立会調査	
73	H25.7.5	93条	西恋ヶ窪1-11-23	ガス	立会調査	
74	H25.7.4	93条	南町3-9	電気	立会調査	
75	H25.7.4	93条	泉町1-7	個人住宅	立会調査	
76	H25.7.1	93条	南町1-9-15	ガス	立会調査	
77	H25.7.11	93条	南町1-307-15	集合住宅	立会調査	
78	H25.7.5	93条	本町1-4-11	集合住宅	立会調査	
79	H25.7.9	93条	西元町3-28	水道	立会調査	
80	H25.7.11	93条	内藤2-2	水道	立会調査	
81	H25.7.11	94条	東元町4-12	水道	立会調査	
82	H25.7.19	93条	東元町4-1963-1	個人住宅	立会調査	
83	H25.7.19	93条	日吉町1-43-67	個人住宅	立会調査	
84	H25.7.19	93条	泉町2-2	水道	立会調査	
85	H25.7.22	93条	西恋ヶ窪1-2-25	ガス	立会調査	
86	H25.7.22	93条	南町2-1-27地先	水道	立会調査	
87	H25.7.26	93条	本多1-4-8	ガス	立会調査	
88	H25.7.26	93条	南町1-11-18	ガス	立会調査	
89	H25.7.26	93条	南町1-177-56	集合住宅	立会調査	
90	H25.7.26	93条	本町4-2810-47	個人住宅	立会調査	
91	H25.7.23	94条	西元町3-1915-21	水道	立会調査	
92	H25.7.23	94条	東元町3-2386-57	水道	立会調査	
93	H25.7.23	94条	泉町1-2471-38	水道	立会調査	
94	H25.7.26	94条	西元町4-2-17	水道	立会調査	
95	H25.8.1	93条	泉町3-32-4番地先	電気	立会調査	
96	H25.8.1	93条	光町1-1-6	水道	立会調査	
97	H25.8.1	93条	西元町2-13-35	水道	立会調査	
98	H25.8.2	93条	西元町3-28-15	電気	立会調査	
99	H25.8.1	93条	西恋ヶ窪1-8-41	個人住宅	立会調査	
100	H25.8.8	93条	西恋ヶ窪1-24-12	ガス	立会調査	
101	H25.8.8	94条	泉町3-17～3-32地先	電話	立会調査	
102	H25.8.8	93条	西元町3-15-10	水道	立会調査	
103	H25.8.8	93条	西元町4-5-21	水道	立会調査	
104	H25.8.13	93条	南町1-12-13	ガス	立会調査	
105	H25.8.13	94条	東元町4-3-8	水道	立会調査	
106	H25.8.15	93条	光町1-1-6の一部	個人住宅	立会調査	
107	**H25.8.23**	**93条**	**南町2-1-17**	**個人住宅**	**確認調査**	**K21-14**
108	H25.8.7	93条	東元町4-1938-3	個人住宅	立会調査	
109	H25.8.23	93条	東元町4-1963-3	個人住宅	立会調査	
110	H25.8.29	93条	東元町2-490-5先	集合住宅	立会調査	

第6表　平成25年度届出・通知一覧（3）

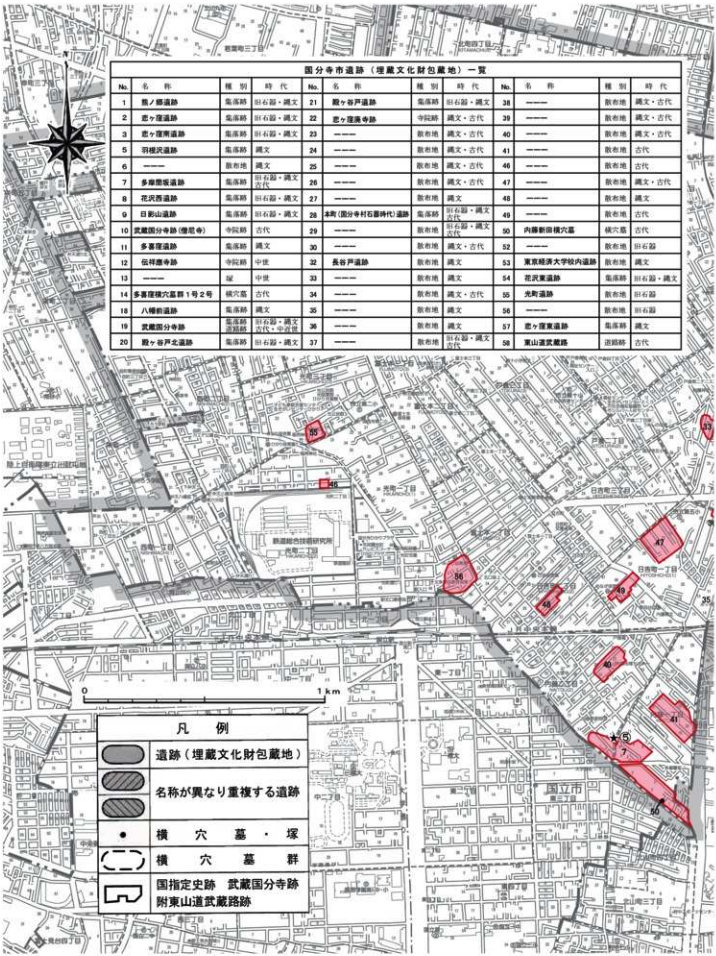
No.	年月日	条	申請地	申請工事内容	指示内容	調査次数
111	H25.8.22	93条	東元町4-3-19	ガス	立会調査	
112	H25.8.22	93条	光町1-1-6	ガス	立会調査	
113	H25.8.22	93条	西元町2-18-30	ガス	立会調査	
114	H25.8.23	93条	西元町3-1-2	ガス	立会調査	
115	H25.8.26	93条	東元町4-14-4	個人住宅	立会調査	
116	H25.8.29	93条	本町4-2876-32	個人住宅	立会調査	
117	H25.8.29	93条	西元町2-2546-71	分譲住宅	立会調査	
118	H25.9.4	94条	南町1-12-16番地先	電話	立会調査	
119	H25.9.4	94条	西元町4-5-2	水道	立会調査	
120	H25.9.6	93条	南町1-177-33の一部	個人住宅	立会調査	
121	H25.9.9	93条	南町1-11-18	電気	立会調査	
122	H25.9.9	93条	東元町4-6-18	水道	立会調査	
123	H25.9.9	93条	南町3-2796-25	個人住宅	立会調査	
124	H25.9.13	93条	西元町3-15-10	ガス	立会調査	
125	H25.9.13	93条	西元町4-2-17	ガス	立会調査	
126	H25.9.13	93条	西元町4-5-21	ガス	立会調査	
127	H25.9.13	93条	西元町2-11-28	ガス	立会調査	
128	H25.9.13	93条	西恋ヶ窪1-18	ガス	立会調査	
129	H25.9.26	93条	泉町1-2423-1の一部	事務所	立会調査	
130	H25.9.26	94条	東元町4-13-8番地	電話	立会調査	
131	H25.9.26	94条	東元町3-12-32番地先	電話	立会調査	
132	H25.9.26	94条	東元町3-14-2番地先	電話	立会調査	
133	H25.9.26	94条	東元町3-2-10番地先	電話	立会調査	
134	H25.9.26	94条	東元町4-18-5番地先	電話	立会調査	
135	H25.9.26	93条	西恋ヶ窪3-15-26、-15-56	分譲住宅	立会調査	
136	H25.9.26	93条	本町4-2864-15	個人住宅	立会調査	
137	H25.10.1	93条	東元町3-24-6	水道	立会調査	
138	H25.9.26	93条	西恋ヶ窪1-2-9	分譲住宅	立会調査	
139	H25.10.4	93条	南町3-7-18	ガス	立会調査	
140	H25.10.4	93条	南町1-309-20	個人住宅	立会調査	
141	H25.10.4	94条	東元町3-17番地先	水道	立会調査	
142	H25.10.4	94条	東恋ヶ窪2-5～2-2付近	道路	立会調査	
143	H25.10.29	94条	西元町2-13-14	水道	立会調査	
144	H25.10.29	93条	東元町3-24-6	ガス	立会調査	
145	H25.10.29	93条	西元町2-2548-104	分譲住宅	立会調査	
146	H25.10.29	94条	南町1-10-5	水道	立会調査	
147	H25.10.29	93条	東元町3-6-11	電気	立会調査	
148	H25.10.29	93条	西恋ヶ窪1-8-41	水道	立会調査	
149	H25.10.29	93条	西元町2-13-35	ガス	立会調査	
150	H25.10.29	93条	南町1-11-18	ガス	立会調査	
151	H25.10.31	93条	西元町4-5-6	個人住宅	立会調査	
152	H25.11.6	93条	西元町2-17-7	個人住宅	立会調査	
153	H25.11.6	93条	西恋ヶ窪3-15-26	ガス・水道・電気等	立会調査	
154	H25.11.6	94条	西恋ヶ窪1-17番地先	水道	立会調査	
155	H25.11.6	94条	南町3-8～3-9番地先間	水道	立会調査	
156	H25.11.11	93条	東元町3-33-3	ガス	立会調査	
157	H25.11.11	93条	東元町4-6-18	ガス	立会調査	
158	H25.11.25	93条	東元町2-514-1、-2	宅地造成	立会調査	
159	H25.11.27	94条	南町2-15-1番地先	電話	立会調査	
160	H25.11.27	93条	南町3-2796-8	個人住宅	立会調査	
161	H25.11.27	93条	西恋ヶ窪1-2-9	ガス	立会調査	
162	H25.11.27	93条	西恋ヶ窪1-10	ガス	立会調査	
163	H25.11.27	93条	内藤2-22-4	集合住宅	立会調査	
164	**H25.12.4**	**93条**	**西恋ヶ窪1-17-11**	**個人住宅**	**事前調査**	K2-93
165	H25.11.27	93条	東元町2-7～-20	ガス	立会調査	
166	H25.11.27	93条	内藤2-22-40	電柱	立会調査	
167	H25.12.4	93条	光町1-1-6	ガス	立会調査	
168	H25.12.13	93条	西元町3-28-2	電柱	立会調査	
169	**H25.12.13**	**93条**	**南町2-7-5**	**個人住宅**	**事前調査**	K21-15
170	H25.12.16	93条	光町1-1-6	水道	立会調査	
171	H25.12.17	93条	泉町1-11-11	個人住宅	立会調査	

第７表　平成 25 年度届出・通知一覧（４）

No.	年月日	条	申請地	申請工事内容	指示内容	調査次数
172	H25.12.17	93条	南町1-12-26	ガス	立会調査	
173	H25.12.16	93条	東元町3-12-16	個人住宅	立会調査	
174	H25.12.25	93条	東元町3-1-9	分譲住宅	立会調査	
175	H25.12.25	93条	東元町4-12-6	電柱	立会調査	
176	H25.12.25	93条	西元町1-13	電柱	立会調査	
177	H25.12.26	93条	西恋ヶ窪3-13-5	個人住宅	立会調査	
178	H25.12.27	93条	南町1-12	個人住宅	立会調査	
179	H25.12.27	93条	西恋ヶ窪1-19-16	個人住宅	立会調査	
180	H26.1.17	93条	本町1-3	ガス	立会調査	
181	H26.1.23	94条	本町4-10～4-12地先	水道	立会調査	
182	**H26.1.20**	**93条**	**南町1-14**	**集合住宅**	**確認調査**	**K29-2**
183	H26.1.24	93条	内藤2-2-2	ガス	立会調査	
184	H26.1.24	93条	南町1-10-5	ガス	立会調査	
185	H26.1.24	94条	西恋ヶ窪3-17-15	電話	立会調査	
186	H26.1.24	94条	南町3-28-9	電話	立会調査	
187	H26.1.30	93条	本町4-24	ガス	立会調査	
188	H26.1.30	93条	光町1-23、3-16	電柱	立会調査	
189	H26.2.4	93条	東元町2-18-34	電柱	立会調査	
190	H26.1.30	93条	西元町3-21-9	電柱	立会調査	
191	H26.1.30	93条	東元町3-21-42	電柱	立会調査	
192	H26.2.4	93条	泉町1-2386-85・-120・-121	分譲住宅	立会調査	
193	H26.2.4	93条	西恋ヶ窪3-7-1	ガス	立会調査	
194	H26.2.17	93条	東元町3-14-20[3-889-60]	集合住宅	立会調査	
195	H26.1.31	93条	西元町2-17-8	ガス	立会調査	
196	H26.2.19	94条	西恋ヶ窪2-2～2-18番地先間	水道	立会調査	
197	H26.2.27	93条	東元町3-1-9	水道	立会調査	
198	H26.2.26	93条	西元町2-15-36、他1件	ガス	立会調査	
199	H26.2.27	94条	西元町4-7番地先	水道	立会調査	
200	H26.2.28	93条	東元町4-14-4	ガス	立会調査	
201	H26.2.26	93条	東元町4-14-30	個人住宅	立会調査	
202	H26.2.28	93条	南町1-14	駐車場	確認調査	26年度調査
203	H26.2.28	94条	東元町3-33-24号先	電話	立会調査	
204	H26.2.28	94条	西元町3-10-3号先	水道	立会調査	
205	H26.3.14	93条	南町3-30-7	集合住宅	確認調査	26年度調査
206	H26.3.14	93条	西元町3-1514-6、1514-13	個人住宅	立会調査	
207	H26.3.14	93条	内藤2-22	ガス	立会調査	
208	H26.3.14	93条	本町4-9-10	ガス	立会調査	
209	H26.3.14	93条	東元町3-1404-5、1405-1	個人住宅	立会調査	
210	H26.3.14	93条	東元町3-1-9	ガス	立会調査	
211	H26.3.14	93条	南町1-7-18	電柱	立会調査	
212	H26.3.14	93条	南町1-8-2	電柱	立会調査	
213	H26.3.31	93条	西元町4-5-6	ガス	立会調査	
214	H26.3.31	93条	西元町2-10	ガス	立会調査	
215	H26.3.31	93条	南町2-9	ガス	立会調査	
216	H26.3.31	93条	西元町3-22	電柱	立会調査	
217	H26.3.31	93条	東元町3-2386-2[3-33-26]	分譲住宅	立会調査	
218	H26.3.31	93条	東元町3-1380-4、-8、-10、-11	個人住宅	立会調査	
219	H26.3.31	93条	西元町2-2546-29	個人住宅	確認調査	26年度調査
220	H26.3.31	93条	南町2-3-16	ガス	立会調査	
221	H26.4.11	94条	南町1-12-4先	水道		
222		93条	東元町4-12-6	電柱		
223	H26.6.4	93条	西元町4-2	ガス	—	

※14は都立小金井特別支援学校仮設校舎建設に伴う発掘調査（武蔵国分寺跡第698次調査）

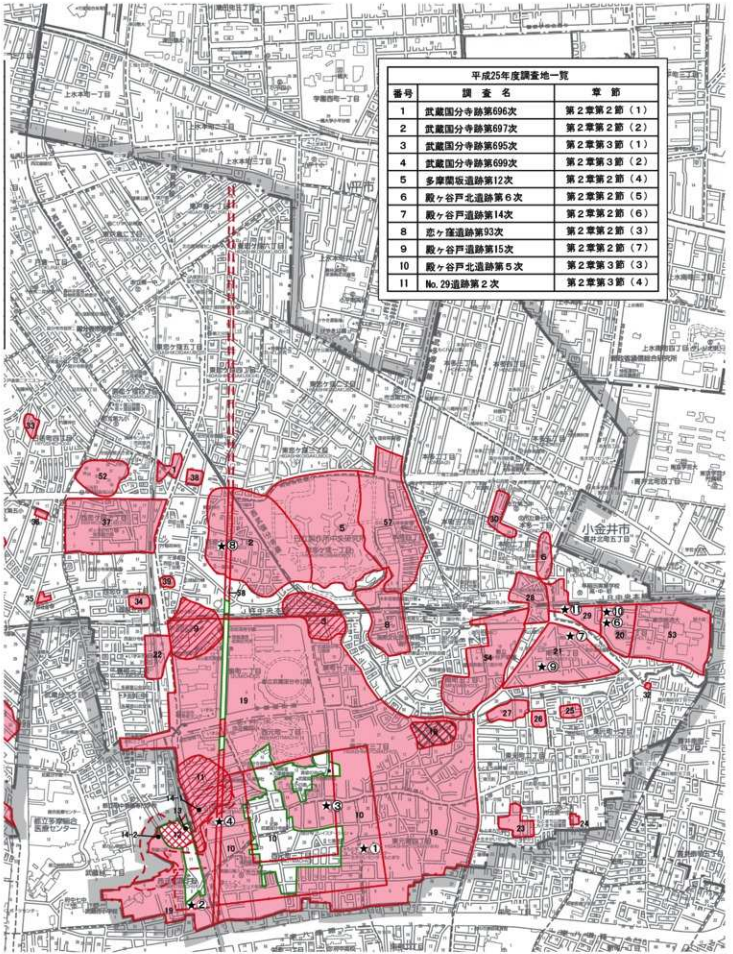
※網掛け部分は本書掲載の発掘調査に伴う届出



国分寺市遺跡（埋蔵文化財包蔵地）一覧

No.	名　称	種　別	時　代	No.	名　称	種　別	時　代	No.	名　称	種　別	時　代
1	熊ノ郷遺跡	集落跡	旧石器・縄文	21	殿ヶ谷戸遺跡	集落跡	旧石器・縄文	38	――	散布地	縄文・古代
2	恋ヶ窪遺跡	集落跡	旧石器・縄文	22	恋ヶ窪廃寺跡	寺院跡	縄文・古代	39	――	散布地	縄文・古代
3	恋ヶ窪南遺跡	集落跡	旧石器・縄文	23	――	散布地	縄文・古代	40	――	散布地	縄文・古代
5	羽根沢遺跡	集落跡	縄文	24	――	散布地	縄文・古代	41	――	散布地	古代
6	――	散布地	縄文	25	――	散布地	縄文・古代	46	――	散布地	古代
7	多摩雷板遺跡	集落跡	旧石器・縄文・古代	26	――	散布地	縄文・古代	47	――	散布地	縄文・古代
8	花沢西遺跡	集落跡	旧石器・縄文	27	――	散布地	縄文	48	――	散布地	縄文
9	日影山遺跡	集落跡	旧石器・縄文	28	本町（国分寺村石器時代）遺跡	集落跡	旧石器・縄文・古代	49	――	散布地	古代
10	武蔵国分寺跡（僧尼寺）	寺院跡	古代	29	――	散布地	旧石器・縄文・古代	50	内藤新田横穴墓	横穴墓	古代
11	多喜窪遺跡	集落跡	縄文	30	――	散布地	縄文・古代	52	――	散布地	旧石器
12	伝坪窪寺跡	寺院跡	中世	32	長谷戸遺跡	散布地	縄文	53	東京経済大学校内遺跡	散布地	縄文
13	――	屋	中世	33	――	散布地	縄文	54	花沢東遺跡	集落跡	旧石器・縄文
14	多喜窪横穴墓群1号2号	横穴墓	古代	34	――	散布地	縄文・古代	55	光町遺跡	散布地	旧石器
18	八幡前遺跡	集落跡	縄文	35	――	散布地	縄文	56	――	散布地	旧石器
19	武蔵国分寺跡	集落跡 遺跡跡	旧石器・縄文 古代・中近世	36	――	散布地	縄文	57	恋ヶ窪東遺跡	集落跡	縄文
20	殿ヶ谷戸北遺跡	集落跡	旧石器・縄文	37	――	散布地	旧石器・縄文・古代	58	東山道武蔵路	道跡跡	古代

第4図　平成25年度



平成25年度調査地一覧		
番号	調査名	章節
1	武蔵国分寺跡第696次	第２章第２節（１）
2	武蔵国分寺跡第697次	第２章第２節（２）
3	武蔵国分寺跡第695次	第２章第３節（１）
4	武蔵国分寺跡第699次	第２章第３節（２）
5	多摩関坂遺跡第12次	第２章第２節（４）
6	殿ヶ谷戸北遺跡第６次	第２章第２節（５）
7	殿ヶ谷戸遺跡第14次	第２章第２節（６）
8	恋ヶ窪遺跡第93次	第２章第２節（３）
9	殿ヶ谷戸遺跡第15次	第２章第２節（７）
10	殿ヶ谷戸北遺跡第５次	第２章第３節（３）
11	No. 29遺跡第２次	第２章第３節（４）

調査地点位置図

第２章　平成 25 年度に実施した発掘調査

第１節　遺跡の概要

平成 25 年度は、個人住宅建設に伴う事前調査および民間開発事業に伴う確認調査は、武蔵国分寺跡（№10･19 遺跡）４地区、恋ヶ窪遺跡（№２遺跡）１地区、多摩蘭坂遺跡（№７遺跡）１地区、殿ヶ谷戸北遺跡（№20 遺跡）２地区、殿ヶ谷戸遺跡（№21 遺跡）２地区、№29 遺跡１地区である。以下、調査を実施した遺跡の概要を記す。

恋ヶ窪遺跡（№２遺跡）　恋ヶ窪遺跡は、西恋ヶ窪１丁目、東恋ヶ窪１・３丁目に所在する。野川の源泉を見下ろす武蔵野台地上に立地する縄文時代中期を中心とする集落跡で、北側を除く三方向を野川の開析谷に囲まれた舌状台地南西縁に広がっている。

多摩蘭坂遺跡（№７遺跡）　多摩蘭坂遺跡は内藤１・２丁目周辺に所在する旧石器時代、縄文時代、奈良時代の集落遺跡である。国分寺崖線沿いの武蔵野段丘面に沿って広がっており、特に旧石器時代においては、３万５千年前位にさかのぼる市内最古の遺跡である。

武蔵国分寺跡（№10・19 遺跡）　武蔵国分寺跡は、天平 13（771）年に聖武天皇により発布された国分寺建立詔で、全国 60 余国に設置された国分寺の一つである。古代の官道である東山道武蔵路をはさんで東に僧寺、西に尼寺が配置され、遺跡の範囲は東西約 1.5 キロメートル、南北は国分寺崖線を挟んで約１キロメートルに及ぶ。遺跡は現在の西元町１～４丁目、東元町３・４丁目、泉町１・２丁目、西恋ヶ窪１丁目に所在する。僧寺は「寺院地」・「伽藍地」・「中枢部」の三重に、尼寺は「伽藍地」・「中枢部」の二重に区画され、その周囲の寺院に関連する遺跡を含めて「寺地」と称している。前者が№10 遺跡、後者が№19 遺跡に該当し、寺院跡のほか、東山道武蔵路、推定鎌倉街道などの道路跡が確認されている。

殿ヶ谷戸北遺跡（№20 遺跡）　殿ヶ谷戸北遺跡は、南町一丁目８・９・12 付近に所在する旧石器時代、縄文時代（早・中期）の集落遺跡である。野川を南側に臨む武蔵野段丘に位置し、１万８千～１万５千年前位の旧石器時代を中心とした遺跡である。

殿ヶ谷戸遺跡（№21 遺跡）

殿ヶ谷戸遺跡は南町二丁目１～10 付近に所在する旧石器・縄文・（早・中期）の集落遺跡である。野川を南側に臨む武蔵野段丘に位置し、隣接する殿ヶ谷戸北遺跡同様に１万８千～１万５千年前位の旧石器時代を中心とした遺跡である。

№29 遺跡

№29 遺跡は南町一丁目 14、本町一丁目３～５付近に所在する散布地である。

第５図　武蔵国分寺跡伽藍配置模式図

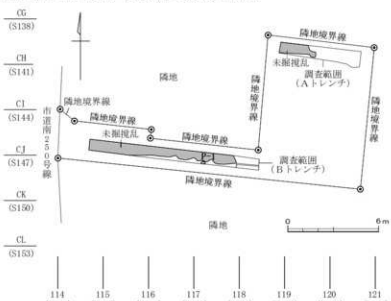
第２節　本発掘調査

（１）武蔵国分寺跡第 696 次調査

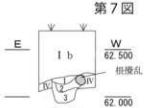
所在地	国分寺市東元町4-1963-6		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成25年６月４日～６月７日		
調査面積	13.23㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	P-1		
主な遺物	なし		

第６図　MK Ⅱ－696 調査地点位置図

調査区は武蔵国分寺跡（№ 10・19）に該当する。寺院地の東側に位置し、僧寺塔跡の東側約 149 ｍの地点にあたる。当該地は特に奈良・平安時代の遺構・遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって以降に影響が及ぶ範囲を対象として発掘調査を行った。調査面積は 13.23㎡である。現地調査は平成 25 年６月４日～６月７日に実施した。調査区内は広範囲に後世の撹乱が工事掘削深度以上に及んでおり、これについては未掘として処理した。地表面から深さ約 50 ～ 60 ｃｍで基本層序Ⅳ層上面において小穴１基を検出した。



第７図　MK Ⅱ－696 調査区全体図



1　黒褐色土　10YR3/1(2/1)　しまりあり，すきまややあり，粘性やや弱い，ローム少量。
2　黒褐色土　10YR3/1　しまりあり，すきまあり，粘性ややあり，ローム含む
3　黒褐色土とローム土混合　しまりあり，すきまあり，粘性ややあり，ローム、ロームブロック，Ⅲ層土含む

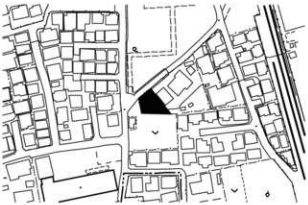
第８図　調査区土層柱状図・P-1 土層断面図

写真１　Aトレンチ全景（東から）

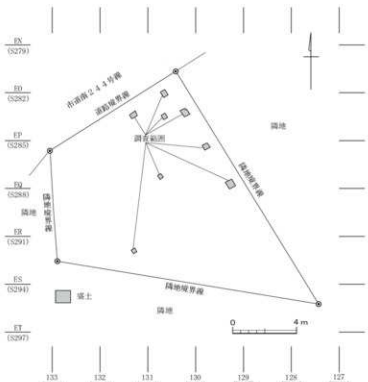
写真２　Bトレンチ全景（西から）

（2）武蔵国分寺跡第 697 次調査

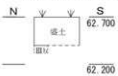
所在地	国分寺市西元町4-2-17		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成25年６月12日～６月19日		
調査面積	1.06㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



第９図　MK Ⅲ－ 697 調査地点位置図



第 10 図　MK Ⅲ－ 697 調査区全体図

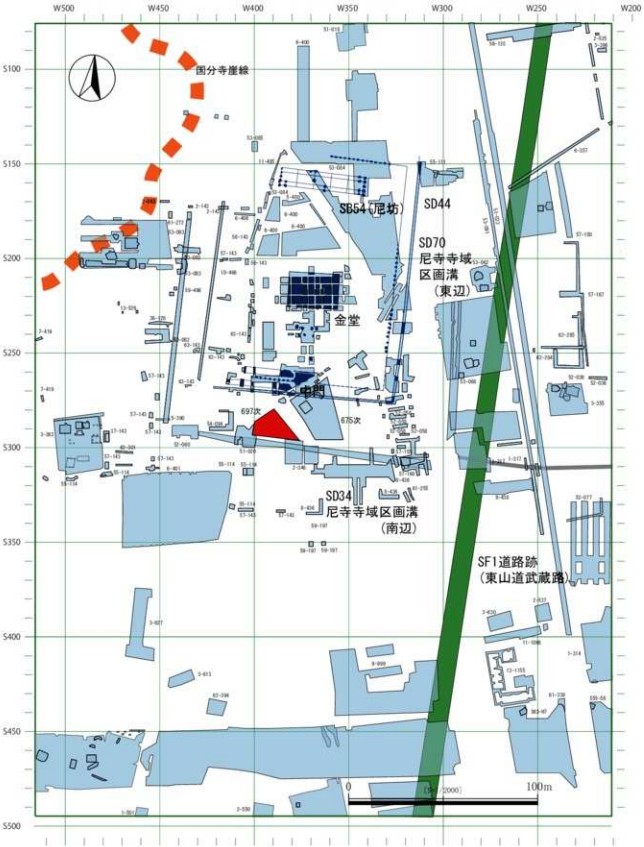


第 11 図　土層柱状図

調査区は武蔵国分寺跡（№ 10・19）に該当する。尼寺中門の南西約 30 ｍの地点にあたる。当該地は特に奈良・平安時代の尼寺に関する遺構・遺物が存在する可能性があるため、住宅掘削部分と給排水管埋設部分８か所の試掘坑を開けて発掘調査を行った。調査面積は 1.06㎡である。現地調査は平成 25 年６月 12 日～６月 19 日に実施した。調査区内は工事掘削深度までは大半が盛土で、一部最深部地表面から深さ約 50 ～ 60 ｃｍで基本層序Ⅲｂ層が確認されたが、工事による遺跡への影響がないと判断されたため調査を終了した。遺構・遺物は未検出である。

写真３　調査区全景（南から）

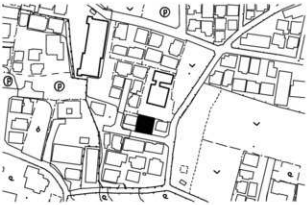
写真４　調査区全景（南から）



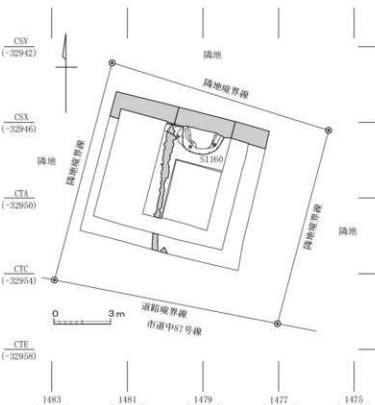
第 12 図　武蔵国分尼寺と周辺の発掘調査状況

（3）恋ヶ窪遺跡第 93 次調査

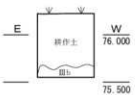
所在地	国分寺市西恋ヶ窪１－17-11		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成26年１月８日～１月17日 平成26年２月21日～３月３日		
調査面積	44.26㎡	遺物箱数	２箱
検出遺構	SI160J		
主な遺物	縄文土器		



第 13 図　K2 － 93 調査地点位置図



第 14 図　K2 － 93 調査区全体図



第 15 図　調査区南壁土層柱穴図

調査区は恋ヶ窪遺跡（№２）に該当する。遺跡の中心からやや西のはずれにあたり、いわゆる縄文時代中期の環状集落の西端に所在する。当該地は特に縄文時代中期の集落に関する遺構・遺物が存在する可能性があるため、住宅掘削部分と給排水管埋設部分で、発掘調査を行った。調査面積は 44.26㎡である。現地調査は平成 26 年１月８日～１月 17 日に給排水管部分（A トレンチ）の調査を実施し、平成 26 年２月 21 日～３月３日に住宅掘削部分（B トレンチ）の調査を実施した。

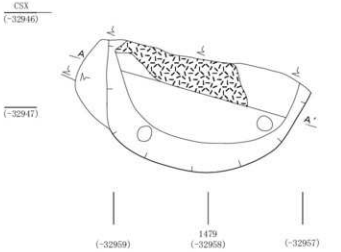
写真５　調査区全景（南から）

A・B トレンチともに地表面下約 60 ～ 80 ｃmほどで縄文時代の遺物包含層を検出。A トレンチでは表土の撹乱層から早期前半の撚糸文系土器片（第　図１・第　図１）が１点出土した。B トレンチでは基本層序Ⅲｃ層上面から SI160J 住居跡が検出された（第 21 ～ 23 図）。北半分は調査区外におよび未掘であるが、検出状況から推定される規模は直径約 2.1 ｍの円形で、生活面までの深さは 30㎝を測る。床面はやや硬質である。底面からは柱穴と考えられる２基の小穴

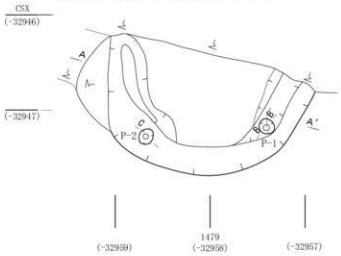
を検出した。遺構の覆土からは五領ヶ台Ⅱ期の土器片（第 20 図２・写真６－２）が１点出土した。また遺物包含層から貉沢期の土器片（第 20 図３・写真６－３）が１点、阿玉台期の土器片（第 20 図４・写真６－４）が１点出土した。

Ｂトレンチでは表土の撹乱層から五領ヶ台Ⅱ期の土器片（第 20 図５・写真６－５）が１点出土している。

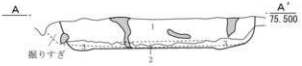
恋ヶ窪遺跡の縄文時代のいわゆる環状集落を形成する時期に主体となる勝坂式期の他にも多様な型式の土器が混在していたことをうかがわせる資料である。



第 16 図　SI160J 使用時完掘平面図



第 17 図　SI160J 構築時完掘平面図



1　暗茶褐色土　細ローム粒・赤スコリヤ多量含む，しまり良し。
2　暗茶褐色土　細ローム粒・赤スコリヤ少量含む，やや硬質，床面と思われる。
3　暗黄褐色土　ローム土・ロームブロック多量含む，ややしまりなし。構築土。

第 18 図　SI160J 土層断面図

1　茶褐色土　ローム土多く焼化物微量含む。
しまりややなし。

1　茶褐色土　ローム土，ロームブロック多く含む，
しまり良い。

第 19 図　P-1・P-2 土層断面図

1 K2-93 JB01

2 K2-93 JE01

3 K2-93 JE02

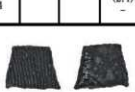
4 K2-93 JE03

5 K2-93 JE04

第 20 図　出土遺物実測図

第８表　K2 － 93 遺物観察表（縄文時代土器）

挿図 写真 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第20図1 写真6-1 JB01	深鉢	カク乱	－ (3.5) －	胴部破片のため全体の器形は不明。	表面はRの撚糸を縦位に施文。内面は粗いナデ。	早期前半、撚糸文系。暗茶色。胎土は密で少量の雲母を含む。焼成は良好。
第20図2 写真6-2 JE01	深鉢	SI160J フク土	－ (4.4) －	口縁部から頸部にかけて外側に屈曲する。	内面は丁寧な磨き。表面は丁寧に磨いた後に、口唇部から垂下する沈線と横位の沈線を施す。粘土紐の貼り付けによる波状文を施文。	五領ヶ台Ⅱ。暗褐色。胎土はやや粗く、砂粒を少量含む。焼成はやや不良。
第20図3 写真6-3 JE02	深鉢	Ⅲ層	－ (3.6) －	口縁部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。表面は半裁竹管による押し引きを、横位に5条施文する。口唇部をわずかに肥厚させ圧痕を施す。	狢沢。赤褐色。胎土は粗く、砂粒を多く含む。焼成はやや不良。
第20図4 写真6-4 JE03	深鉢	Ⅲb層	－ (4.0) －	底部片。やや外傾して胴部は立ち上がる。	内面は剥落が著しい。外面は無文。	阿玉台。暗茶色。胎土は粗く、金雲母を多量に含む。焼成はやや不良。
第20図5 写真6-5 JE04	深鉢	カク乱	－ (2.4) －	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。表面は棒状工具による横位の沈線を施し、部分的に押圧による刺突文を施す。地文はRの縄文。	五領ヶ台Ⅱ。赤褐色。胎土はやや粗く、砂粒、雲母を多く含む。焼成はやや良好。



1 K2-93 JB01

2 K2-93 JE01

3 K2-93 JE02

4 K2-93 JE03

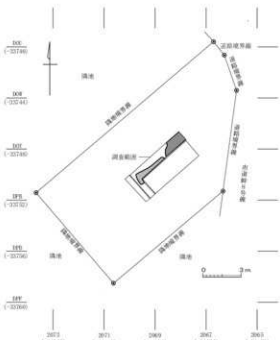
5 K2-93 JE04

写真６　出土遺物写真

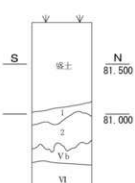
（4）多摩蘭坂遺跡第 12 次調査

所在地	国分寺市内藤２－２－74		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成25年６月27日～７月10日		
調査面積	26.98㎡	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		

第 21 図　K7 － 12 調査地点位置図



第 22 図　K7 － 12 調査区全体図



1 暗褐色土　10YR3/1,3/2　しまり弱い，すきま少し，
粘性ややあり，ロームブロック含む。
2 黄褐色土　10YR5/6,6/6　しまり良い～硬い，すきまややあり，
粘性あり，ローム土からなる。

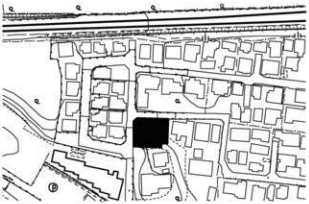
第 23 図　東壁土層柱状図

写真７　調査区南壁断面（北から）

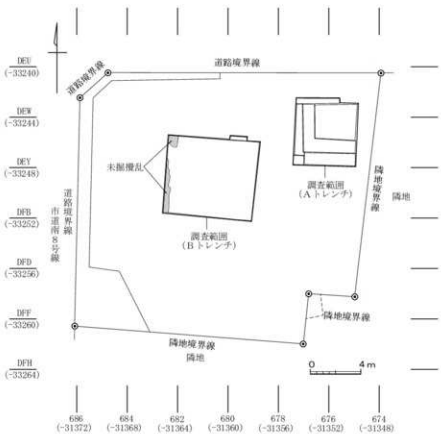
調査区は多摩蘭坂遺跡（№７）に該当する。国分寺崖線の南斜面に沿っておおよそ東西に長い遺跡の北西部にあたり、浅い谷が入る武蔵野段丘の斜面に所在する。当該地は特に旧石器時代の遺構・遺物が存在する可能性があるため、住宅掘削部分を中心に，発掘調査を行った。調査面積は 26.98㎡である。現地調査は平成 25 年６月 27 日～７月 10 日に実施した。調査区内は、現地表面下約 60 ～ 80 ｃｍの深さで、縄文時代の遺構確認を行ったが、遺構･遺物は未検出である。旧石器時代の調査は、現地表面下約 120 ｃｍまで行った。調査の結果、調査区の西側から東側にかけてローム層が急傾斜しており（写真７）谷底付近であったことを示している。遺構・遺物ともに未検出である。

（5）殿ヶ谷戸北遺跡第６次調査

所在地	国分寺市南町１－12－16		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成25年７月８日～７月31日 平成25年11月11日～11月19日		
調査面積	71.98㎡	遺物箱数	２箱
検出遺構	SR6,7		
主な遺物	石器		



第 24 図　K20 － 6 調査地点位置図

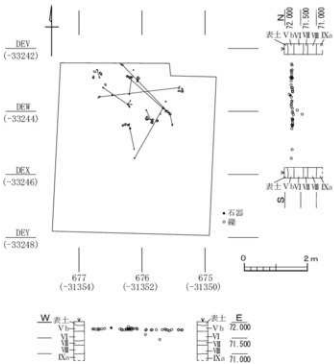


第 25 図　K20 － 6 調査区全体図

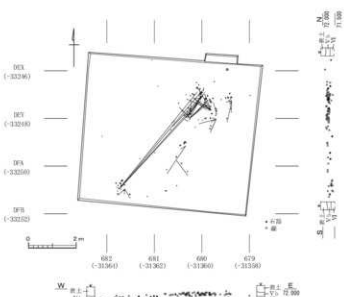
調査区は殿ヶ谷戸北遺跡（No. 20）に該当する。遺跡の西側にあたり国分寺崖線がやや北側に抉れる南斜面に所在する。当該地は特に旧石器時代の遺構・遺物が存在する可能性があるため、住宅掘削部分を中心に、発掘調査を行った。調査はA・Bトレンチを設定し、調査面積はAトレンチ 25.6㎡、Bトレンチ 46㎡である。現地調査はAトレンチが平成 25 年７月８日～７月 31 日、Bトレンチ平成が 25 年 11 月 11 日～ 11 月 19 日に実施した。調査区内は、現地表面下約 30 ～ 40 ｃｍの深さで、遺構確認を行った。縄文時代の遺構・遺物は未検出で

写真８　Aトレンチ遺物出土状況（南から）

写真９　Aトレンチ全景（南から）



第 26 図　Aトレンチ遺物出土状況及び接合関係図



第 27 図　Bトレンチ遺物出土状況及び接合関係図

ある。旧石器時代は、Vb 層中よりそれぞれのトレンチで 1 箇所ずつの礫群を検出した。Aトレンチで検出された SR 6 は、やや散漫な礫群であり、礫はよく焼けている。チャートの砕片が少量出土しているが定型的な石器は出土していない。Bトレンチで検出された SR 7 は、比較的密集した礫群であり、礫はよく焼けている。チャートの剥片が少量出土した。第 28 図 1・写真 15 − 1 のチャートの剥片は縦長で断面は台形状を呈しやや厚手である。頭部に自然面を残し両側縁からの剥離を加えている。第 28 図 2・写真 15 − 2 のチャートの剥片は先端部がやや尖る縦長で薄手の剥片である。基部にあたる部分に微調整が認められるが、側縁部の調整などナイフ形石器の特徴的な調整は認められない。第 28 3・写真 15 − 3 のチャートの剥片はやや不定型な縦長の剥片で頭部に打点を有する。両面に主剥離面を残し、断面はひしゃげた薄い四角形を呈する。定型的な石器は出土していない。部分的であるがⅨ層中まで深堀を行ったが、遺構・遺物ともに未検出である。

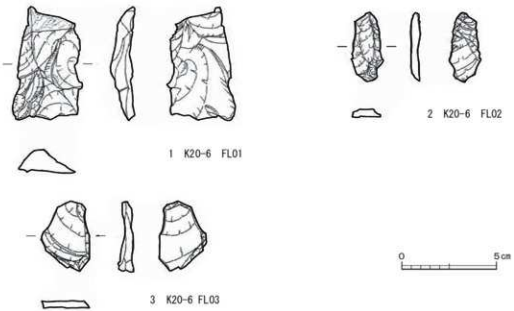
写真 10　調査風景（南から）

写真 11　Bトレンチ北壁断面（南から）

写真 12　Bトレンチ遺物出土状況（北から）

写真 13　Bトレンチ遺物出土状況（南から）

写真 14　Bトレンチ全景（南から）



第 28 図　出土遺物実測図

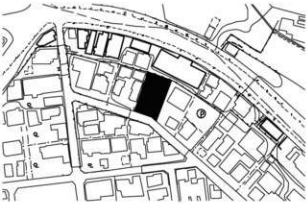
第 9 表　K20 － 6　遺物観察表（旧石器時代）

挿図 写真 遺物番号	種別 細分類	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	備考
第28図1 写真15-1 FL01	剥片 (縦長)	Vb層	6.0	3.7	1.3	22.1	－	ch	断面三角形で平坦打面の長方形を呈するやや大型の縦長剥片。裏面に主剥離面を残し、表面には一本の稜線と自然面を残す。
第28図2 写真15-2 FL02	剥片 (縦長)	Vb層	3.7	1.7	0.5	3.3	－	ch	断面台形でやや薄手の小型縦長剥片。裏面に主剥離面を残し、表面には一本の稜線を残す。
第28図3 写真15-3 FL03	剥片 (不定形)	Vb層	3.7	2.5	0.8	5.6	－	ch	薄い板状を呈し、表・裏面に主剥離面を残す。

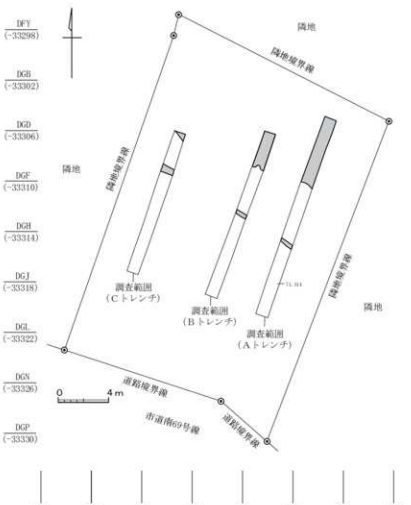
写真 15　出土遺物写真

（6）殿ヶ谷戸遺跡第14次調査

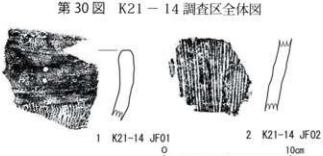
所在地	国分寺市南町２－１－17		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成25年９月２日～９月９日		
調査面積	40.03㎡	遺物箱数	1箱
検出遺構	なし		
主な遺物	縄文土器		



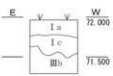
第29図　K21－14調査地点位置図



第30図　K21－14調査区全体図



第32図　出土遺物実測図



第31図　Aトレンチ
南側土層柱状図

調査区は殿ヶ谷戸北遺跡（№20）に該当する。遺跡の北側にあたり、武蔵野段丘北斜面に所在する。当該地は特に旧石器・縄文時代の遺構・遺物が存在する可能性があるため、住宅掘削部分を中心に発掘調査を行った。調査面積は40.03㎡である。現地調査は平成25年９月２日～９月９日に実施した。調査区内は、地表面下約50ｃｍで縄文時代の遺物包含層（Ⅲｂ層）を検出。３本設定したトレンチのうち、Ｂトレンチの縄文時代包含層より縄文時代中期後半の土器片が２点出土した（第32図１・２、写真20－１・２）。いずれも加曽利Ｅ３期の土器片である。本調査区では、遺構は検出できなかった。

写真 16　調査区全景（北から）

写真 17　Cトレンチ全景（南から）

写真 18　Aトレンチ全景（南から）

写真 19　Bトレンチ全景（南から）

第 10 表　K21 － 14　遺物観察表

挿図 写真 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第32図1 写真20－1 JF01	深鉢	Ⅲb層	－ (5.6) －	口縁部片のため全体の器形は不明。	内面は比較的丁寧な磨き。表面はやや粗いヨコナデ。胴部にかけて櫛状工具による集合蛇行沈線を施す。	加曽利E3。暗褐色。2～3mm大の砂粒を少量含む。焼成は良好。
第32図2 写真20－2 JF02	深鉢	Ⅲb層	－ (5.8) －	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は丁寧な磨き。表面は櫛状工具による縦位の集合沈線を施す。	加曽利E3。暗黄灰色。胎土はやや粗く、3mm大の砂粒を少量含む。焼成は良好。

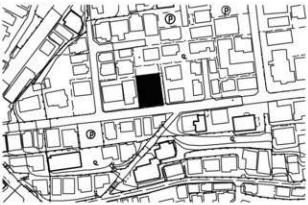
1　K21-14 JF01

2　K21-14 JF02

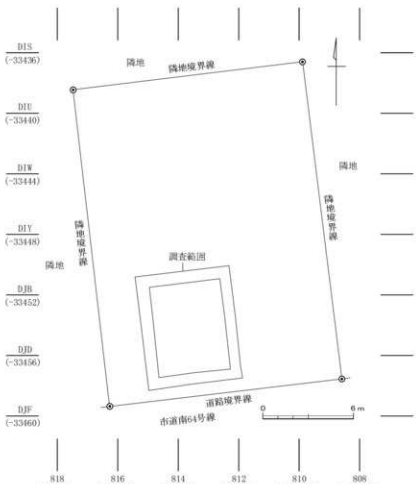
写真 20　出土遺物写真

（6）殿ヶ谷戸遺跡第 15 次調査

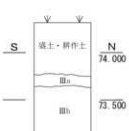
所在地	国分寺市南町２－７－５		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成26年３月３日～３月11日		
調査面積	18.47㎡	遺物箱数	1箱
検出遺構	なし		
主な遺物	縄文土器・石器		



第 33 図　K21 － 15 調査地点位置図



第 34 図　K21 － 15 調査区全体図



第 35 図　土層柱状図

写真 21　調査区東側全景（南から）

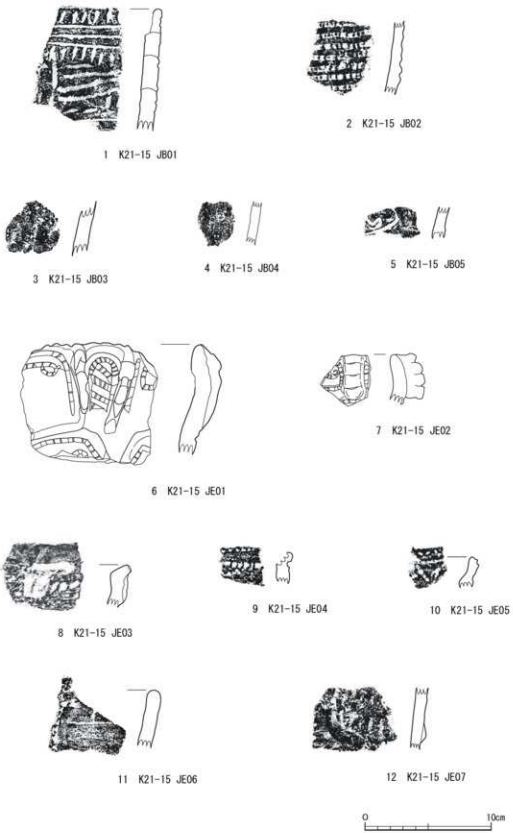
写真 22　Ⅲ層遺物出土状況（西から）

写真 23　西壁セクション（東から）

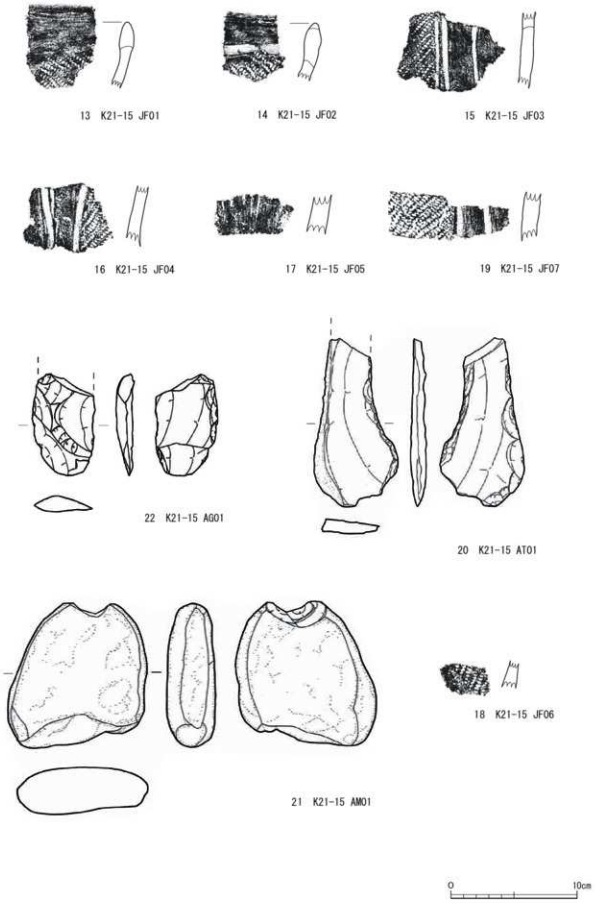
写真 24　調査区全景（南から）

調査区は殿ヶ谷戸遺跡(№ 21)に該当する。遺跡のほぼ中央部にあたり武蔵野段丘面の平坦部に所在する。当該地は特に旧石器・縄文時代の遺構・遺物が存在する可能性があるため、住宅掘削部分を中心に発掘調査を行った。調査面積は 18.47㎡である。現地調査は平成 26 年 3 月 3 日～ 3 月 11 日に実施した。

調査区内は、地表下約 0.6 ～ 0.8 m の深さにおいて、基本層序Ⅲ b 層で縄文時代中期の遺物包含層を検出した。当該層の遺存状況は比較的良好で、条件の良い西側部分で層厚は約 20 ～ 30 ｃｍ程をはかる。包含層からは田戸上層期の土器片（第 36 図 1 ～ 4、写真 25 － 1 ～ 4）、早期前半と考えられる土器片（第 36 図 5、写真 25 － 5）、貉沢期の土器片（第 36 図 6 ～ 10、写真 25 6 ～ 10）、阿玉台期の土器片（第 36 図 11･12、写真 25 － 11･12）、加曽利 E 3 期の土器片（第 36 図 13 ～ 19、写真 25 － 13 ～ 19）が出土した。早期から中期にかけての比較的まとまった資料であり、第 36 図 6、写真 25 － 6 の貉沢期の口縁部片は特に文様構成が当該期の典型である。また、打製石斧の破片（第 37 図 22、写真 26 － 22）、打製石斧の未成品と考えられる微調整が施された横長の剥片（第 37 図 20、写真 26 － 20）。片側縁に抉りの入った礫石器（第 37 図 21、写真 26 － 21）が出土した。これらの遺物は調査区の全面から出土するのではなく、調査区北側に集中して出土している。本調査区からは遺構は検出されなかったが、土器や石器の密集度から近傍に住居跡等の遺構の存在をうかがわせる。



第 36 図　出土遺物実測図（1）



第 37 図　出土遺物実測図（2）

第11表　K21－15遺物観察表（縄文時代土器）

挿図 写真 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
第36図1 写真25-1 JF01	深鉢	Ⅲb層	－ (9.7) －	口縁部から胴部にかけて円筒状を呈する。	内面は剥落が著しく，未調整。表面は上から横位の刻目。三条の沈線横位の刻目，斜位の浅い沈線，斜位の刻目を施す。	田戸上層。赤褐色。胎土は粗く，繊維，細砂粒を多く含む。焼成は良好。
第36図2 写真25-2 JF02	深鉢	Ⅲb層	－ (5.8) －	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は粗い磨き。表面は全体に横位の平行する押し引きを施文する。	田戸上層。赤褐色。胎土は粗く，繊維を少量含，2mm大の砂粒，細砂粒を多く含む。焼成は良好。
第36図3 写真25-3 JF03	深鉢	Ⅲb層	－ (4.4) －	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整，表面は無文。	田戸上層。赤褐色。胎土は粗く，1mm大の砂粒を多く含む。繊維を少量含む。焼成はやや良好。
第36図4 写真25-4 JF04	深鉢	Ⅲb層	－ (3.5) －	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整，表面は浅い条線。	田戸上層。赤褐色。胎土は粗く，1mm大の砂粒を多く含む。焼成は良好。
第36図5 写真25-5 JF05	深鉢	Ⅲb層	－ (2.5) －	胴部片のため全体の器形は不明。	内面は未調整。表面は深く屈曲する沈線とS字状の沈線を施す。	早期前半？灰褐色。胎土は粗く繊維を多く含む。焼成は良好。
第36図6 写真25-6 JF01	深鉢	Ⅲb層	－ (8.7) －	口縁から胴部にかけてややふくれる。口唇部は内傾して肥厚する。	内面は未調整。表面は貼付隆帯によって横位に区画し，隆帯に沿って押し引きを施す。口唇部にも刻目を施す。	猿沢期。暗黄色。胎土は粗く細砂粒を多量に含む。焼成は不良。
第36図7 写真25-7 JF02	深鉢	Ⅲb層	－ (4.0) －	把手。	内面はやや丁寧な磨き。表面は四段のこぶ状の把手。把手に沿って押し引きを施す。	猿沢期。暗茶色。胎土は比較的密，細砂粒を少量含む。焼成は良好。
第36図8 写真25-8 JF03	深鉢	Ⅲb層	－ (3.3) －	口縁部片。口唇部を肥厚させ，大きく外反する。	内面はやや丁寧な磨き。表面剥落が著しい。ヒダ状の圧痕を施す。	猿沢期。黒色。胎土は比較的密，細砂粒を少量含む。焼成は良好。
第36図9 写真25-9 JF04	深鉢	Ⅲb層	－ (2.5) －	口縁片のため全体の器形は不明。口唇部を肥厚させ外反する。	内面は未調整。口唇部と表面に横位の押し引き。	猿沢期。暗茶色。胎土はやや粗く，細砂粒を多く含む。焼成はやや不良。
第36図10 写真25-10 JF05	深鉢	表土	－ (2.4) －	口縁部片のため全体の器形は不明。口唇部をやや肥厚して内傾する。	内面はやや丁寧な磨き。口唇部に圧痕。表面に逆三角形状に押引きを施す。	猿沢期。赤褐色。胎土はやや粗く，細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。
第36図11 写真25-11 JF06	深鉢	Ⅲb層	－ (4.5) －	胴部片のため，全体の器形は不明。	内面は未調整。表面は逆「U」字状の押引きを施す。	阿玉台。赤褐色。胎土はやや粗く，金雲母を多く含む。焼成はやや不良。
第36図12 写真25-12 JF07	深鉢	表土	－ (4.9) －	胴部片のため，全体の器形は不明。	内面は未調整。表面は逆「U」字状の貼り付け隆帯。	阿玉台Ib。赤褐色。胎土は粗く，細砂粒，金雲母を多量に含む。焼成は不良。
第37図13 写真26-13 JF01	深鉢	Ⅲb層	－ (5.2) －	口縁部片。口唇部を肥厚，わずかに内傾する。口唇部端はやや尖る。	内面は丁寧な磨き。表面と口縁は無文。胴部にかけて縦位の R縄文を施文する。	加曽利E3。暗黄色。胎土は密だが3mm大の砂粒を少量含む。焼成は良好。
第37図14 写真26-14 JF02	深鉢	Ⅲb層	－ (4.6) －	口縁部片。口唇部端は尖り，ほぼ垂直に立ち上がる。	両面とも丁寧な磨き。表面は縦位のR縄文を地文とし，口唇部は無文。	加曽利E3。黒色。炭素吸着が認められる。胎土はやや密だが細粒を少量含む。焼成は良好。
第37図15 写真26-16 JF03	深鉢	Ⅲb層	－ (6.1) －	胴部片，キャリパー形を呈する。	内面はやや粗い磨き。表面は縦位のL縄文を地文とし，垂下する沈線間は磨り消す。	加曽利E3。暗黄色。胎土は粗く，細砂粒を多く含む。焼成は良好。
第37図16 写真26-17 JF04	深鉢	Ⅲb層	－ (4.8) －	胴部片，キャリパー形を呈する。	内面はやや粗い磨き。表面は縦位のL縄文を地文とし，垂下する2条の沈線間は磨り消す。	加曽利E3。暗黄色。胎土は粗く，細砂粒，2mm大の砂粒を多く含む。焼成はやや良好。
第37図17 写真26-15 JF05	深鉢	Ⅲb層	－ (3.2) －	底部に近い胴部片。	内面はやや丁寧な磨き。表面は垂下する縦位の浅い沈線が認められる。	加曽利E3。暗黄色。胎土は密，細砂粒を少量含む。焼成はやや良好。
第37図18 写真26-18 JF06	深鉢	Ⅲb層	－ (2.2) －	胴部片のため，全体の器形は不明。	内面は粗い磨き。表面は縦位のR縄文を地文とする。	加曽利E3。暗黄色。胎土はやや密，細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。
第37図19 写真26-19 JF07	深鉢	表土	－ (3.9) －	胴部片のため，全体の器形は不明。	内面は粗い磨き。表面は縦位のR縄文を地文とし，2本の垂下する沈線間は磨り消す。	加曽利E3。内面は黄色。表面は黒色で，炭素吸着。胎土は密。焼成はやや良好。

第 12 表　K21 － 15 遺物観察表（旧石器時代石器）

挿図 写真 遺物番号	種別 形態	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	備考
第37図20 写真26- 20 AG01	打製石斧	Ⅲb層	(8.0)	5.0	1.3	64.2	基部欠損	ホルンフェルス	小形ででやや寸詰まりの剥片を素材とし、粗い調整で成形。
第37図21 写真26- 21 AM01	抉入磨石	表土	11.4	11.1	3.8	750.0	完形	花崗岩	不整楕円形の川原石の両端部に抉りを入れるが、左端部の方が深い。
第37図22 写真26- 22 AT01	剥片	表土	18.3	6.7	0.7	119.1	－	閃緑岩	石斧の未製品か？

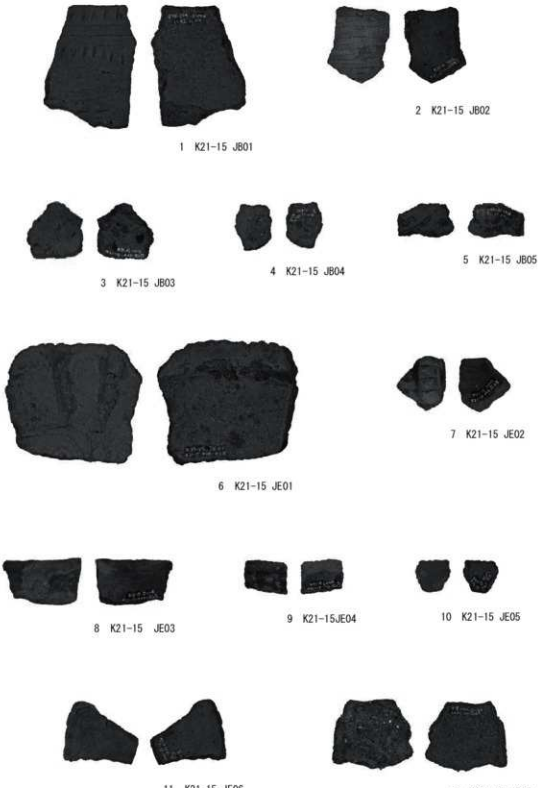


写真 25　出土遺物写真（1）

13 K21-15 JF01

14 K21-15 JF02

15 K21-15 JF05

16 K21-15 JF03

17 K21-15 JF04

18 K21-15 JF06

19 K21-15 JF07

22 K21-15 AG01

20 K21-15 AT01

21 K21-15 AM01

写真 26　出土遺物写真（2）

第３節　確認調査

（１）武蔵国分寺跡第 695 次調査

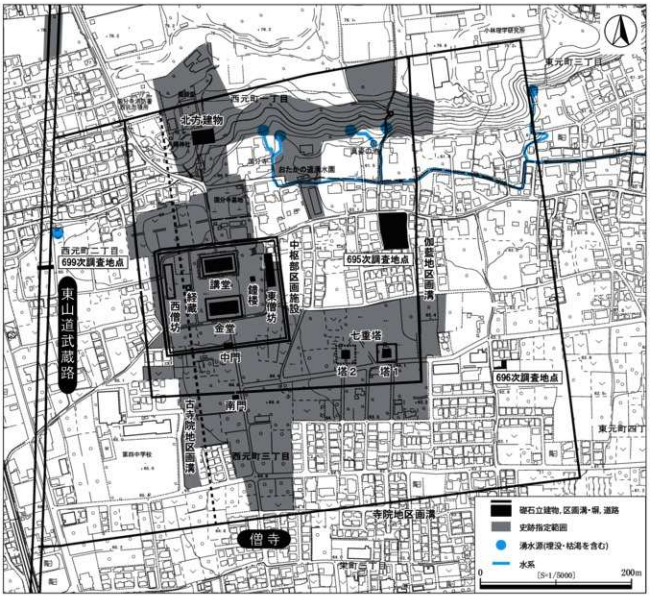
所在地	国分寺市西元町3-28-15		
調査原因	賃貸住宅建設		
調査期間	平成25年５月１日～６月17日		
調査面積	247.99㎡	遺物箱数	６箱
検出遺構	SB87,325,326,327/SI816～819 SK3440～3443/SZ35～40 SX340～349/P		
主な遺物	土師器・須恵器・土師質土器・陶製品・瓦塼類・銭貨・骨		

第 38 図　MK Ⅰ－695 調査地点位置図

１．調査の経緯

調査地点は西元町３丁目 28 － 15 番に所在し、野川源流の元町用水と並走する「もとまち通り」の南側で、国分寺崖線下の立川段丘面上に立地する。事業対象地内の現況地形は南西から北東へ向かって低く緩やかに傾斜し、現況標高は約 62.4 ～ 61.6 ｍをはかる。また、調査地点は武蔵国分寺僧寺伽藍地東辺の中央付近にあたり、東京都指定名勝真姿の池湧水群と七重塔に挟まれたほぼ中間にも位置している（第 38・39 図）。本事業地は、平成 25 年２月 15 日に文化財保護法第 93 条に基づく埋蔵文化財発掘の届出があり、同年度末に既存の旧家を解体した後で、２棟の木造賃貸住宅（アパート）を建設する計画が示された。これを受けて国分寺市教育委員会では、当該地は国分寺市№ 10 遺跡の範囲に含まれることに加え、国史跡武蔵国分寺跡の新整備基本計画（平成 14 年度策定）、まちづくり計画（平成 19 年度策定）、保存管理計画（平成 23 年度策定）等の諸計画において将来的に保存整備を念頭に入れた重要な地域としていること、さらには下記の理由から確認調査を実施する必要がある旨の意見を付して、届出を東京都教育委員会へ進達した。

当該地西側の南北道路上では、国分寺市遺跡調査会が昭和 53 ～ 54 年度に公共下水道（南部地区 19 号工事４路線）敷設に伴う発掘調査を実施している（武蔵国分寺跡第 87 次調査）。その時の調査で下水敷設予定の箇所に規模の大きな柱穴群が整然と並び、かつそれらが東側へ展開している状況が把握されたため、道路の東側に隣接する民有地内においても、当時の地権者の同意を得て庭先に追加トレンチを設定したところ、西側に庇を伴う南北棟の掘立柱建物を確認した（SB87 掘立柱建物跡）。SB87 は、庇を含む建物全体の規模が桁行７間（20.8 ｍ）、梁行３間（8.6 ｍ）を測り、桁行の主軸方位はＮ－８°－Ｅを示す。また、柱穴は幅約 1.8 ｍ前後の円形もしくは楕円形状のプランを呈し、確認面から柱穴底までの深さは平均で約 1.2 ｍ前後、柱間寸法はやや不統一ながらも庇・身舎ともに約９尺（３ｍ）を測る規模の大きな建物跡であった（第 41・43 図）。第 87 次調査では、建物を構成する柱穴のうち１－２～８、２－１～３・５～８、３－１・８、４－１・２・８の 19 基を検出し、柱穴１－４・５、２－１・２、３－１については覆土を半載後に完掘しているが（第 44 図）、土層堆積状況の観察から、建物はつごうＡ～Ｅ期の５時期の建て替えを行った形跡があり、出土遺物の検討によってその所産時期は８世紀後半～ 10 世紀前半頃の長期間におよんだ、という調査時点での所見を得ている（上敷領 1994）。さらに、この下水道敷設に伴う一連の発掘調査では、本地点の周辺からは SB87 と同様に、桁行が５間以上の大型掘立柱建物が集中して発見されている。これらは、①僧寺中枢部の東に隣接して占地すること、②伽藍地東辺溝とほぼ同方位で南北棟の大型建物を含むこと、



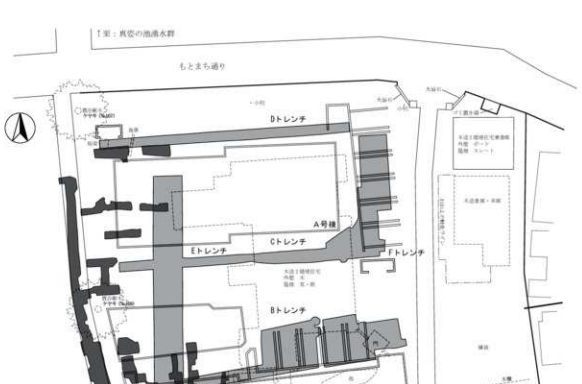
第 39 図　武蔵国分寺伽藍と第 695・696・699 次調査地点位置関係図

③国分寺の盛期にあたる 8 世紀後半から長期にわたり存続していること、④ SB87 から「納屋」を表すと考えられる「納」の墨書土器が出土していること、等から政所院あるいは太衆院の一部を構成する建物であることが想定されている（上敷領前掲）。

そのため、届出を受理した市教育委員会は、第 87 次調査のデータを参考としながら、2 棟（A 号棟・B 号棟）の賃貸住宅建設計画のうち、工事の掘削深度が深くおよぶ雨水浸透トレンチ設置予定部分に B・F トレンチを、給排水管敷設部分に A～D トレンチを、そして掘削深度こそ深くはないが、SB87 身舎東側の柱筋を探る目的から追加で南北の E トレンチを設け、結果的に開発区域 1,613㎡のうち約 15％にあたる 247㎡に対して確認調査を行うことにした（第 40 図）。なお、本調査は工事期間の関係から国庫補助事業の交付決定前の 5 月 1 日に着手している。

2．調査の結果

発掘調査は重機を用いて表土を掘削したが、調査着手時点で障害物のあった旧主屋部分にかかる C トレンチの東側は一部人力により掘り下げを行った。その結果、いずれのトレンチでも現地表面下約 40 ～ 50cm

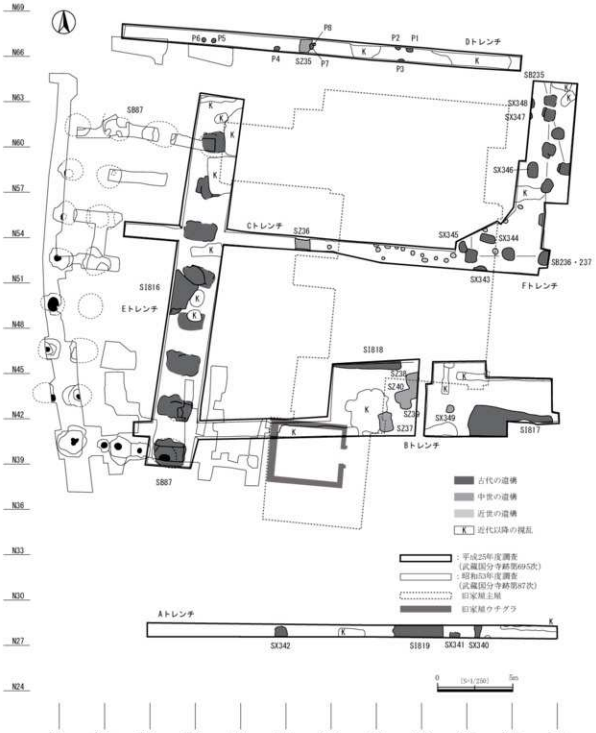


第 40 図　賃貸住宅建設計画とトレンチ配置図

の深さから古代～近世の遺構が確認された。以下、各時代ごとに発見された遺構・遺物の概要を記す。

（1）近世の遺構と遺物

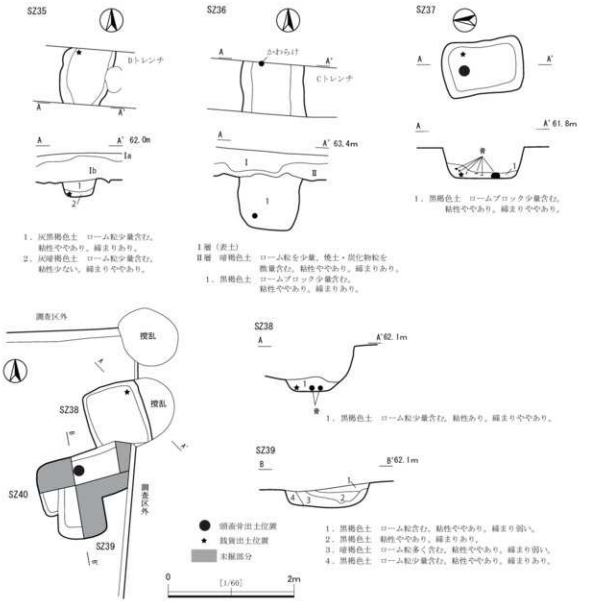
Ｃトレンチの東側で旧主屋直下において、ピット状の遺構が 17 基確認された。いずれもロームブロックを多量に含んだ暗褐色土を覆土とし、確認面からの深さは約 40cm 程度であった。部分的な調査のため詳細は不明だが、解体された旧主屋は明治 15 年建築の石場建て民家で、その前身となる掘立柱建物を構成する柱穴群と思われる。出土遺物は、第 48 図 4 ～ 11・23・24 に示した。4 は濃青色の呉須を用い、細筆書により絵付した染付碗（端反碗か？）で 19 世紀の肥前系の製品、5 は粘土紐による三足がとり付く瀬戸・美濃産の灰釉筒形香炉で、表面に半菊文を彫刻する 18 世紀代の製品である。ともにＢトレンチの攪乱坑（旧家屋に付帯していたウチグラの基礎に相当する部分）から出土した（写真 44）。6 ～ 9 はいずれも表土中から採集された瓦で、6・7 は連珠三巴文の軒丸瓦、8 も同種の文様だが巴が左巻きの軒桟瓦、9 は平瓦である。江戸遺跡の類例から 19 世紀前半以降の文様構成と見られる（金子 1996・2006 他）。10・11 は方柱状を呈する流紋岩質の砥石で、中央より端部で砥ぎ減りが目立つことから提げ砥であった可能性が考えられよう。11 は側面に鋸引きの痕跡を留めている。23・24 は銅銭で銭銘は寛永通宝、字体から類推していずれも 17 世紀末以降の新寛永と思われる。23 はＣトレンチを人力掘削中、旧主屋の土間を造成した土層中より出土している。



第41図　MK Ⅰ－695 調査区全体図

（2）中世の遺構と遺物

確認調査のため未掘の遺構が多く、覆土の様相だけから中世と近世の遺構を厳密に識別することは困難であるが、中世の遺構は墓壙６基とピット３基を確認した。墓壙は旧主屋南側の庭先にあたるＢトレンチで４基、旧主屋西側のＣトレンチ、北側のＤトレンチで各１基ずつが検出された。このうち、人骨（骨片を含む）を伴うものはＢトレンチの４基（SZ37 ～ 40）のみで、Ｃ・ＤトレンチのSZ35・36には人骨こそ出土していないが、掘り方の形状や出土遺物（かわらけ・銭貨等）から墓壙の可能性が高いものとみている。また、ピットは完形のかわらけ（第48図３）が出土したP4と同質の覆土をもつものが、Ｄトレンチを中



第 42 図　中世墓ＳＺ 35 ～ 40

心に 8 基確認された。

SZ35（第 42・48・49 図）

Ｄトレンチ中央に位置し、表土直下で発見された。1 m幅のトレンチであるため、南北両側はさらに調査区外へ広がるが、幅は 80cm、確認面からの深さは約 30cm を測る。北西隅の覆土下層から銭貨 6 枚と完形の土師質土器（かわらけ）1 点が出土した。第 48 図 1 はロクロ整形によるかわらけで、底部には回転糸切を施している。全体的にシャープな器形を呈し、胎土も精練された粘土を用いているが、体部や底部外面に指頭痕を留めるなど、雑な作りの印象も留めている。銭貨（第 49 図 13 ～ 18）は永楽通寶 4 枚の他に、北宋銭の皇宋通寶と政和通寶が各 1 枚ずつ加わる組成である。

SZ36（第 42・48・49 図、写真 43）

Ｃトレンチ中央やや西寄りで、SZ35 の南約 12 m離れて位置する。本墓壙もトレンチの南北両側でそれぞれ調査区外へと延びており、全体の形状は把握出来ていないが、幅は 90cm、確認面からの深さは約 80cm を測る。やはり北西隅にあたる覆土下層から完形のかわらけが 1 点と、出土位置・層位は不明ながら覆土中より銭貨が 1 点出土している。第 48 図 2 はロクロ整形のかわらけで、底部には回転糸切を施す。同

図１よりも砂粒を多く含む粗い胎土で、体部中位から口縁部にかけては、ややラッパ状に開く器形を呈している。銭貨（第 49 図 19）は、永楽通寶であった。

SZ37（第 42・49 図、写真 27・39・41）

Ｂトレンチ中央やや南寄りの位置から発見された。周囲にはロームを含む黒褐色土が不整形状に広がっていて、プラン把握時は本墓壙との識別は難しかったが、掘り下げていく過程で次第に形状が掴めてきた。平面は南北に長軸を有する長方形プランを呈し、長さ 120cm、幅 85cm、深さは 50cm を測る。人骨の遺存状態は必ずしも良好ではないが、頭蓋骨を北側に据え、四肢骨・大腿骨が横たわっている状況から側臥屈葬による埋葬方法であったことがうかがえる（出土人骨の人類学的な観察所見は次節で触れる）。遺物は頭蓋骨付近から２枚の銭貨が、また出土位置は明確ではないが、四肢骨・大腿骨部分の人骨とともに取り上げた土壙中からは３点の鉄釘が出土している。第 49 図 20・21 は銭貨で、それぞれ天聖元寶・淳化元寶の北宋銭である。同図 25 ～ 27 は頭部が欠損しているが、いずれも断面が方形を呈する鉄釘である。錆に木目が付着していることから、木の棺に打ち付けたものと思われる。

SZ38 ～ 40（第 42・49 図、写真 27・39・40・42）

Ｂトレンチ中央やや東寄りの位置から発見された。長さ 120cm、幅 80cm 規模の長方形状の土坑３基が重複しており、それぞれの覆土が似ていたこともあってプランの把握には難渋したが、ジョレンによる精査を繰り返す過程で人骨と思しき白色粉を見出し、墓壙と意識して調査を行った。したがって、確認面からの深さはいずれも 20 ～ 30cm と浅いものとなってしまっている。いずれの墓壙からも人骨が出土しているが、遺存状況は悪く、形状を維持したまま取り上げることは非常に困難であった。このうち SZ39 出土の頭蓋骨１点については、次節で人類学的所見を述べる。第 49 図 12 は銭貨で、SZ38 の北東隅から出土した。発見時は錆によって６枚が密着した状態であったが、アセトン溶液にしばらくの間浸潤させてから剥がしてみると、６枚すべてが永楽通寶であった（同図 12 －１～６）。

その他、SZ35 付近の小穴（P4）からは、完形のかわらけ（第 48 図３）が出土している。ロクロ整形によるものだが、橙色に焼成された同図１・２のかわらけとは異なり、灰白色の軟質な胎土を有する。内面は煤や油分が付着し、灯明具として使用された可能性がある。体部中位を指で強く押し当て、口縁部は屈曲して外上方に立ち上がる。底部に糸切痕は見えず、ヘラ状工具で撫でているようにも見えるが調整方法は判然としない。また、表土中からは銭貨が１点出土している。第 49 図 22 で銭銘は元豊通寶（北宋銭）である。

（３）SZ37・39 出土人骨について（写真 27）

SZ37：（成人・男性）

長方形の土坑に膝を曲げた側臥屈葬の状態で検出されている。頭蓋と四肢骨部分がその保存状態から推測できるが、四肢骨は白く粉末状になっており、明確に部位の同定はできない。

頭蓋骨は眉間部、後頭部、左右側頭骨の錐体が保存されている。顔面部分や下顎骨、歯の確認はできない。眉間から眉弓部分は明瞭に帯状に隆起しており、特に眉間部分から鼻根部に続く凹みが非常に強い。明らかに男性的な特徴を示している。また、左右側頭部錐体は頑丈である。乳様突起の先端は破損しているが、基底部は頑丈であり、男性と判断できる。さらに、後頭骨の外後頭隆起が顕著であり、周りの項筋付着面の隆起が著しい。骨断面は厚く、最も厚い箇所で 1cm である。これらの特徴は、前頭部の男性の特徴を補強する形態である。頭蓋骨の内板は滑らかで、骨多孔や静脈溝圧痕、さらに疾病による変化はない。

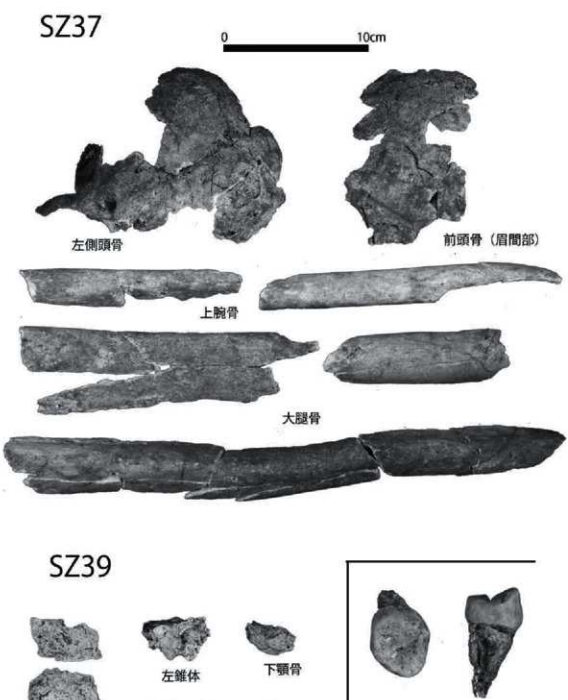
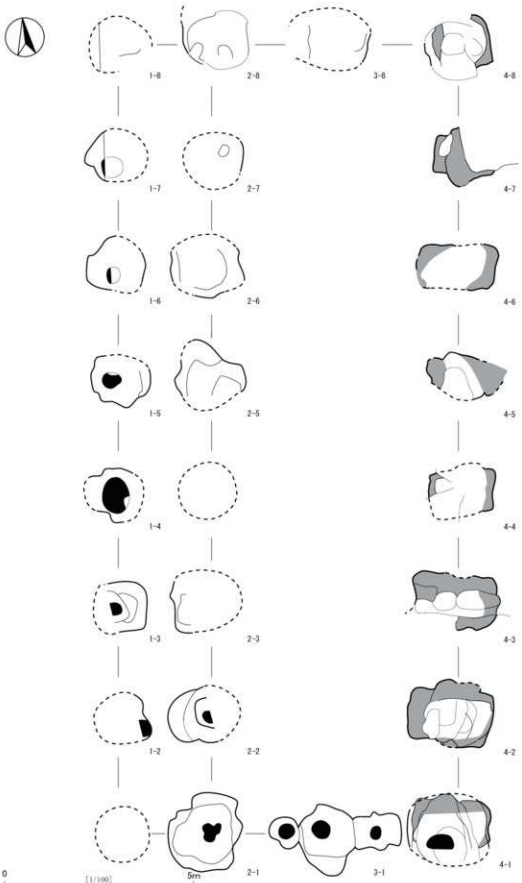
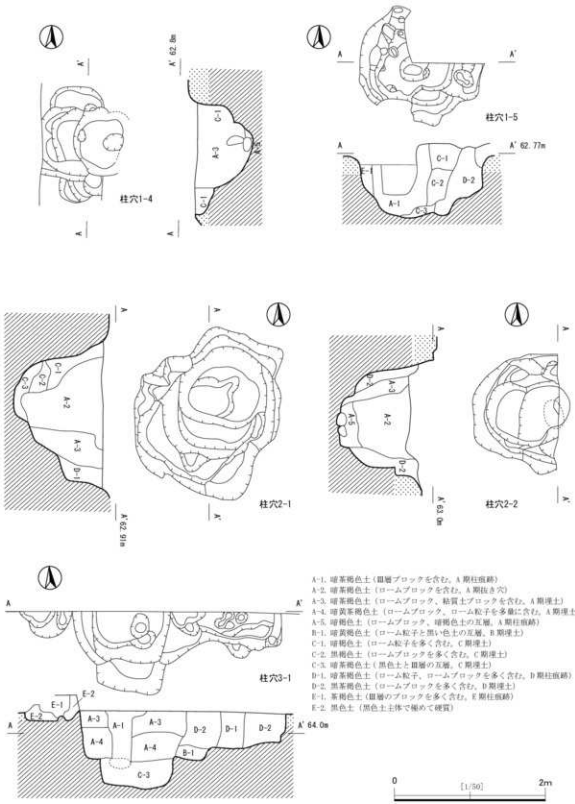


写真 27　SZ37・SZ39 出土人骨

の他は数cm四方の細かい骨片である。大腿骨片は、骨壁断面が厚く、後面粗線が確認できる。骨壁断面が緻密で、骨粗鬆症に見られる粗造な形状は観察できない。脛骨片も数点保存されている。ヒラメ筋線が確認できる。ヒラメ筋線の隆起部分に骨棘は形成されておらず、加齢傾向は観察できない。本土坑から出土した人骨の性別は、頭蓋骨の特徴から判断して明らかに男性である。年齢は、歯が保存されておらず、詳細な年齢は不明であるといわざるをえない。しかし、大腿骨後面粗線やヒラメ筋線に骨棘などの経年性変化が見られないことから、熟年や老年ではない。成人としかいえない。



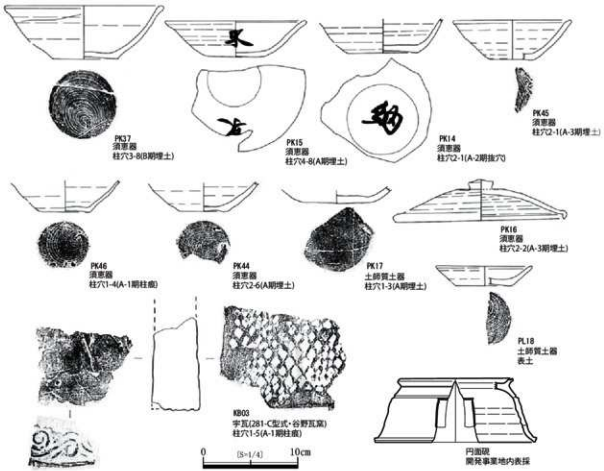
第43図　ＳＢ87全体図
（※第87次調査時の図面は『概報ＸＸ』をトレース）



第 44 図　ＳＢ 87 柱穴詳細図（上敷領 1994 より転載）

SZ39：（成人・男性）

頭蓋骨しか確認できず、四肢骨は保存されていない。顔面部分は破損しており、確認できない。前頭骨から側頭骨、頭頂骨から後頭骨が保存されている。後頭部外後頭隆起が顕著で、骨壁断面は最も厚い部分で 1 ㎝になる。項筋付着面の表面の隆起が強く、筋肉の良好な発達がうかがえる。明らかに性別は男性と判断できる。側頭骨の錐体は大きく、外耳孔は大きな楕円形を呈している。ラムダ縫合の一部が確認でき、縫合の



第 45 図　SB87 出土遺物（上敷領 1994 より転載）及び関連遺物

四肢骨は、骨体中央部が細長い骨片となって保存されている。管状のまま保存されているものはない。長いもので 15cmほどの破片となっているものが数点、5cmから 10cm程度の破片が数十片保存されている。そ癒合消失はない。経年性変化はない。以上の特徴から、当土坑墓から検出された頭蓋骨は、成人男性のものと思われる。縫合が癒合し、消失している痕跡はなく、年齢が進んだ個体であるとは言い難い。したがって、比較的若い壮年期のものと推測される。

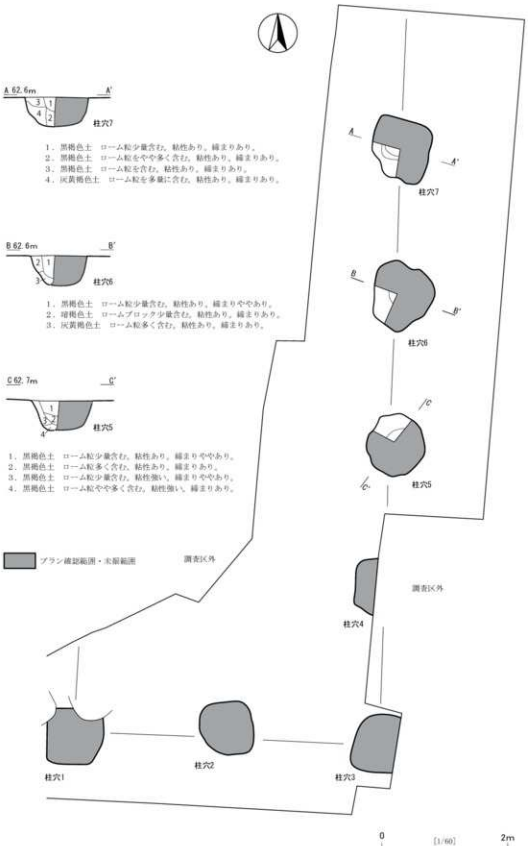
SZ37 および SZ39 から出土された人骨は、各土坑に 1 体埋葬され合計 2 体である。いずれも成人男性であり、経年性の変化が特に確認できず、壮年期に属すると推測される。熟年や老年のような年齢の進んだ個体ではない。保存されている 2 体とも頭蓋骨や四肢骨に疾病による変化は確認できない。

（4）古代の遺構と遺物

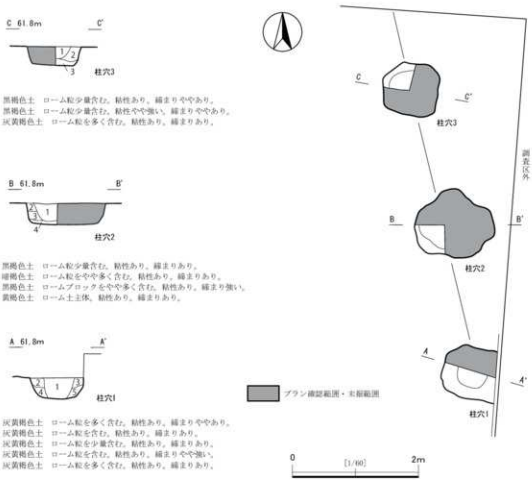
一部を除いてプランの確認のみに留めているため、詳細が不明なものも含まれるが、掘立柱建物 3 棟、竪穴住居 4 棟の他、土坑・ピット等が確認された。

SB87（第 41・43 ～ 45 図、写真 36 ～ 38）

冒頭で触れたとおり、昭和 53 年度の第 87 次調査で検出した掘立柱建物である。今回の調査で設定した E トレンチから、身舎の東側柱筋に相当する柱穴群 8 基（柱穴 4 － 1 ～ 8）を確認した。C トレンチにおいても 4 列以東に柱穴が広がる様子はないため、身舎の東には庇は付かず、西側だけの片庇建物となるようである。近代以降の攪乱の影響もあって柱穴自体の遺存状況は悪いが、柱穴 4 － 2・3・6 などに見られるように、平面プランは長方形を基調とし、およそ南北 120cm、東西 230cm 程度の規模を有している。柱穴



第46図　SB237 全体図



第47図　SB235 全体図

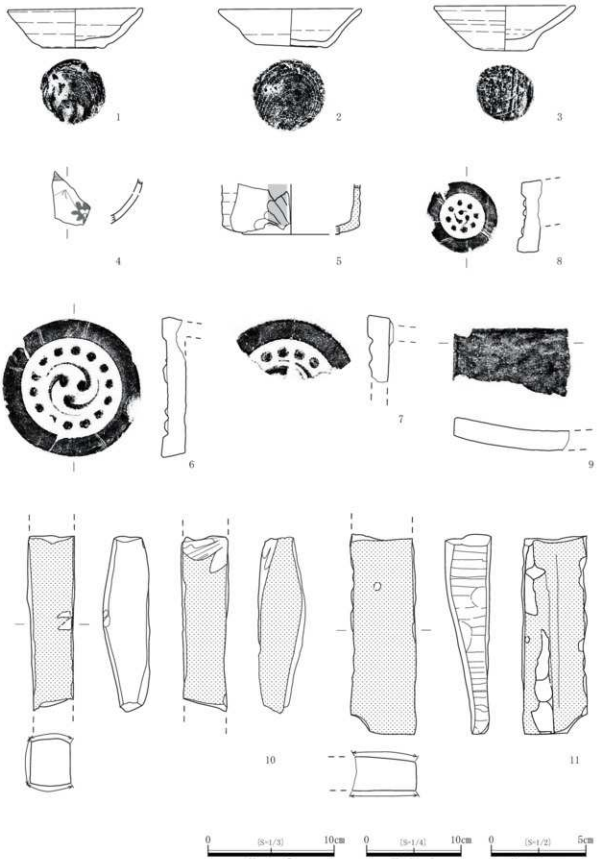
の平面プランが優に2mを超えるのは、僧寺伽藍中枢部を囲繞する掘立柱塀の柱穴にも匹敵する大きさといえ（国分寺市遺跡調査会 2014）、規模の面からも特別な役割を持った建物と類推できる。なお、今回の発掘調査で出土したものではないが、開発事業地内から表採された遺物の中に須恵質の円面硯が1点含まれていた（第46図右下）。脚部に透かしを施すもので、武蔵国分寺全体を見渡しても硯の出土例は決して多くはなく、特殊な建物と関連した遺物として捉えられそうである。

SB237（第41・46・50～52図、写真31）

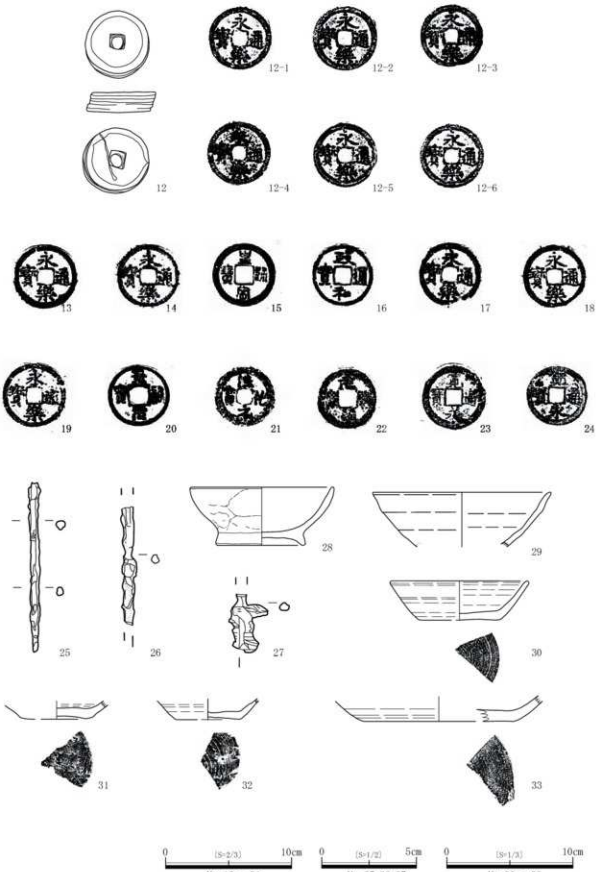
C～Fトレンチが交錯する範囲を中心に検出された。調査区の対象地外へも伸びており、建物の全体形が判明している訳ではないが、桁行4間もしくは4間以上（11.0m以上）、梁行2間（4.8m）の建物である。柱穴は全部で7基を確認し、柱穴1・3・4・7は一辺90cm程の方形、柱穴2・5・6は径90cm程の円形状の平面プランを呈している。これらの柱穴は約2.4mの距離を隔てて並んでおり、桁方向を主軸とみた場合、建物の方位はN－3°－Eを示している。このうち柱穴5～7の3基について部分的に覆土の掘り下げを行ったところ、確認面からの深さは45～50cmで、柱穴5・7などは柱を抜き取った形跡が認められた。遺物は、第50・51図39・40の男瓦、42の女瓦、第52図44・45の塼があり、いずれも柱穴6から出土した。

SB235（第41・47・51図、写真31）

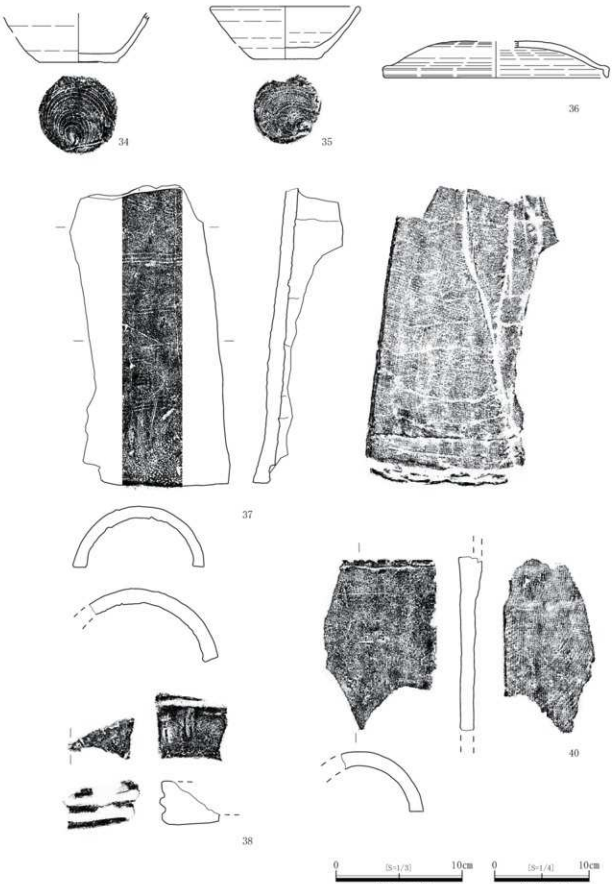
SB237と同じくFトレンチ内で発見された。掘立柱建物を構成する柱穴群か塀の一部かは判然としないところだが、便宜的に同種・同規模の柱穴が約2.2mスパンで3基並んでいる部分をSB235と命名した。



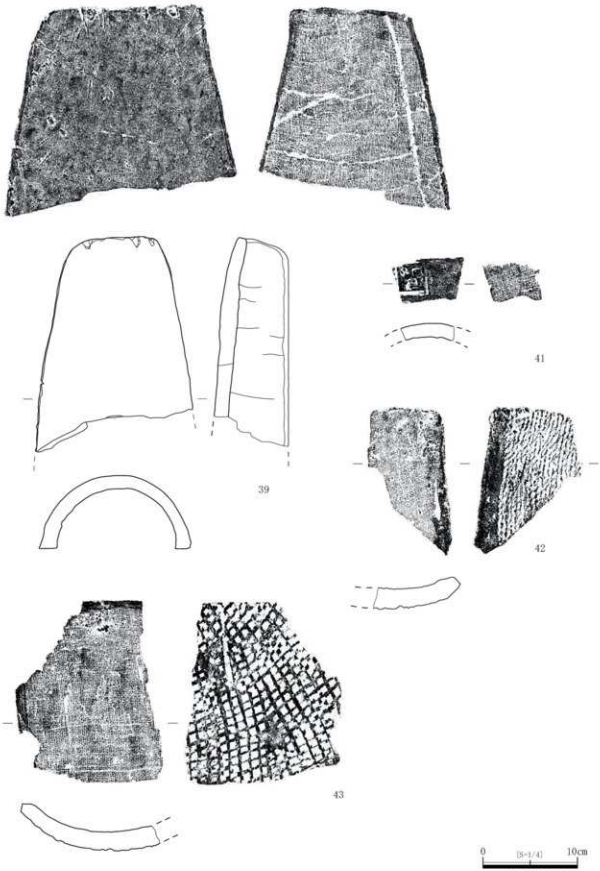
第 48 図　出土遺物実測図（1）



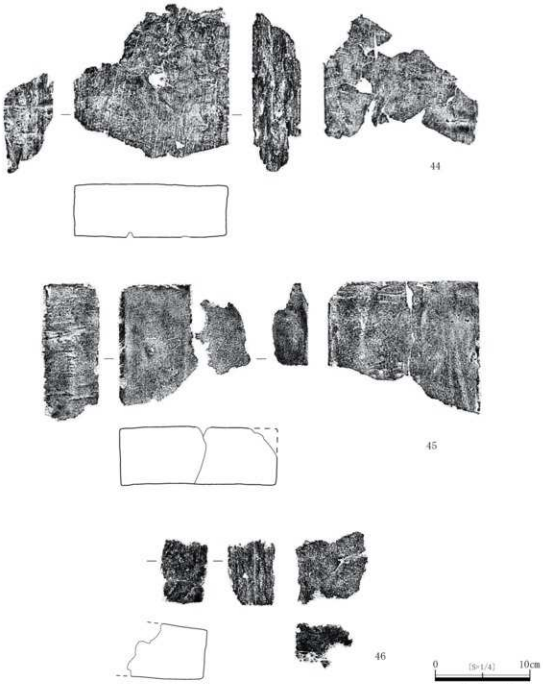
第 49 図　出土遺物実測図（2）



第 50 図　出土遺物実測図（3）



第 51 図　出土遺物実測図（4）



第 52 図　出土遺物実測図（５）

全長は 4.2 mを測り、３基ともプランを確認後、それぞれ一部で覆土の掘り下げを行っている。柱穴１・３は一辺 80cm の方形、柱穴２は不整形を呈し、いずれも深さは 30cm 程度を測る。図示した遺物は、柱穴２から出土した男瓦（第 51 図 41）がある。

SI816（第 41・49・50 図）

SB87 の柱穴４－５の南西側で、黒味の強い土が東西約 2.0 m×南北 2.5 mにわたって広がる範囲を住居として認識した。当該範囲には遺物を多く含んでおり、第 49 図 28 ～ 32、第 50 図 36 の土器類および第 52 図 46 の塼等が出土している。30・36 などの大振りな須恵器坏・蓋は８世紀代、28・31・32 の小振りな土師器埦・須恵器坏は９世紀代の所産と思われるが、SB87 との新旧関係は不明である。

第13表　MK Ⅰ－695遺物観察表（1）

No.	種別	製品の特徴
1	土師質土器 坏 （かわらけ）	法量　口径10.6/器高3.2/底径5.0　成形・整形　腰部は丸みをもって立ち上がる。底部回転糸切、ロクロ成形。　遺存状況　ほぼ完形　焼成　普通　色調　茶褐色　胎土　砂粒含み、やや粗い。　出土位置　SZ35覆土　遺物番号PL01
2	土師質土器 坏 （かわらけ）	法量　口径11.1/器高3.2/底径5.6　成形・整形　体部上方はラッパ状に開く。底部回転糸切、ロクロ成形。　遺存状況　ほぼ完形　焼成　普通　色調　茶褐色　胎土　砂粒・雲母含み、やや粗い。　出土位置　SZ36覆土　遺物番号PL02
3	土師質土器 坏 （かわらけ）	法量　口径11.0/器高3.7/底径4.5　成形・整形　体部上方はラッパ状に開く。底部回転糸切、ロクロ成形。　遺存状況　完形　焼成　普通　色調　灰白色　胎土　砂粒含み、やや密。　出土位置　P4覆土　遺物番号PL03
4	陶磁器 染付碗	法量　口径－/器高((4.2))/底径－　成形・整形　濃青色の呉須で絵付　遺存状況　体部片　産地　肥前系　出土位置　攪乱(旧主屋ウチグラ基礎)　遺物番号PT01　備考　端反碗
5	陶磁器 灰釉筒型香炉	法量　口径－/器高(4.0)/底径((7.8))　成形・整形　外面に半菊文様の彫刻、飴色の灰釉を施釉。　産地　瀬戸・美濃　遺存状況　底部～体部片　出土位置　攪乱(旧主屋ウチグラ基礎)　遺物番号PT02
6	軒丸瓦	法量　直径14.4/弁区径9.9/外区幅1.9　特徴　連珠三巴C種右巻14珠　遺存状況　瓦当部のみ　焼成　良好　色調　暗灰色　胎土　雲母含み密　出土位置　表土　遺物番号PT03
7	軒丸瓦	法量　直径(6.3)/中房径(1.1)/弁区径(4.0)/弁幅(1.4)/外区幅2.8/内縁幅0.4/外縁幅2.4/外縁高0.6/全長(2.7)　特徴　連珠三巴C種右巻14珠　遺存状況　焼成　良好　色調　暗灰色　胎土　瓦当表面に雲母粉　出土位置　表土　遺物番号PT04
8	軒桟瓦	法量　直径7.2/幅1.2/全長(2.5)　特徴　連珠三巴C種左巻８珠　遺存状況　瓦当部のみ　焼成　良好　色調　暗灰色　胎土　瓦当表面に雲母粉　出土位置　表土　遺物番号PT05
9	平瓦	法量　狭端(12.2)/全長(7.2)/厚み2.0　特徴　表裏面ナデ　焼成　良好　色調　暗灰色　胎土　雲母やや多く含む。　出土位置　表土　遺物番号PT06
10	石製品 砥石	法量　長さ(9.3)/幅2.5/厚み2.6/重量88.5　遺存状況　両端欠損　石材　流紋岩　備考　３面を砥面として利用。　遺物番号GL01
11	石製品 砥石	法量　長さ(10.5)/幅(3.4)/厚み2.5/7重量122.4　遺存状況　片端欠損　石材　流紋岩　備考　２面を砥面として利用。１面に鋸状加工痕。　遺物番号GL02
12-1	銭貨 永楽通寶	法量　外径2.5/内径0.6/厚さ0.1/重量4.2　出土位置　SZ38覆土　初鋳年　1408年(明)　遺物番号　MA07-1　備考　12-1～6の６枚は錆により固着した状態で出土。
12-2	銭貨 永楽通寶	法量　外径2.6/内径0.6/厚さ0.1/重量3.1　出土位置　SZ38覆土　初鋳年　1408年(明)　遺物番号　MA07-2　備考　12-1～6の６枚は錆により固着した状態で出土。
12-3	銭貨 永楽通寶	法量　外径2.4/内径0.5/厚さ0.1/重量3.2　出土位置　SZ38覆土　初鋳年　1408年(明)　遺物番号　MA07-3　備考　12-1～6の６枚は錆により固着した状態で出土。
12-4	銭貨 永楽通寶	法量　外径2.5/内径0.5/厚さ0.1/重量3.1　出土位置　SZ38覆土　初鋳年　1408年(明)　遺物番号　MA07-4　備考　12-1～6の６枚は錆により固着した状態で出土。
12-5	銭貨 永楽通寶	法量　外径2.5/内径0.5/厚さ0.1/重量3.3　出土位置　SZ38覆土　初鋳年　1408年(明)　遺物番号　MA07-5　備考　12-1～6の６枚は錆により固着した状態で出土。
12-6	銭貨 永楽通寶	法量　外径2.5/内径0.6/厚さ0.1/重量3.7　出土位置　SZ38覆土　初鋳年　1408年(明)　遺物番号　MA07-6　備考　12-1～6の６枚は錆により固着した状態で出土。
13	銭貨 永楽通寶	法量　外径2.6/内径0.6/厚さ0.1　出土位置　SZ35覆土　初鋳年　1408年(明)　遺物番号　MA01　備考

第14表　MK Ⅰ－695遺物観察表（2）

No.	種別	製品の特徴
14	銭貨 永楽通寶	法量　外径2.5/内径0.6/厚さ0.1　出土位置　SZ35覆土　初鋳年　1408年(明)　遺物番号　MA02 備考
15	銭貨 皇宋通寶	法量　外径2.5/内径0.7/厚さ0.1　出土位置　SZ35覆土　初鋳年　1038年(北宋)　遺物番号 MA03　備考
16	銭貨 政和通寶	法量　外径2.4/内径0.6/厚さ0.1　出土位置　SZ35覆土　初鋳年　1111年(北宋)　遺物番号 MA04-1　備考
17	銭貨 永楽通寶	法量　外径2.5/内径0.6/厚さ0.1　出土位置　SZ35覆土　初鋳年　1408年(明)　遺物番号 MA04-2　備考
18	銭貨 永楽通寶	法量　外径2.6/内径0.6/厚さ0.1　出土位置　SZ35覆土　初鋳年　1408年(明)　遺物番号　MA05 備考
19	銭貨 永楽通寶	法量　外径2.5/内径0.6/厚さ0.1　出土位置　SZ36覆土　初鋳年　1408年(明)　遺物番号　MA06 備考
20	銭貨 天聖元寶	法量　外径2.5/内径0.7/厚さ0.1　出土位置　SZ37覆土　初鋳年　1023年(北宋)　遺物番号 MA08　備考　篆書
21	銭貨 淳化元寶	法量　外径2.5/内径0.5/厚さ0.1　出土位置　SZ37覆土　初鋳年　990年(北宋)　遺物番号 MA09　備考　草書
22	銭貨 元豊通寶	法量　外径2.4/内径0.6/厚さ0.1　出土位置　表土　初鋳年　1078年(北宋)　遺物番号　MA10 備考
23	銭貨 寛永通寶	法量　外径2.5/内径0.6/厚さ0.1　出土位置　表土　初鋳年　　遺物番号　MA11　備考　新寛永
24	銭貨 寛永通寶	法量　外径2.4/内径0.6/厚さ0.1　出土位置　表土　初鋳年　　遺物番号　MA12　備考　新寛永
25	鉄製品 釘	法量　長さ8.9/幅0.7/厚み0.5/重量4.8ｇ　出土位置　SZ37覆土
26	鉄製品 釘	法量　長さ(6.3)/幅0.9/厚み0.5/重量4.2g　出土位置　SZ37覆土
27	鉄製品 釘	法量　長さ(3.1)/幅2.1/厚み1.3/重量3.5ｇ　出土位置　SZ37覆土
28	土師器 埴	法量　口径11.4/器高4.6/底径6.8　成形・整形　口縁部～体部横ナデ、底部外面回転ナデ、脚部は緩やかに口縁部は直立　気味に立ち上がる。　遺存状況　完形　焼成　普通　色調　橙褐色　胎土　粗い、砂粒多く含む。　出土位置　SI816確認面　遺物番号PM01
29	須恵器 坏	法量　口径((14.0))/器高(4.4)/底径－　成形・整形　ロクロナデ、やや丸みをもって立ち上がる。　遺存状況　体部1/4　焼成　普通　色調　橙褐色　胎土　砂粒・雲母を含み密　出土位置　SI816確認面　遺物番号PK01
30	須恵器 坏	法量　口径((10.8))/器高3.1/底径((6.4))　成形・整形　口縁部～体部ロクロナデ、底部外面回転糸切→外周回転ヘラ削り。　遺存状況　底部1/8　焼成　良好　色調　青灰色　胎土　砂粒・骨針含む。　出土位置　SI816確認面　備考　南比企窯産　遺物番号PK02
31	須恵器 坏	法量　口径－/器高(1.4)/底径((5.6))　成形・整形　底部回転糸切　遺存状況　底部1/6　焼成　普通　色調　灰褐色　胎土　砂粒含み、やや粗い。　出土位置　SI816確認面　遺物番号PK03

第15表　MK Ⅰ－695遺物観察表（3）

No.	種別	製品の特徴
32	須恵器 坏	法量　口径－/器高(1.7)/底径((5.2))　成形・整形　底部回転糸切　遺存状況　底部1/4　焼成　普通　色調　茶褐色　胎土　礫・砂粒含み密　出土位置　SI816確認面　遺物番号PK04
33	須恵器 坏	法量　口径－/器高(2.0)/底径((12.0))　成形・整形　やや丸みをもって立ち上がる。底部回転ヘラ削り。　遺存状況　底部片　焼成　良好　色調　青灰色　胎土　砂粒・骨針多く含み密。　出土位置　SI818確認面　備考　南比企窯産　遺物番号PK05
34	須恵器 坏	法量　口径－/器高(3.9)/底径6.2　成形・整形　やや丸みをもって立ち上がる。底部回転ヘラ削り。　遺存状況　底部片　焼成　普通　色調　橙褐色　胎土　砂粒少量含むが密。　出土位置　表土　遺物番号PK06
35	須恵器 坏	法量　口径((11.6))/器高4.1/底径5.1　成形・整形　体部は外上方に立ち上がる。底部回転ヘラ削り。　遺存状況　口縁～底部1/3　焼成　普通　色調　灰褐色　胎土　砂粒少量含み、粗い。　出土位置　表土　遺物番号PK07
36	須恵器 蓋	法量　口径((17.6))/器高(2.9)/底径－　成形・整形　体部回転ナデ、天井部回転ヘラ削り。　遺存状況　天井部1/4　焼成　普通　色調　灰褐色　胎土　砂粒少量含み密　出土位置　SI816確認面　遺物番号PK08
37	古代瓦 鐙瓦	法量　狭端(11.4)/広端(13.3)/全長(31.8)/厚み1.4　成形・整形　素材：粘土紐　凹面：布目21×21、絞り痕あり。　凸面：横ヘラ削り→ナデ。　側端面：ヘラ削り。　焼成　良好　色調　灰褐色　胎土　砂粒含むが緻密。表面に降灰釉付着。　出土位置　SI817確認面　遺物番号KA01
38	古代瓦 宇瓦	法量　上弦孤幅(6.1)/下弦孤幅(6.8)/厚み4.5/全長(6.4)　成形・整形　凹面布目、凸面ヘラ削り。段顎。　焼成　良好　色調　橙褐色　胎土　赤スコリア・砂粒を多く含み、粗い。　出土位置　攪乱　文様　三重孤文　遺物番号KB01
39	古代瓦 男瓦	法量　狭端9.2/広端－/全長(22.6)/厚み1.5　成形・整形　素材：粘土紐　凹面：布目20×21、絞り痕あり。　凸面：横ヘラ削り→ナデ。　側端面：ヘラ削り。　焼成　良好　色調　灰褐色　胎土　砂粒・石英多く含み粗い。　出土位置　SB237柱穴6(抜穴)　遺物番号KC01
40	古代瓦 男瓦	法量　狭端(7.9)/広端－/全長(18.2)/厚み1.5　成形・整形　素材：－　凹面：布目15×15　凸面：横ヘラ削り　側端面：ヘラ削り　焼成　良好　色調　灰褐色　胎土　砂粒・骨針含む。　出土位置　SB237柱穴6(抜穴)　遺物番号KC02　産地　南比企窯　備考　有段
41	古代瓦 男瓦	法量　狭端－/広端－/全長(6.0)/厚み1.4　成形・整形　素材：－　凹面：布目((21×21))　凸面：横ヘラ削り　側端面：－　焼成　良好　色調　灰褐色　胎土　砂粒・骨針含む。　出土位置　SB235柱穴3(抜穴)　遺物番号KC03　産地　南比企窯　備考　凸面に押印あり(文字不明)
42	古代瓦 女瓦	法量　狭端(9.2)/広端－/全長(16.2)/厚み2.3　成形・整形　素材：－　凹面：布目23×19　凸面：縄叩き(L８本)　側端面：ヘラ削り　焼成　良好　色調　暗灰色　胎土　礫・石英含み粗い。　出土位置　SB237柱穴6(抜穴)　遺物番号KD01
43	古代瓦 女瓦	法量　狭端(8.0)/広端－/全長(19.3)/厚み2.0　成形・整形　素材：粘土板　凹面：布目16×20　凸面：斜格子叩き　側端面：ヘラ削り　焼成　良好　色調　暗灰色　胎土　礫・石英含み粗い。　出土位置　SI817確認面　遺物番号KD02
44	土製品 塼	法量　長辺(18.5)/短辺16.3/厚み5.6　成形・整形　素材：粘土板(６枚重ね)　上面・下面・側面ともヘラ削り調整　焼成　良好　色調　灰白色　胎土　砂粒・骨針含み緻密。　出土位置　SB237柱穴6(抜穴)　遺物番号KH01　産地　南比企窯
45	土製品 塼	法量　長辺(14.7)/短辺16.6/厚み6.2　成形・整形　素材：－　上面・下面・側面ともヘラ削り調整　焼成　良好　色調　暗灰色　胎土　砂粒・石英含む。　出土位置　SB237柱穴6(抜穴)　遺物番号KH02
46	土製品 塼	法量　長辺(9.5)/短辺(8.1)/厚み5.8　成形・整形　素材：－　上面・下面・側面ともヘラ削り調整　焼成　良好　色調　暗灰色　胎土　砂粒・骨針含む。　出土位置　SI816確認面　産地　南比企窯　遺物番号KH03

SI817（第41・50・51図、写真32）

Ｂトレンチの東端で発見された。北壁は約5.0ｍを有し、その中央部付近には白色の粘土と大振りの瓦片が集中する箇所があり、おそらくはカマドの構築位置にあたると思われる。西壁部分は約2.0ｍを検出したが、南側はさらに調査区の外へと伸びている。カマド付近からは、第50図37の瓦当部を欠損した鐙瓦、第51図43の凸面格子目叩きを施す女瓦が出土している。

写真 28　E トレンチ砂埋戻し状況（東から）

写真 29　B トレンチ遺物出土状況（北から）

写真 30　B トレンチ東側全景（東から）

写真 31　SB235（南から）

写真 32　SI817 検出状況（東から）

写真 34

D トレンチ（東から）

写真 33　SI818 検出状況（北東から）

写真 35

A トレンチ(東から)

写真 36　Cトレンチ（西から）

写真 37　Eトレンチ（南から）

写真 38　SB87 柱穴 4-3（西から）

SI818（第 41・49 図、写真 33）

Bトレンチ中央の北寄りで発見された。住居の南端部のみの検出で、南壁は 4.5 m以上を測る。第 49 図 33 の須恵器坏が 1 点出土している。

SI819（第 41 図）

Aトレンチの中央東寄りで発見された。1 m幅のトレンチであるため、南北両側は調査区の外へ伸びている。東西の幅は約 3.2 mを測る。

その他、表土・攪乱土中から出土した古代の遺物には、第 50 図 34・35 の須恵器坏、38 の三重弧文の宇瓦片などが認められた。

3．小結

調査の結果、武蔵国分寺伽藍地の東辺部にあたる本調査地点では、第 87 次調査の成果と合わせて、大型掘立柱建物 SB87 の全容が判明した以外にも、複数の建物群が占地し、さらに時期は未詳ながらも複数の竪穴住居群が分布する状況も明らかとなった。今回の調査は、埋蔵文化財の内容・性格等を把握するための確認調査であることから、これまで報告してきた遺構は当初から記録保存目的ではなく、覆土の掘削も必要最低限度の範囲に留めている。そのため、ここでは SB87 の性格やA～E 期の 5 時期の変遷を示唆した前回の調査における所見の当否を検討する余裕はなかったが、調査期間中は、遺構の発見・分布状況に照らして建物の建設計画を地権者・施工業者と度重なる協議を行い、掘削が深くおよぶ雨水浸透トレンチはこれらの遺構を避けながら敷設して頂くことになった。つまり、基本的に古代・中世の遺構は、覆土を完全に掘り上げた中世墓 SZ37 以外は、すべて現地にて保存の措置が図られることとなった訳である。工期が差し迫った状況にも関わらず、埋蔵文化財の保護に理解を示され、多大な御協力を賜った地権者並びに施工業者の方々には、この場を借りて深く御礼を申し上げる次第である。なお、調査終了後は、写真 28 にもあるとおり、遺構保護のため遺構検出面上に砂を被せた状態で埋め戻しを行っている。

このような中で、予想外の成果としては、古代武蔵国分寺の伽藍中枢部に程近い当該地で、中世の土地利用の一端を掴めた事実であろう。墓壙とピットが数基というごく限られた内容ではあるが、副葬された銭貨（永楽銭）の存在から 15 世紀以降の所産であることは明らかである。これまで武蔵国分寺界隈の中世情報は、どちらかと言えば、尼寺北方の伝鎌倉街道・祥応寺跡の付近（福田 1996・

写真 39　SZ37 ～ 40（北から）

写真 40　SZ38 ～ 40（西から）

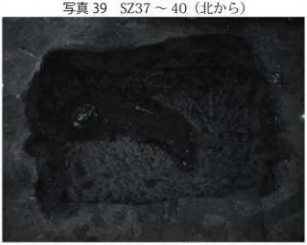


写真 41　SZ37 人骨出土状況（西から）

写真 42　SZ38 人骨出土状況（南から）

写真 43　SZ36 かわらけ出土状況（南から）

写真 44　B トレンチ土層堆積状況（北西から）

97）や JR 西国分寺駅周囲の恋ヶ窪廃寺跡・武蔵国分寺北方地区に偏って得られており（有吉 1986・板倉 2006 等）、僧寺伽藍中枢域近辺での状況は極めて不明確であった。本調査地点には調査着手直前まで明治 15 年建築の旧主屋があり、敷地北側を走るもとまち通り沿いには、今でも古くからの佇まいを留める民家が数軒建ち並んでいる。この旧主屋については、かつて市教育委員会で歴史的建造物としての調査を行ったことがあり（津山・大嶋他 1996）、今回、建物の解体時にも追加調査を実施している（依田 2013）。C トレンチで旧主屋の直下から発見された近世の柱穴群はこの前身の建物であった可能性があるが、現在の国分寺市を構成する近世 10 ヶ村の一つ「国分寺村」の成り立ちを考える上でも、中世・近世の土地利用をめぐるこれらの情報は貴重な成果といえる。今後、周辺域で行われる発掘調査でも引き続き注視していく必要があろう。

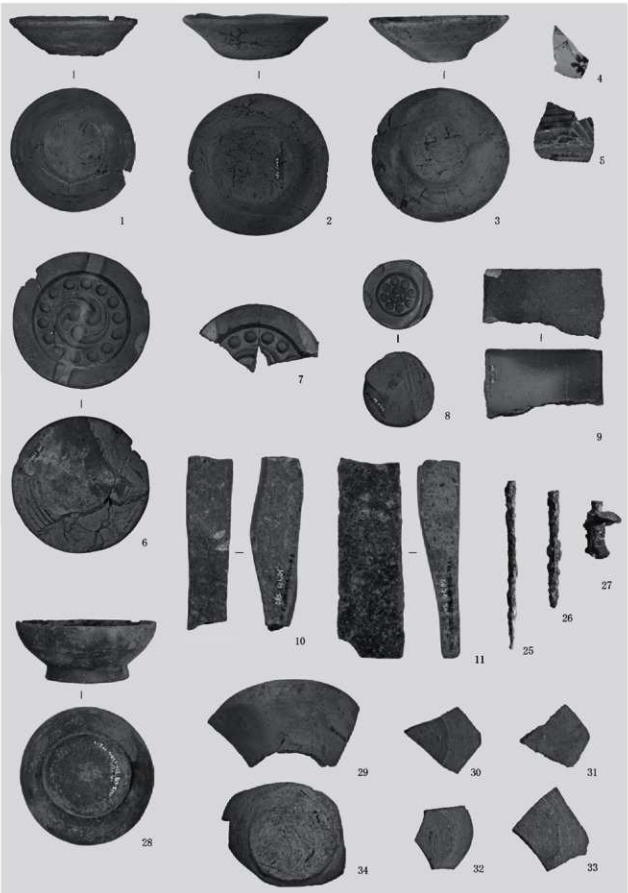


写真 45　出土遺物写真（1）

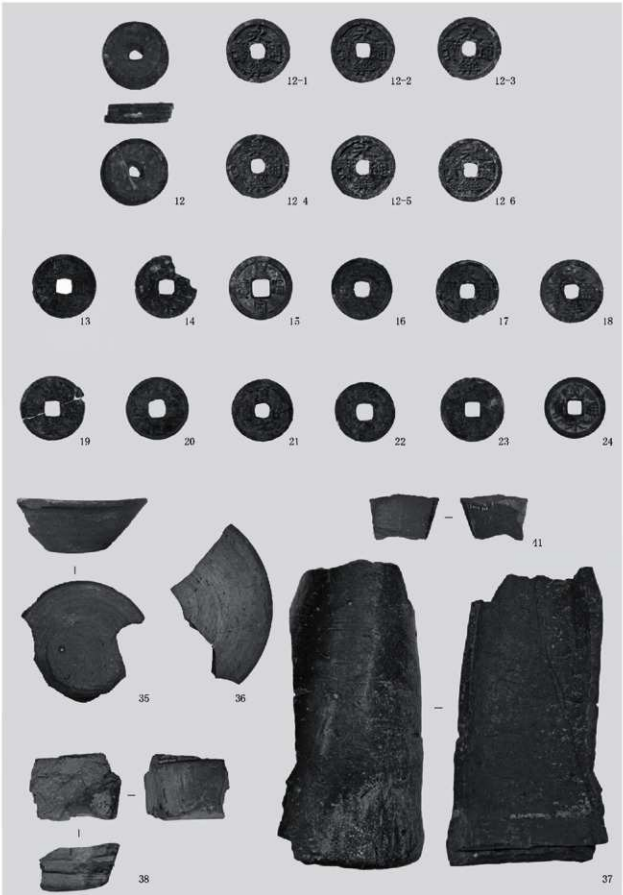


写真 46　出土遺物写真（2）

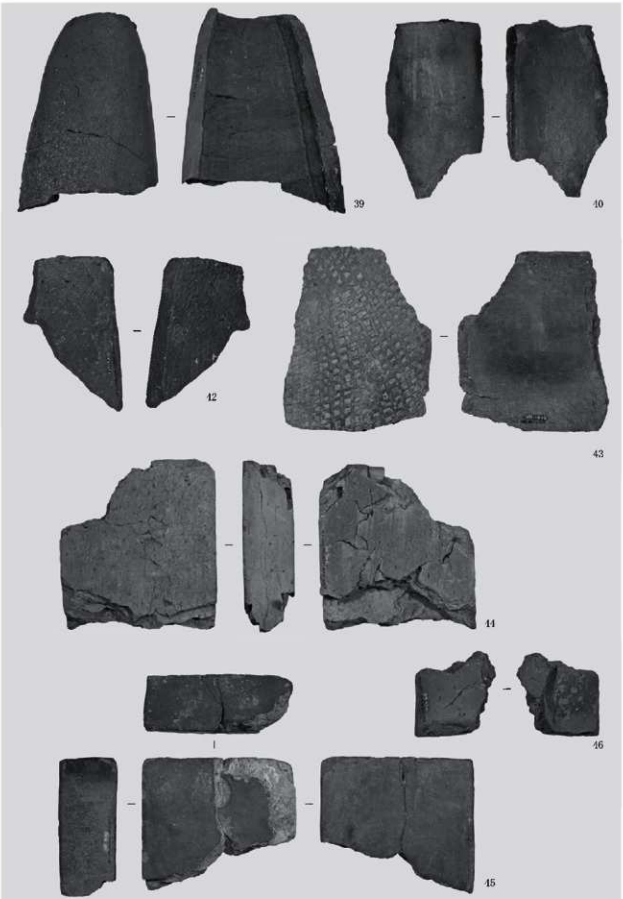


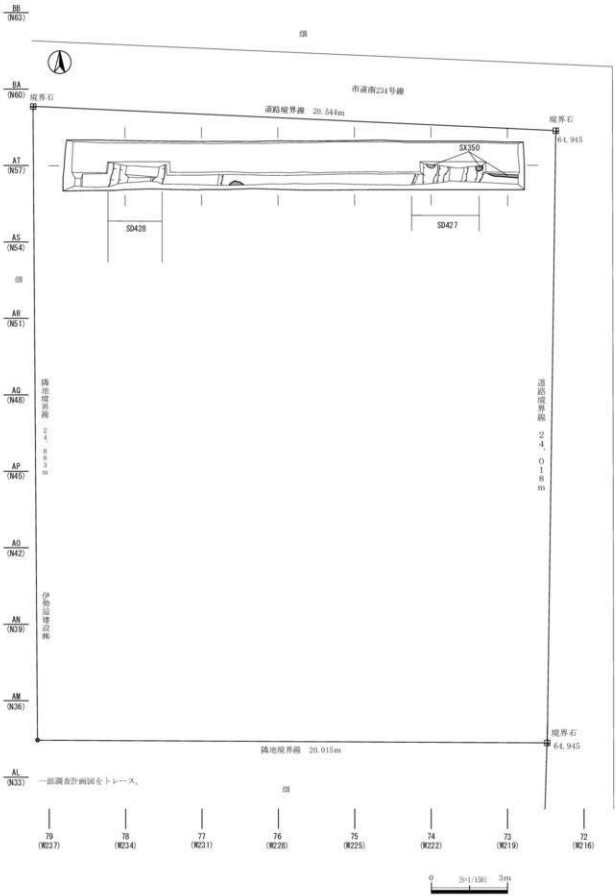
写真 47　出土遺物写真（3）

（2）武蔵国分寺跡第 699 次調査

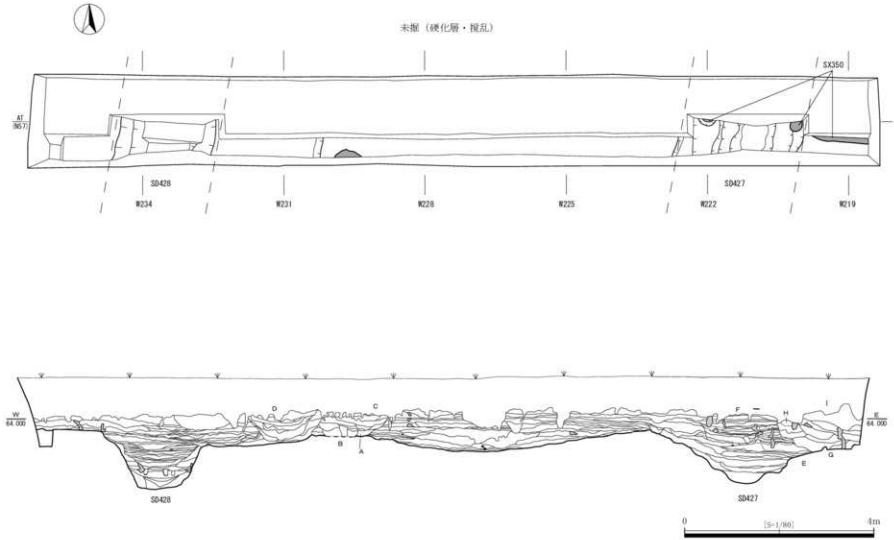
所在地	国分寺市西元町2-1657-2		
調査原因	学術目的		
調査期間	平成25年２月６日～３月28日		
調査面積	29.74㎡	遺物箱数	１箱
検出遺構	SD427, 428 SF1 SX350 P		
主な遺物	須恵器・土師質土器・瓦		

第 52 図　MK Ⅳ－ 699 調査地点位置図

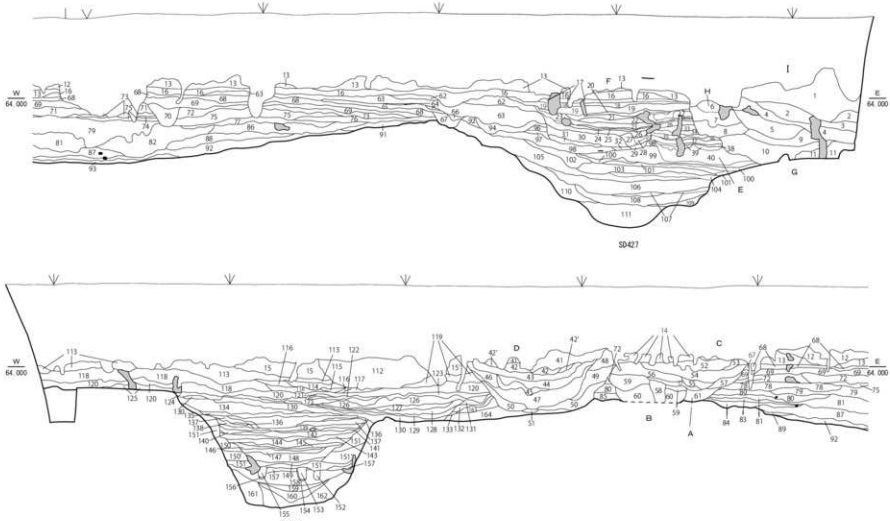
調査の所在地は国分寺市西元町二丁目 2546 番 29 で、武蔵国分寺跡（№ 10・19 遺跡）の僧尼寺中間地点にあたり、東山道武蔵跡が南北に通ると推定される地点である。本地点における東山道武蔵路は古代の官道であるとともに、僧寺の寺院地西辺の区画の機能を有していたと考えられることや、国分寺崖線下であり特徴的な立地にあたる。このため、市教育委員会は、当該地における東山道武蔵路の位置・規模・構造等を確認し、遺構の情報を蓄積する目的で遺構確認調査を計画し、地権者と平成 25 年 12 月 24 日から調査実施へ向けての調整を行い、平成 26 年 1 月 31 日に調査の承諾を得た（国教教ふ収第 757 号）。調査は市教育委員会が国分寺市遺跡調査会に委託して、平成 26 年２月６日から３月 28 日まで実施した。調査区は東山道武蔵路の推定位置に東西約 18 m、南北約２mを設定した。遺構確認を行った結果、調査範囲全体に硬く締まった層が確認され、下層遺構の存在を確認する目的で調査区南壁沿いにサブトレンチを設定し、遺構の断ち割りを行った。調査面積は 37.8㎡である。地表下約 0.6 ～ 0.7 mの深さで遺構確認を行い、硬く締まった層が確認された。東山道武蔵路の位置が不明確であるため、硬質層の構造や硬質層の下層にある遺構の有無を確認する目的で、一部断ち割りを行った。硬質層を掘り下げた結果、複数の掘り込みが確認された。中でも規模の大きな２条の溝（SD427・428）が検出された位置は、東山道武蔵路の東西側溝の延長線上にあたる。SD427 と SD428 の距離は芯々で約 12.5 mを測る。SD427 は上面幅３m以上、底面幅約 0.6 m、深さ約 1.1 m、SD428 は上面幅約２m、底面幅約 0.9 m、深さ約 1.2 mを図る。その他掘り込みが７箇所（A ～ I）確認された。A は幅約 0.7 m以上、深さ約 0.3 m以上、B は幅約 0.8 m以上、深さ約 0.3 m以上、C は幅約 1.4 m以上、深さ約 0.4 m以上、D は幅約 1.5 m以上、深さ 0.6 m以上、E は幅約 1.1 m以上、深さ約 0.5 m以上、F は幅 1.5 m以上、深さ約 0.5 m以上、G は幅約 1.4 m以上、深さ約 0.3 m以上、H は幅約 0.6 m以上、深さ約 0.4 m以上、I は幅約 1.3 m以上、深さ 0.7 m以上を測る。SD427・428 や掘り込み A ～ I は掘り込み内へ土が堆積した後や堆積する過程で硬化した層が確認され、さらに、その硬質層を切って掘り込みがなされる様子が断面観察で確認された。SD427・428 が最も古く、掘り込みの新旧関係は A → B → C → D、E → F、E → G → H → I である。硬質層は厚さ最大で 0.9 mを測り、上層は SD427・428 の間やその外側に東西約 16 m範囲に広がる。硬質層から須恵器や土師器、瓦の小片が出土した。SX350 不明掘り込みは、硬質層や SD427 を切る新しい掘り込みで、性格は不明。遺物は土師器・須恵器・瓦片が出土した。今回確認された規模の大きな溝跡（SD427・428）や厚く堆積した硬質層は、通常市内で検出される一般的な東山道武蔵路とは異なった様相を呈する。溝の規模が大きい理由については、以下の可能性等が考えられる。①本地点が武蔵国分僧寺の寺院地西辺区画としての性格が指摘されており、東山道武蔵路第１期の溝を国分寺創建や整備に伴って、国分寺の区画溝と同等規模に掘り直しが行われたため。②湧水が多い



第 53 図　MK Ⅳ－699 調査区全体図



第55図 東山道武蔵路SD427・428全体図



第56図　東山道武蔵路土層断面図

【解らふ4】（1～5）
1. 黒曜色土　ローム起・白色粘土粒微量、炭化粒・焼土粒極微量、粘性やや強い、締まり良い
2. 黒曜色土　ローム粒少量、白色粘土粒やや含む、焼土粒・炭化粒微量、粘性やや強い、締まり良い
3. 黒曜色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。砂質。粘性弱い、締まり硬い。
4. 黒曜色土　黒褐色土層の粘性土主体、黒色土微量、砂少量、粘性強い、締まり非常に硬い。
5. 黒曜色土　黒褐色土層の粘性土主体、黒色土微量、4層と似る、粘性やや強い、締まり硬い。

【解らふ4】（6～8）
6. 黒曜色土　ローム粒少量、微炭粒少、粘性弱い、締まり非常に硬い。12層と似る。
7. 黒曜色土　ローム起・黒色土粒少量、砂やや多い、粘性弱い、締まり非常に硬い。
8. 黒曜色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起微量、粘性強い、締まり非常に硬い。

【解らふ4】（9～11）
9. 黒曜色～暗褐色土　黒褐色土層の粘性土主体、ローム起・黒色土粒微量、粘性強い、締まり硬～非常に硬い。
10. 黒曜色土～暗褐色土　ローム起・黒色土粒少量、黒褐色土層粘性土ブロック含む。粘性強い、締まり硬い。
11. 黒曜色土　黒色土、黒ｂ・c層土の粘性土ムラ。ローム起微量、粘性弱い、締まり良い～やや硬い。
12. 灰黒褐色土　ローム起やや多い、ロームブロック微量、砂多い、粘性強い、締まり硬い。
13. 灰褐黒色土　ローム起微量、砂やや少量、粘性弱い、締まり非常に硬い。下層はローム起少量、砂やや少多い。
14. 灰黒褐色土　ローム起微量、微炭粒やや多い、粘性弱い、締まり非常に硬い。
15. 灰褐黒色土　ローム起少量、砂やや多い、粘性弱い、締まり非常に硬い。12層と似る。
16. 暗褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起微量、粘性強い、締まりやや硬い。
17. 暗褐黒色土　ローム粒極多い、砂やや多い、粘性弱い、締まり硬い。
18. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。上下2層あり。ローム起微量微量、粘性強い、締まりやや硬い。
19. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。粘性強い、締まり硬い。
20. 黒褐色土　ローム粒少量、黒褐色土層の粘性土ムラ。粘性弱い、締まり硬い。
21. 黒褐色土　ローム起・砂多い、粘性弱い、締まり硬い。
22. 黒褐色土　ローム起・砂多い、粘性弱い、締まり硬い。
23. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性ブロック入る。ローム起少し、砂多い、粘性弱い、締まり硬い。
24. 黒褐色土　黒褐色土層のくすんだ粘性土ムラ。微炭粒含む。粘性強い、締まり硬い。
25. 黒褐色土　ローム起微量、砂多い、粘性弱い、締まり硬い。
26. 黒褐色土　ローム起・砂多い、粘性弱い、締まり硬い。
27. 黒褐色土　黒褐色土層のくすんだ粘性ブロックあり。粘性強い、締まり非常に硬い。

【解らふ4】（27～32）
28. 暗褐色粘性土ローム　黒色土の混合。ローム起多い。ロームブロック含む。黒色土粒多い。黒褐色土層の粘性土ムラ。砂多い。粘性強い、締まり非常に硬い。
29. 灰黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。微炭粒少量、砂多い、粘性強い、締まり硬い。
30. 灰黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起微量、砂多い、粘性強い、締まり硬い。
31. 灰黒褐色土　ローム起、砂多い、粘性弱い、締まりやや硬い。
32. 灰黒褐色土　黒褐色土のくすんだ粘性土ムラ。微炭粒含む。粘性強い、締まり硬い。
33. 黒褐色土　ローム起微量、砂多い、粘性弱い、締まり硬い。
34. 暗褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。微炭粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
35. 暗褐色土　黒褐色土層のくすんだ粘性ブロックあり。粘性強い、締まり硬い～非常に硬い。
36. 黒褐色土　黒褐色土層のくすんだ粘性ブロックあり。粘性強い、締まり硬い。
37. 黒褐色土　ローム起・黒色土粒少量、上下に層あり。粘性強い、締まり硬い。
38. 黒褐色土　ローム起微量、黒色土粒微量、砂多い、粘性強い、締まり硬い。
39. 黒褐色土　ローム起微量、黒色土粒微量、4層と似る。粘性強い、締まり硬い。

【解らふ4】（40～42）
40. 灰黒褐色土　ローム起・白色粘土粒微量、炭化粒・焼土粒極微量、粘性やや強い、締まり良い。
41. 黒褐色土　ローム起少量、白色粘土粒やや含む、焼土粒・炭化粒微量、粘性やや強い、締まり良い。
42. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。砂質。粘性弱い、締まり硬い。

【解らふ4】（43～47）
43. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。黒色土微量、砂少量、粘性強い、締まり非常に硬い。
44. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。黒色土微量、4層と似る。粘性強い、締まり硬い。
45. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起微量、粘性強い、締まり非常に硬い。
46. 黒褐色土　ローム起少量、黒色土粒少量、ローム起微量、粘性強い、締まり非常に硬い。
47. 黒褐色土　ローム起少量、黒色土粒少量、砂粒多い、粘性強い、締まり非常に硬い。

【解らふ4】（48～50）
48. 黒褐色土　ローム起少量、黒色土粒少量、上下に層あり。粘性強い、締まり硬い。
49. 黒褐色土　ローム起少量、黒色土粒少量、上下に層あり。粘性やや強い、締まり硬い（下層は良い）。
50. 黒褐色土　ローム起微量、黒色土粒少量、上下に層あり。粘性強い、締まり硬い。

【解らふ4】（51～52）
51. 灰黒褐色土　ローム起・白色粘土粒微量、炭化粒・焼土粒極微量、粘性やや強い、締まり良い。
52. 灰黒褐色土　灰黒褐色土粒粘土ブロック。ローム起非常に多い。ロームブロック微量、黒色土粒含む。粘性やや弱い、締まり非常に硬い。

【解らふ4】（53～55）
53. 黒褐色土　ローム起少量、黒色土微量、微炭粒少量、粘性やや強い、締まり非常に硬い。
54. 暗褐色土　ローム起微量、微炭粒少量、粘性やや強い、締まり非常に硬い。
55. 灰黒褐色土～暗褐色土　黒ｂ～c層土のブロック含む。粘性土ムラ。粘性強い、締まり非常に硬い。

【解らふ4】（56～60）
56. 暗褐色土　黒ｂ層土の粘性土ムラ。ローム起微量、粘性強い、締まり非常に硬い。
57. 灰褐黒色土　ローム起多い、黒色土粒少量、砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
58. 灰黒褐色土　ローム起少量、微炭粒少量、粘性弱い、締まり非常に硬い。
59. 灰黒褐色土　ローム起微量、黒色土粒微量、砂粒含む。59層と似る。粘性強い、締まり非常に硬い。
60. 灰黒褐色土　ローム起やや多い、黒色土粒やや多い、砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。

【解らふ4】（61）
61. 灰黒褐色土　ローム起やや多い、黒色土粒少ない。59層と似る。粘性強い、締まり非常に硬い。
62. 灰黒褐色土　ローム起含む。黒色土粒、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
63. 黒褐色土　上層はローム起含む砂粒混じり。下層は黒ａ層ムラ。粘性土ローム起少量、粘性強い、締まり非常に硬い。
64. 黒褐色土　ローム起多い、粘性強い、締まり非常に硬い。
65. 黒褐色土　ローム起少量、黒色土粒微量、灰黒褐色土粒少量。下層ローム起含む。粘性やや強い、締まり非常に硬い。
66. 暗褐黒色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起微量、粘性強い、締まり非常に硬い。
67. 灰黒褐色土　ローム起少量、砂粒微量、粘性強い、締まり硬い。
68. 灰黒褐色土　ローム起少量、粘性強い、締まり非常に硬い。
69. 灰黒褐色土　ローム起少量、黒色土粒少ない、砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。

【解らふ4】（70～72）
70. 黒褐色土　ローム起少量、粘性強い、締まり硬い。
71. 黒褐色土　黒色土と黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起少量、粘性強い、締まりやや硬い～硬い。
72. 黒褐色土　ローム起少量、黒色土少量、黒褐色土層、粘性強い、締まり非常に硬い。
73. ローム土灰黒褐色土の混合。ローム起多い、黒色土ムラ。粘性やや強い、締まり硬い。
74. 黒褐色～暗褐色土　黒ｂ～c層土の粘性土ムラ。粘性やや強い、締まりやや硬い。
75. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒少量、粘性強い、締まり硬い。
76. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒多い、粘性弱い、締まり非常に硬い。
77. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起微量、粘性強い、締まり非常に硬い。
78. 黒褐色土　ローム起少量、黒色土粒少量、砂粒多い、粘性強い、締まり硬い。
79. 黒褐色土　ローム起少量、ロームブロックやや多い、黒色土粒・砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
80. 黒褐色土　ローム起少量、黒褐色土層の粘性土ムラ。微炭粒含む。粘性強い、締まり硬い。
81. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起微量、砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
82. 黒褐色土　ローム起やや多い、ロームブロック少量、砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
83. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起微量、砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
84. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起微量、81層と似る。粘性やや強い、締まり非常に硬い。
85. 黒褐色土　ローム起含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
86. 灰黒褐色土粘性土と砂の互層。ローム起多い、粘性強い、締まり非常に硬い。
87. 黒褐色土　ローム起少量、黒色土粒少量、砂粒多い、粘性強い、締まり非常に硬い。
88. 黒褐色土　ローム起少量、黒色土粒少量、黒ｂ層土の粘性土ムラ。砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。87層と同じ。
89. 黒褐色土　黒色土と黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起少量、粘性やや強い、締まり非常に硬い。
90. 黒褐色土　黒褐色土層に含む。粘性やや強い、締まりやや硬い。
91. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起微量、粘性強い、締まり非常に硬い。
92. 黒褐色土　ローム起多い、ローム粒少量、黒褐色土少量、砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
93. 黒褐色土　ローム起少量、ロームブロック少量、砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
94. 黒褐色土　ローム起多い、ロームブロック少量、砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
95. 黒褐色土　ローム起少量、黒色土粒微量、砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
96. 黒褐色土　ローム起含む。砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
97. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒多い。粘性強い、締まり硬い。
98. 黒褐色土　ローム起多い、黒色土粒少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
99. 黒褐色土　ローム起微量、砂粒多い、粘性強い、締まり硬い。
100. 黒褐色土　ローム起多い、ロームブロック少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
101. 黒褐色土　ローム起微量、砂粒多い、粘性強い、締まり硬い。
102. 黒褐色土　ローム粒少量、黒色土粒少量、砂粒含む。粘性強い、締まりやや硬い。
103. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。粘性強い、締まり硬い。
104. 黒褐色土　黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起・砂粒微量、粘性強い、締まりやや硬い。
105. 黒褐色土　ローム粒・炭化物少量、砂粒含む。粘性強い、締まりやや硬い。
106. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒微量、黒褐色土層の粘性土ムラ。粘性強い、締まりやや硬い。
107. 暗褐色土　黒ｂ～c層土の粘性土ムラ。ローム起含む。砂粒含む。
108. ローム土と砂質分黒色土の互層。粘性強い、締まり硬い。
109. 黒褐色土　ローム起微量、粘性強い、締まり硬い。
110. 109層と同じ。
111. 黒褐色土　黒ｂ層土の粘性土ムラ。ローム起微量、粘性やや強い、締まり硬い。
112. 暗褐色土　ローム起少量、粘性やや強い、締まり硬い。
113. 灰黒褐色土　黒ｂ層土粘土ブロックの混合。ローム起多い、黒色土粒少量、粘性強い、締まり非常に硬い。西側3粘性やや強い、締まり硬い。
114. 灰黒褐色土　ローム起微量、砂粒やや多い、粘性強い、締まり硬い。
115. 灰黒褐色土　ローム起少量、黒色土粒少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
116. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
117. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
118. 黒褐色土　ローム起少量、ロームブロック微量、黒色土粒少量、砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
119. 灰黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
120. 119層と同じ。
121. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
122. 121層と同じ。
123. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
124. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
125. 黒褐色土　黒色土と黒褐色土層の粘性土ムラ。ローム起微量、粘性強い、締まり硬い。
126. 黒褐色土　ローム起多い、ロームブロック微量、黒色土粒少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
127. 暗褐色土　ローム粒少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
128. 黒褐色土　黒ｂ土粒のブロック含む。砂粒含む。粘性強い、締まり非常に硬い。
129. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒やや多い、粘性強い、締まり硬い。
130. 灰黒褐色土　ローム起多い、ロームブロック少量、黒褐色土層の くすんだブロック含む粘性土やや多い。砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
131. 黒褐色土　ローム起多い、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
132. 黒褐色土　ローム起多い、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
133. 黒褐色土　黒褐色土層のくすんだ粘性土ムラ。ローム起微量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
134. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
135. 黒褐色土　ローム起微量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
136. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
137. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
138. 黒褐色土　ローム起少量、ロームブロック微量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
139. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
140. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
141. 黒褐色土　ローム起多い、ロームブロック少量、黒色土粒含む。砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
142. 黒褐色土　ローム起微量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
143. 黒褐色土　黒褐色土層のくすんだ粘性土ムラ。ローム起微量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
144. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
145. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
146. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
147. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
148. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
149. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
150. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
151. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
152. 151層と同じ。
153. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
154. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
155. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
156. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
157. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
158. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
159. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
160. 黒褐色土　ローム起少量、砂粒含む。粘性強い、締まり硬い。
161. 黒褐色土　黒ｂ層土の焼けのような粘性土。ローム起微量、粘性やや強い、締まり硬い。
162. 黒褐色土　ローム起微量、砂粒やや多い、粘性やや強い、締まり硬い。
163. 159層と同じ。
164. 黒褐色土　黒色土粒少量、黒ｂ層土粒、砂粒やや多い、粘性強い、締まり硬い。

写真 48　トレンチ全景（西から）

写真 49　掘り込み D 断面（北から）

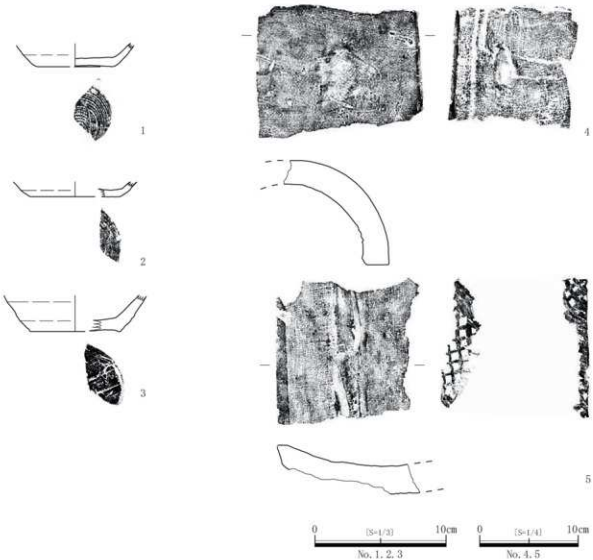
写真 50　SD427 断面（北から）

写真 51　SD428 断面（北から）

国分寺崖線下という立地であり、崖線上からの雨水等の排水のために規模を大きくした。硬質層については道路に伴う路面や国分寺崖線の下の湿地帯である立地に対する特別な道路の設えや、別のなんらかの構造物（地業遺構等）である可能性も指摘される。本調査区の北側で実施した既往調査では、東山道武蔵路延長線上で石敷きとその下層に硬質層が検出されており、関連について検討を進める必要がある。東山道武蔵路は泉町二丁目地区（国分寺崖線上）において、7 世紀後半から 11 世紀初頭までの 4 時期の変遷が確認されている。今回確認された溝跡や掘り込み硬質層などの遺構が東山道武蔵路の変遷の中でどの時期にあたり、どのような機能を果たしていたのか、また遺構の性格についてまだ明確ではない点が多く、今後の課題である。

第 16 表　MK Ⅳ－ 699 遺物観察表

No.	種別	製品の特徴
1	須恵器 坏	法量　口径－/器高(1.8)/底径(((5.7)))　成形・整形　体部は緩やかに立ち上がる。底部回転糸切。　遺存状況　底部1/3　焼成　良好　色調　灰褐色　胎土　砂粒・骨針含み緻密。　出土位置　表土　備考　南比企窯　遺物番号PK01
2	須恵器 坏	法量　口径((10.8))/器高3.1/底径((6.4))　成形・整形　体部は緩やかに立ち上がり、底部外面回転糸切。　遺存状況　底部1/4　焼成　良好　色調　灰褐色　胎土　砂粒・骨針含む。　出土位置　攪乱　備考　南比企窯産　遺物番号PK02
3	土師質土器 坏	法量　口径((10.8))/器高3.1/底径((6.4))　成形・整形　体部は緩やかに立ち上がり、底部外面回転糸切。　遺存状況　底部1/3　焼成　普通　色調　橙褐色　胎土　砂粒少量含む。　出土位置　表土　遺物番号PL01
4	古代瓦 男瓦	法量　狭端－/広端－/全長(13.5)/厚み2.5　成形・整形　素材：－　凹面：布目27×22、絞り痕あり。　凸面：ナデ　側端面：ヘラ削り　焼成　良好　色調　暗灰色　胎土　砂粒・骨針含む。　出土位置　SX350　遺物番号KC01　産地　南比企窯
5	古代瓦 女瓦	法量　狭端－/広端－/全長(15.5)/厚み2.3　成形・整形　素材：－　凹面：布目27×25、ナデ　凸面：格子叩き　側端面：ヘラ削り　焼成　良好　色調　明灰色　胎土　砂粒・雲母含む。　出土位置　表土　遺物番号KD01



第 57 図　出土遺物実測図

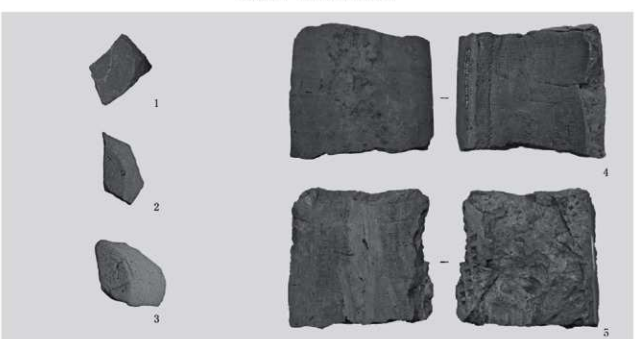
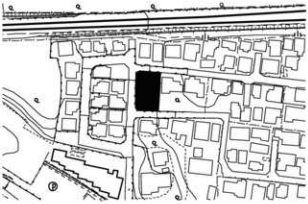


写真 52　出土遺物写真

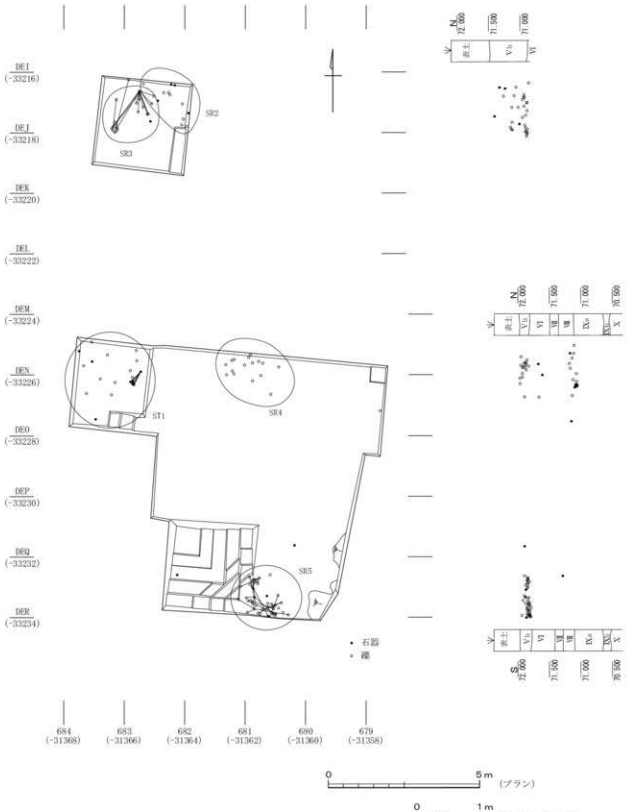
（3）殿ヶ谷戸北遺跡第５次調査

所在地	国分寺市南町１－９－15		
調査原因	確認調査		
調査期間	平成25年５月９日～６月７日		
調査面積	73.50㎡	遺物箱数	１箱
検出遺構	ST１ SR2～5		
主な遺物	石器・礫		



第58図　K20－５調査地点位置図

第59図　K20－５調査区全体図



第 60 図　調査区全体図及び遺物出土状況・接合関係図

写真 53　Cトレンチ全景（東から）

写真 54　Aトレンチ遺物出土状況（東から）

写真 55　Aトレンチ遺物出土状況（西から）

写真 56　Aトレンチ全景（東から）

調査区は殿ヶ谷戸北遺跡（№20）に該当する。遺跡の西側にあたり国分寺崖線がやや北側に抉りこむ武蔵野段丘斜面に所在する。先述した殿ヶ谷戸北遺跡第６次調査区の南側に隣接する。当該地は特に旧石器時代の遺構・遺物が存在する可能性があるため，住宅掘削部分を中心に，発掘調査を行った。調査面積は73.50㎡である。現地調査は平成 25 年５月９日～６月７日に実施した。

調査区内は，当初Ａ～Ｄの４箇所のトレンチを設定し，現地表面下約 40 ｃｍの深さで，調査を実施した。表土中より礫片が検出されたことから，調査の進行状況に応じてトレンチの拡張を行い，最終的には一体の調査区として確認を行った。縄文時代の遺構・遺物は未検出であるが表土中より縄文時代中期の阿玉台期の土器が１点出土した。旧石器時代の調査は最深部でⅨａ層まで実施し，Ⅴb 層中より礫群４基（SR ２～５）。Ⅸａ層中より石器集中地点１基（ST １）が検出された。礫群４基（SR ２～５）を構成する礫はいずれも良く焼けている。礫群の間からはチャートの砕片（第 60 図２・３、写真 61 －２・３）と黒曜石の砕片（第 60 図４～６、写真 61 －４～６）が出土している。いずれも砕片であり，定型的な石器はもとより，石核や石器の素材となる剥片は出土していない。また先述した殿ヶ谷戸北遺跡第６次調査区でも同様にⅤｂ層中より礫群が検出されているが，黒曜石は出土していない。地点によって黒曜石の搬入状況に差があると推測される。

ST1 石器集中地点はチャートの剥片で構成されており，叩き石（第 60 図７､写真 61 －７）および台石（第 61・62 図８・９、写真 61 －８・９）とも考えられる大型の礫器が出土した。またこれらの礫器と接するように １個体の母岩に接合される打ち割られたチャート（第 63 図 10 ～ 16、写真 61 － 10・写真 63 －

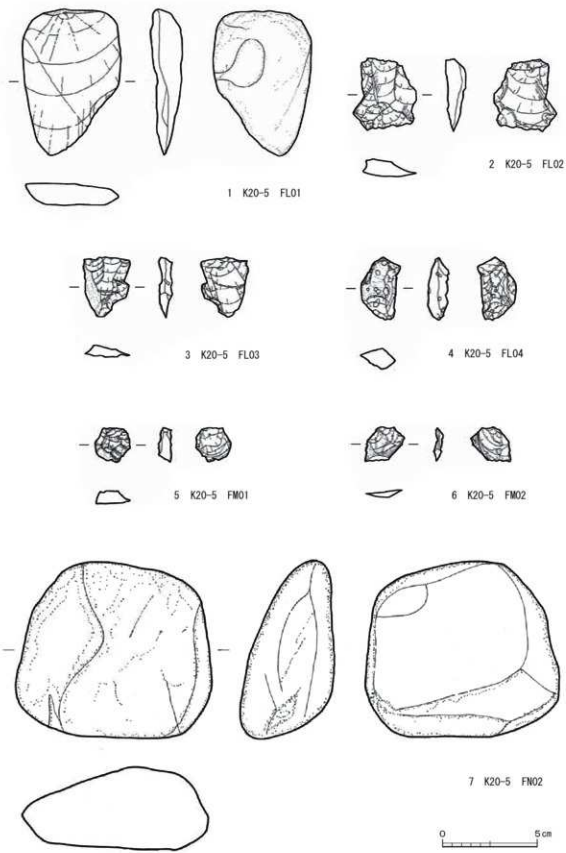
写真 57　Bトレンチ遺物出土状況（南から）

写真 58　拡張区遺物出土状況（南から）

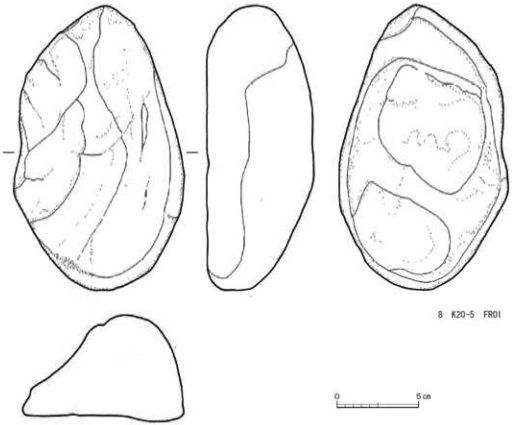
写真 59　拡張区遺物出土状況（西から）

写真 60　拡張区遺物出土状況（西から）

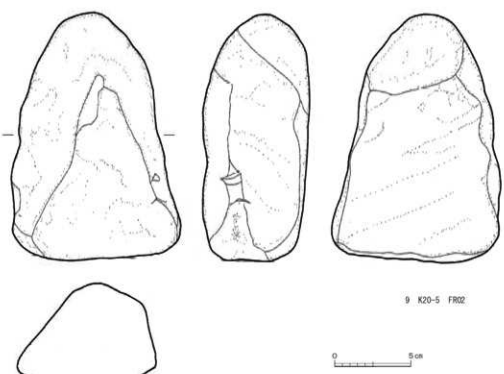
11 ～ 16）が出土した。母岩の割り方に規則性はなく，無作為に打ち割られておりそれぞれの剥片にも加工の痕跡は認められなかった。これらの石器は一か所にまとまって出土しており，母岩と叩き石，台石といった石器製作の道具箱的な痕跡が認められる。しかしながら剥片類や定型的な石器は検出されず，どのような石器が製作されたかは明らかではない。



第61図　出土遺物実測図（1）



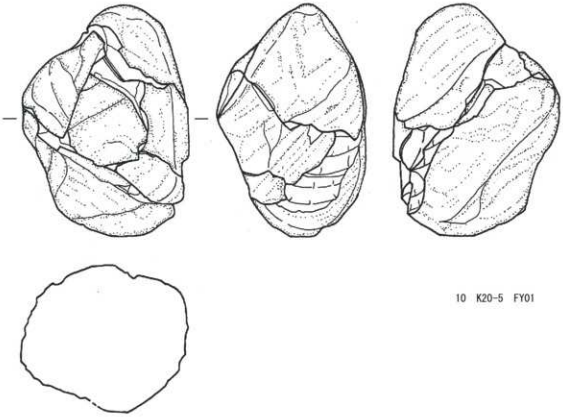
第 62 図　出土遺物実測図（2）

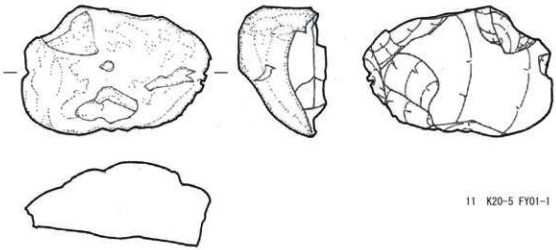


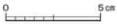
第 63 図　出土遺物実測図（3）

第 17 表　K20 － 5 遺物観察表（旧石器時代）

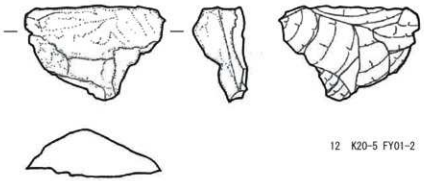
挿図 写真 遺物番号	種別 細分類	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	備考
第60図1 写真61-1 FL01	剥片	ST1	7.7	5.2	1.6	79.0	－	砂岩	断面台形で、縦長の剥片。打面は平坦打面で先端部は尖る。
第60図2 写真61-2 FL02	剥片 (不定形)	ST1	3.8	3.3	1.1	11.2	－	チャート	逆台形を呈するやや分厚い剥片。裏面に主剥離面を残し、表面に2本の稜線を残す。
第60図3 写真61-3 FL03	剥片	Ⅴb層	3.2	2.5	0.8	5.0	－	チャート	逆三角形を呈するやや薄手の剥片。裏面に主剥離面を残す。
第60図4 写真61-4 FL04	剥片	Ⅴb層	3.3	2.0	1.2	5.7	－	黒曜石	やや分厚い縦長剥片。左側縁上部に連続する微調整が施されているように見えるが、判然としない。
第60図5 写真61-5 FM01	砕片	Ⅴb層	1.8	1.9	0.7	2.3	－	黒曜石	断面は台形を呈し、やや歪んだ円形。裏面に主剥離面を残す。
第60図6 写真61-6 FM02	砕片	Ⅴb層	1.8	2.1	0.5	1.2	－	黒曜石	薄く鋭利で横長の砕片。裏面に主剥離面を残す。
第60図7 写真61-7 FN02	叩き石	ST1	9.4	10.3	5.0	640.0	完形	砂岩	断面は分厚い台形で、平面は三角形状。底辺端部はわずかに敲打痕がある。
第61図8 写真62-8 FR01	台石	ST1	18.5	10.5	6.6	1380.0	完形	砂岩	断面はやや歪んだ逆三角形で、平面形は長楕円形を呈する。全体に被熱し赤化している。
第62図9 写真62-9 FR02	台石	ST1	16.2	11.0	7.0	1660.0	完形	砂岩	断面はレンズ状を呈する。平面形は隅丸の方形。全体に被熱し、赤化している。
第63図10 写真61-10 FY01	原材	ST1	12.3	8.8	7.8	920.0	ほぼ完形	チャート	6片からなる接合体であり、ほぼ完形に復元された。楕円形を呈し、全面に礫皮面に覆われている。
第63図11 写真63-11 FY01-1	原材	ST1	7.3	10.0	4.4	340.0	－	チャート	断面は平円形で平面は楕円形。礫皮面を残し、分割後の剥片剥離は行われていない。
第64図12 写真63-12 FY01-2	原材	ST1	5.0	7.3	2.9	84.0	－	チャート	断面は扁平な三角形で平面形はやや歪んだ三角形。分割後の剥片剥離は行われていない。
第64図13 写真63-13 FY01-3	原材	ST1	2.5	4.2	2.4	23.5	－	チャート	断面はやや歪んだレンズ状の小破片。
第64図14 写真63-14 FY01-4	原材	ST1	4.0	5.1	3.7	80.2	－	チャート	断面はひし形を呈し平面形は長方形の小破片。



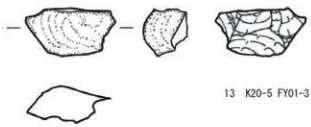




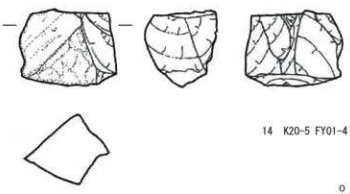
第64図　出土遺物実測図（4）



12　K20-5 FY01-2



13　K20-5 FY01-3



14　K20-5 FY01-4

第 65 図　出土遺物実測図（5）

第 18 表　K20 － 5 遺物観察表 2（旧石器時代）

図面 図版 遺物番号	種別 細分類	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	備考
写真63- 15 FY01-5	原材	ST1	6.6	7.3	3.6	188.2	-	チャート	断面はやや分厚いレンズ状を呈し平面形は半円形。全方向から幅狭の剥離痕が認められるが、石器素材となる剥片を剥離した痕跡は認められない。
写真63- 16 FY01-6	原材	ST1	5.7	9.8	4.6	203.6	-	チャート	両端に礫皮面を残し、上・下両端からの剥離痕が認められるが、石器素材となる剥片を剥離した痕跡は認められない。

1 K20-5 FL01

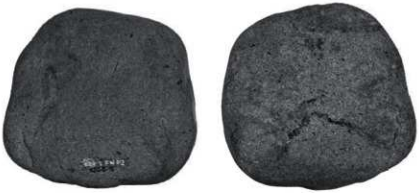
2 K20-5 FL02

3 K20-5 FL03

4 K20-5 FL04

5 K20-5 FM01

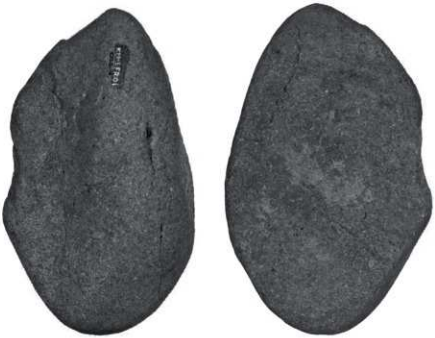
6 K20-5 FM02



7 K20-5 FN02

10 K20-5 FY01

写真61　出土遺物写真（1）



8 K20-5 FR01

9 K20-5 FR02

写真 62 出土遺物写真（2）

11 K20-5 FY01-1

12 K20-5 FY01-2

13 K20-5 FY01-3

14 K20-5 FY01-4

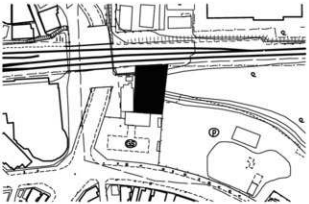
15 K20-5 FY01-5

16 K20-5 FY01-6

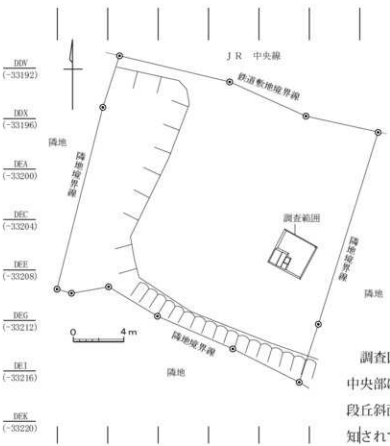
写真 63　出土遺物写真（3）

（4）№29 遺跡第２次調査

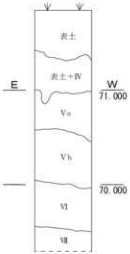
	国分寺市南町１－14		
調査原因	確認調査		
調査期間	平成26年３月11日～３月25日		
調査面積	8.59㎡	遺物箱数	１箱
検出遺構	なし		
主な遺物	礫		



第66図　K29－２調査地点位置図



第67図　K29－２調査区全体図

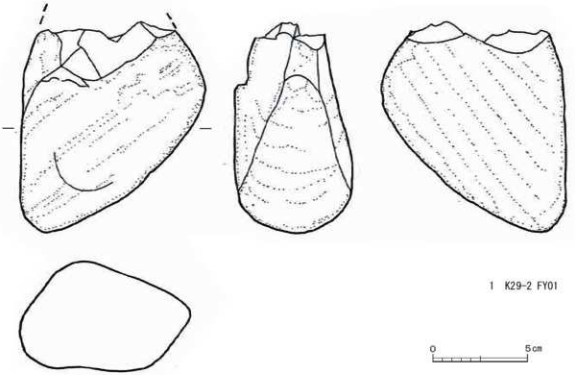


第68図　土層柱状図

写真64　遺物出土状況（東から）

調査区は№29遺跡に該当する。遺跡のほぼ中央部にあたり国分寺崖線が張り出した武蔵野段丘斜面に所在する。当該地は散布地として周知されており、特に旧石器時代の遺構・遺物が存在する可能性があるため、駐車場として削平される部分について発掘調査を行った。

調査面積は8.59㎡である。現地調査は平成26年３月11日～３月25日に実施した。調査区内は地表面下約60ｃｍの深さで基本層序Ⅲ層を調査し、縄文時代の遺構・遺物は未検出である。旧石器時代はⅣ層からⅦ層まで掘削し、Ⅴ層中より焼けた砂岩の原石１点（第68図１、写真65－１）が出土したが、遺構・石器は検出されなかった。



第69図　出土遺物実測図

第19表　K29－2遺物観察表（旧石器時代）

挿図 写真 遺物番号	種別 細分類	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石材	備考
第68図1 写真65-1 FY01	原材	Vb層	11.1	9.7	6.3	815.0	欠損	安山岩	断面やや歪んだ台形で平面形は隅丸の三角形。被熱のため赤化している。

1 K29-2 FY01

写真65　出土遺物写真

第3章　まとめ

平成 25 年度調査は個人住宅建設に伴う事前調査および民間開発事業に伴う確認調査を含めて 11 地区であり、総調査面積は 575.83㎡であり前年と比してやや減少傾向にあった。しかしながら調査された時代を見ると、旧石器時代Ⅸ層段階・Ⅴ層段階、縄文時代早期・中期、古代・中世にいたるまで各時代に及んでおり、それぞれ特徴的な遺物・遺構が発見された。ここでは主な調査について下記にまとめる。

旧石器時代

多摩蘭坂遺跡（№7 遺跡）1 地区，殿ヶ谷戸北遺跡（№20 遺跡）2 地区、№29 遺跡 1 地区で調査を行った。多摩蘭坂遺跡では谷底を調査し、石器は出土しなかったものの浅い谷が遺跡のほぼ中央を分断するかのように切り込んでいることが分かった。殿ヶ谷戸北遺跡では、これまで当該遺跡では出土例がなかったⅨb 層中より石器集中地点が検出され、さらにそこが母岩を打ち割った現場と考えられるような出土状況が認められた。Ⅴb 層中より検出された礫群は、当該遺跡では比較的普遍的に認められるやや散漫な形状である。ただし黒曜石が入る礫群と入らない礫群があり、黒曜石の搬入状況に差があると推測された。これらの調査地区からは定型的な石器が 1 点も出土しておらず、きわめて短期的な居住地であった可能性も指摘されよう。№29 遺跡では焼けた礫が 1 点のみ出土しており、あるいは近傍に礫群が存在する可能性もある。

縄文時代

恋ヶ窪遺跡（№2）1 地区、殿ヶ谷戸遺跡（№21）2 地区で調査を行った。恋ヶ窪遺跡ではいわゆる環状集落の西辺の住居の分布が確認された。部分的な調査であることから住居の全容は明らかではないが、いわゆる環状集落が形成される時期の勝坂期の土器が出土していないことから、集落が形成される初期の住居の可能性がある。殿ヶ谷戸遺跡では、特に第 15 次調査地区において早期の田戸上層期土器片が出土した。これまで該期の遺跡は武蔵国分寺跡北方地区が主体となると考えられていたが（国分寺市遺跡調査会 2005）、今次調査の成果から濃淡に差はあるものの国分寺崖線に沿って田戸上層期の遺跡が展開する可能性を示した。また，中期の貉沢期土器群についても、一か所に集中する例は国分寺市内では少なかったことから該期の遺跡が周辺に存在する可能性が指摘される。

古代・中世

武蔵国分寺跡（№10・19）4 地区で調査を行った。ここでは第 695 次調査地と第 699 次調査地についてまとめる。武蔵国分寺の伽藍地東辺部にあたる第 695 次調査地点では、まず、昭和 53 年度に実施した第 87 次調査の成果を裏付けるように、大型掘立柱建物 SB87 の全容が判明することとなった。SB87 は桁行 5 間×梁行 2 間の身舎とその西側に庇を伴う格式の高い建物跡で、建物の規模はもとより個々の柱穴の規模も大きく、前回の調査では柱穴の堆積土層の切りあい関係を観察した結果、建て替えをしながも 8 世紀後半から 10 世紀代の長期にわたって営まれた建物と想定されていた。今回の調査で身舎東側の柱列を検出し、87 次調査と合わせて建物の全体の形状こそ判明したものの、確認調査という目的もあってプランの確認に留めており、時期等の詳細な手がかりは得られなかった。この他、掘立柱建物・竪穴住居等も至近に分布する状況が確認された。これらの遺構は、調査終了後に、遺構保護のため砂を被せた状態で埋め戻しを行っている。

また、予想外の成果として、古代武蔵国分寺の中枢部に程近い当該地で、中世の土地利用の一端を掴めた

事実がある。墓壙とピット数基という限られた情報ではあるが、墓壙に六道銭として副葬された銭貨（永楽通寶）の存在から 15 世紀以降の所産であることが明らかである。これまで武蔵国分寺界隈での中世の考古学的情報は、尼寺北方の伝鎌倉街道・祥応寺跡（福田 1996・97）や JR 西国分寺駅付近の恋ヶ窪廃寺跡・武蔵国分寺北方地区に偏って得られており（有吉 1986・板倉 2006 等）、僧寺伽藍中枢域近辺での発掘情報は極めて少なかった。また、中世墓出土の人骨についても、人類学的見地から分析を加えたのも武蔵国分寺北方地区に次いで２例目となった（パリノ・サーヴェイ株式会社 2006）。未だ資料は少ないが、そのような意味では古代寺院としての武蔵国分寺の変容をうかがう貴重な資料が得られたものと思われる。

第 699 次調査は、国分寺崖線際における東山路武蔵路の位置・規模・構造等の状況を把握する目的で行った確認調査である。調査地点から北へ約 20 m離れた地点では、昭和 58 ～ 59 年度に武蔵国分寺跡第 37 次調査として公共下水道敷設に伴う発掘調査を行っており、そこでは東西両側溝を伴う通有の道路状遺構ではなく、石敷面（SX28）とその下部の硬質面及びその掘り込み（SX29）で構成される特殊遺構（SX28・29 道路状遺構）が発見された（国分寺市遺跡調査会 1998）。当時の調査所見によると、SX28 は幅 6 m前後で礫と瓦の破片が敷かれた道路の路面、SX29 の硬質面は幅 15 m以上あり、更に調査区の東側へ延長していた。覆土は酸化鉄とローム粒子を多量に含む粘性の乏しい硬質な土が主体で、下部の掘り込みは最深 1 mで不連続の土坑状を呈していたが、東西両側溝に特定出来る溝は確認されていなかった。なお、SX28・29 道路状遺構自体は地中保存され、下水道はその下位を通過する形で敷設されている。今回の調査は、この第 37 次調査成果を受けて、至近地で崖線際の東山道武蔵路の状況をさらに探るべく、地権者の御協力を得て東山道武蔵路が通過することが予測される範囲に、東西 18 m×幅 2 mのトレンチを設定して実施した。その結果は、第 2 章第 3 節（2）で触れたとおりで、X28・29 と類似する礫・瓦敷きの遺構は検出されず、東西に約 12 mの距離を隔てた並走する溝と、その間に形成された硬質面が発見された。周辺域での一般的な東山道武蔵路のイメージに近い道路状遺構といえるが、細部で観察すると、側溝（SD427・428）の規模はいずれも上面幅で約 2 m、深さも 1 m以上に及び、側溝間の路面はあたかも寺院版築を思わせるような硬質面が幾重にも重畳した形である点が特筆される。また、SD427・428 の間には平面的検出こそ叶わなかったが、小規模な溝状の掘り込みが複数箇所で確認され、時期を違えた側溝の造作である可能性も考えられる。第 37 次調査で発見された SX28･29 の広がりは、結局のところ第 699 次調査区との間で終結していることとなるが、こうした至近地で道路の構造や様相が大きく変換することは、崖線際における道路築造の技術的観点からも興味深い現象といえるだろう。

最後になりましたが、本書に収載した個々の緊急発掘調査にあたっては、地権者の皆様ならびに施工業者様のご理解とご協力なくしては到底実現し得なかったものです。調査に関係されました皆様には、改めて感謝の意を表します。

〔参考文献〕

有吉重蔵 1986「国分寺市域における中世遺跡」『国分寺市史　上巻』国分寺市

板倉欽之 2006「第４章　小結　第１節　歴史時代」『武蔵国分寺跡発掘調査概報 33 －北方地区・西国分寺駅東地区第一種市街地再開発事業に伴う調査－』国分寺市遺跡調査会

金子　智 1996「江戸遺跡出土資料に見る近世軒平瓦・軒桟瓦の地方色」『古代』第 101 号　早稲田大学考古学会

金子　智 2006「第８章　考察編　第１節　瓦類の様相」『東京都千代田区有楽町二丁目遺跡』有楽町駅前第１地区市街地再開発組合

上敷領久 1994「Ⅵ　小結」『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸＸ』国分寺市遺跡調査会

国分寺市遺跡調査会 1998『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸＸⅡ』

国分寺市遺跡調査会 2005『武蔵国分寺跡発掘調査概報 30 －（仮称）国分寺プロジェクト計画工事に伴う調査―』

国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会 2014『国指定史跡武蔵国分寺跡附東山道武蔵路跡－平成 24 年度保存整備事業に伴う事前遺構確認調査－』

津山正幹・大嶋一人他 1996『国分寺市の民家』国分寺市教育委員会

パリノ・サーヴェイ株式会社 2006「武蔵国分寺跡出土骨について」『武蔵国分寺跡発掘調査概報 33』

福田信夫 1996『武蔵国分尼寺Ⅲ－平成６年度発掘調査概報－』国分寺市教育委員会

福田信夫 1997『武蔵国分尼寺Ⅳ－平成７年度発掘調査概報－』国分寺市教育委員会

依田亮一 2013「西元町三丁目所在旧家（金子家）の文化財調査」『武蔵国分寺跡資料館だより』第 15 号　武蔵国分寺跡資料館

抄録

ふ り が な	へいせい25ねんどこくぶんじしまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書　　名	平成25年度国分寺市埋蔵文化財調査年報
編 著 者 名	上敷領　久・中道　誠・依田亮一・河野礼子・梶ヶ山真里
編集・発行機関	国分寺市遺跡調査団（団長:坂詰秀一）・国分寺市教育委員会
所　在　地	〒185-0023 東京都国分寺市西元町１-13-10　武蔵国分寺跡資料館内　TEL 042-300-0073
発 行 年 月 日	平成27（2015）年３月31日
規 格 ／ 部 数	A4判横組1段　47文字×37行　100頁／300部
資 料 の 保 存 問い合わせ先	国分寺市教育委員会　教育部　ふるさと文化財課 〒185-0023　東京都国分寺市西元町1－13－10　武蔵国分寺跡資料館内 TEL：042-300-0073　FAX：042-300-0091 E-mail：bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
武蔵国分寺跡 （第696次）	東京都 国分寺市 東元町	13-214	10・19	35° 41′ 28.7″	139° 28′ 32.4″	20130604 ～ 20130607	13.23	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	集落跡 道路跡	古代	小穴１基			なし		

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
武蔵国分寺跡 （第697次）	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41′ 21.0″	139° 28′ 03.6″	20130612 ～ 20130619	1.06	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	集落跡 道路跡	古代	なし			なし		

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
恋ヶ窪遺跡 （K2-93-1.2）	東京都 国分寺市 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 42′ 08.8″	139° 28′ 08.9″	20140108 ～ 20140117	44.26	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	集落跡 道路跡	縄文時代	竪穴住居１軒			縄文土器		

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
多摩蘭坂遺跡 （K7-12）	東京都 国分寺市 内藤	13-214	7	35° 41′ 42.8″	139° 27′ 22.1″	20130627 ～ 20130710	26.98	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	集落跡 道路跡	旧石器時代	なし			なし		

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
殿ヶ谷戸北遺跡 (K20-6-1.2)	東京都 国分寺市 南町	13-214	20	35° 41′ 59.5″	139° 29′ 12.8″	①20130708 ～20130731 ②20131111 ～20131119	71.98	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	集落跡 道路跡	旧石器 時代	礫群 2箇所			石器		

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
殿ヶ谷戸遺跡 (K21-14)	東京都 国分寺市 南町	13-214	21	35° 41′ 57.3″	139° 29′ 06.4″	20130902 ～ 20130909	40.03	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	集落跡 道路跡	縄文時代	なし			縄文土器		

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
殿ヶ谷戸遺跡 (K21-15)	東京都 国分寺市 南町	13-214	21	35° 41′ 52.9″	139° 29′ 01.9″	20140303 ～ 20140311	18.47	個人宅造
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	集落跡 道路跡	縄文時代	なし			縄文土器 石器		

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
武蔵国分寺跡 (第695次)	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41′ 34.3″	139° 28′ 26.7″	20130501 ～ 20130617	247.99	賃貸住宅 建設
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	集落跡 道路跡	古代	掘立柱建物３棟 竪穴住居４軒 土坑４基 土坑墓６基 性格不明遺構10基 小穴多数			土師器 須恵器 土師質土器 陶製品 瓦塼類 銭貨 骨	太衆院に比定される大型掘立柱建物の全形が判明。武蔵国分寺伽藍地内では初めての中世墓を発見。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
武蔵国分寺跡 (第699次)	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41′ 32.5″	139° 28′ 08.4″	20140206 ～ 20140328	29.74	学術目的
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	集落跡 道路跡	古代	溝２条 道路跡１条 性格不明遺構１基 小穴１基			須恵器 土師質土器 瓦	幅12mの東山道武蔵路跡を検出。側溝は僧寺寺院地西側区画溝としての性格を合わせ持つと想定される。	

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
殿ヶ谷戸北遺跡 (K20-5)	東京都 国分寺市 南町	13-214	20	35° 42′ 00.1″	139° 29′ 12.4″	20130509 ～ 20130607	73.50	集合住宅建設
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	集落跡	旧石器時代	石器集中部１箇所 礫群４箇所			石器・礫		
	道路跡							

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
No.29遺跡 (K29-2)	東京都 国分寺市 南町	13-214	29	35° 42′ 00.8″	139° 29′ 05.5″	20140311 ～ 20140325	8.59	駐車場建設
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	集落跡	旧石器時代	なし			礫		
	道路跡							

平成 25 年度　国分寺市埋蔵文化財調査年報

発　行　日　　平成 27 年（2015）3 月 31 日

編　著　者　　国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会

発　行　者　　国分寺市教育委員会 教育部 ふるさと文化財課

〒 185 － 0023　東京都国分寺市西元町 1 － 13 － 10

武蔵国分寺跡資料館内

TEL 042 － 300 － 0073

印 刷 会 社　　株式会社プリントショップ国分寺

紙質

表紙：アートポスト　菊版　125kg　本文：マットコート　A 判　44.5kg

表紙写真：殿ヶ谷戸北遺跡第６次調査Ｂトレンチ遺物出土状況

令和４年(2022) ３月２日　デジタル版作成